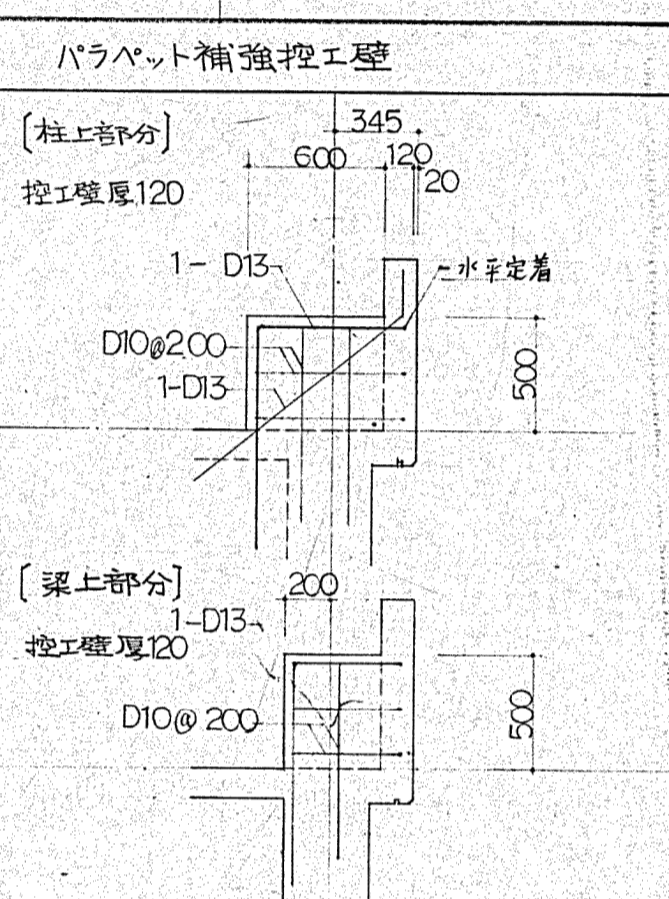
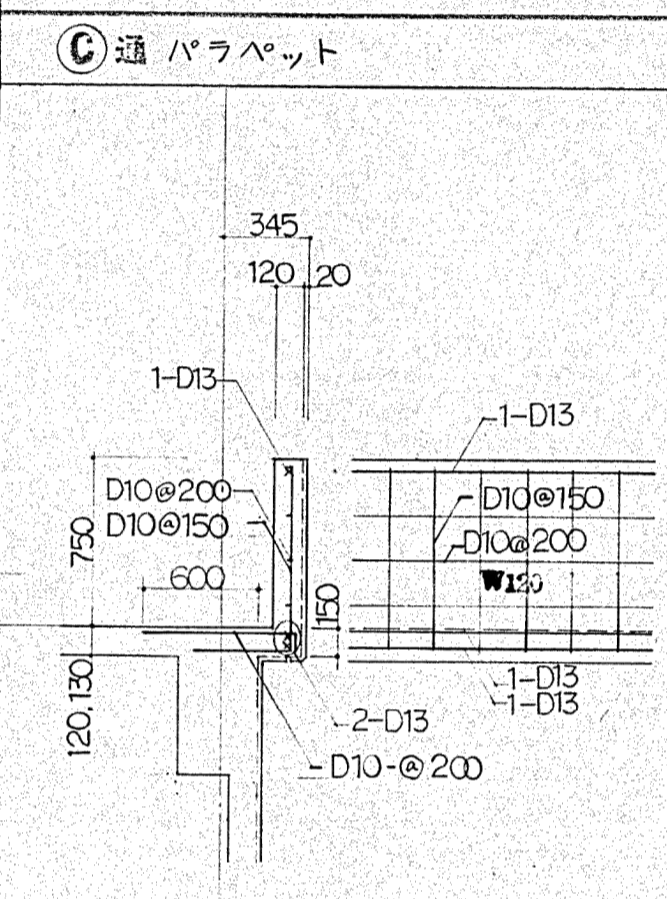
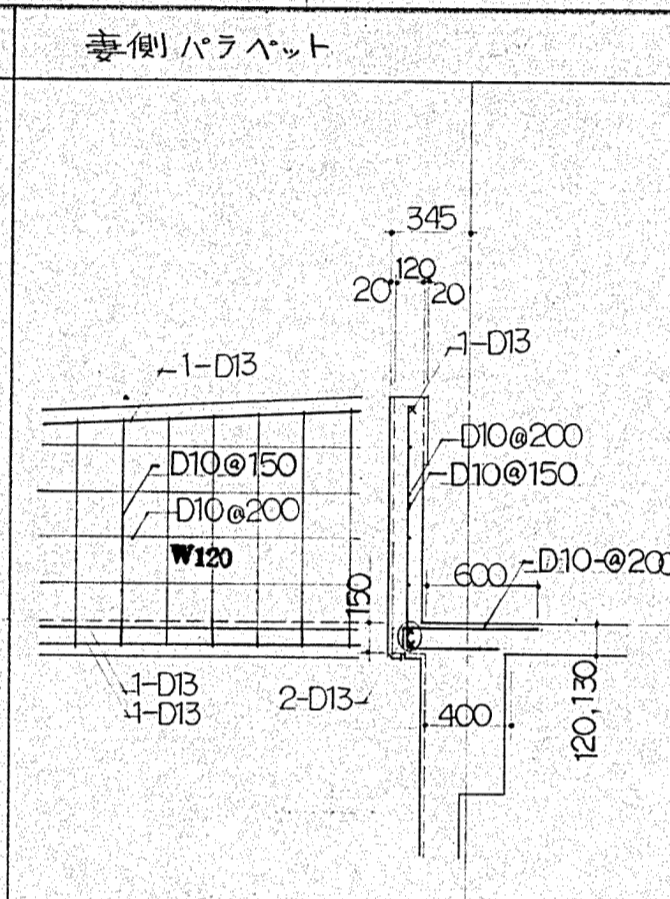
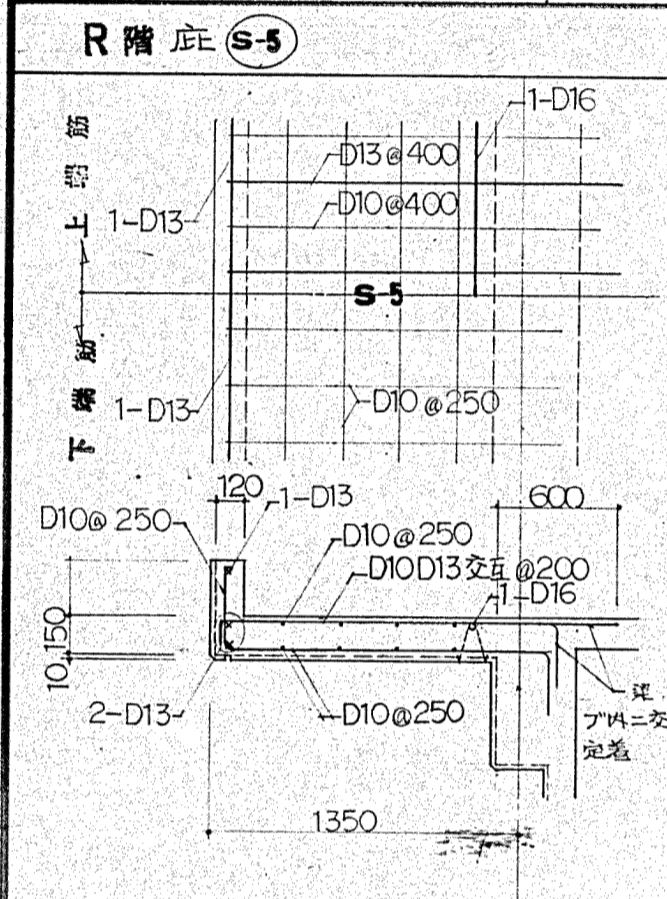
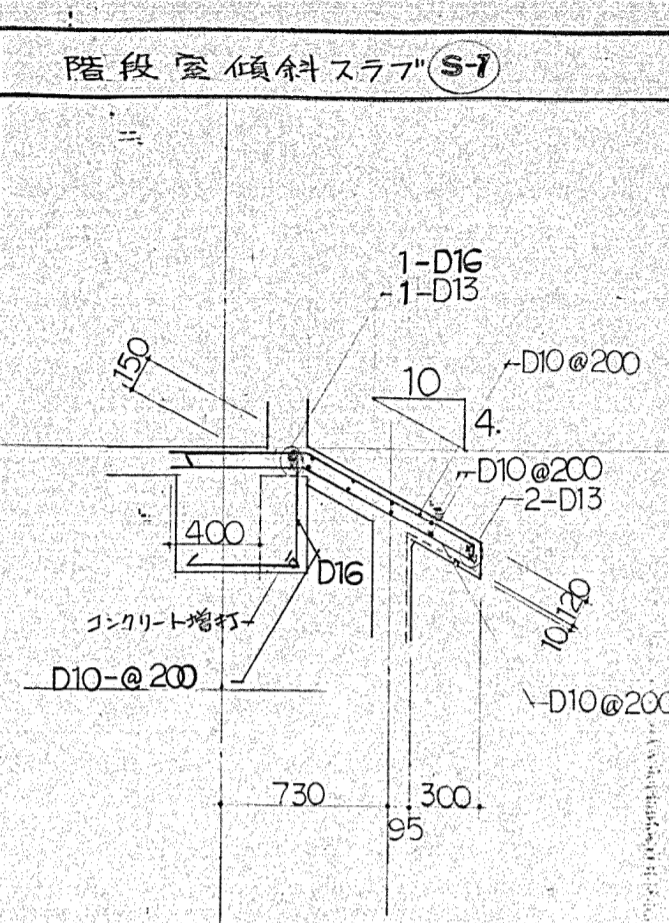
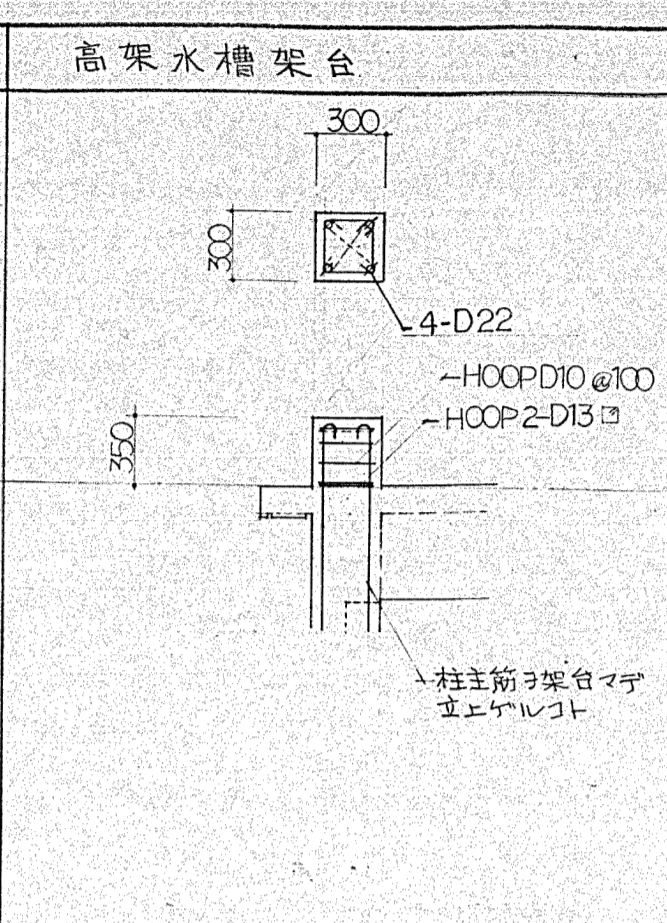
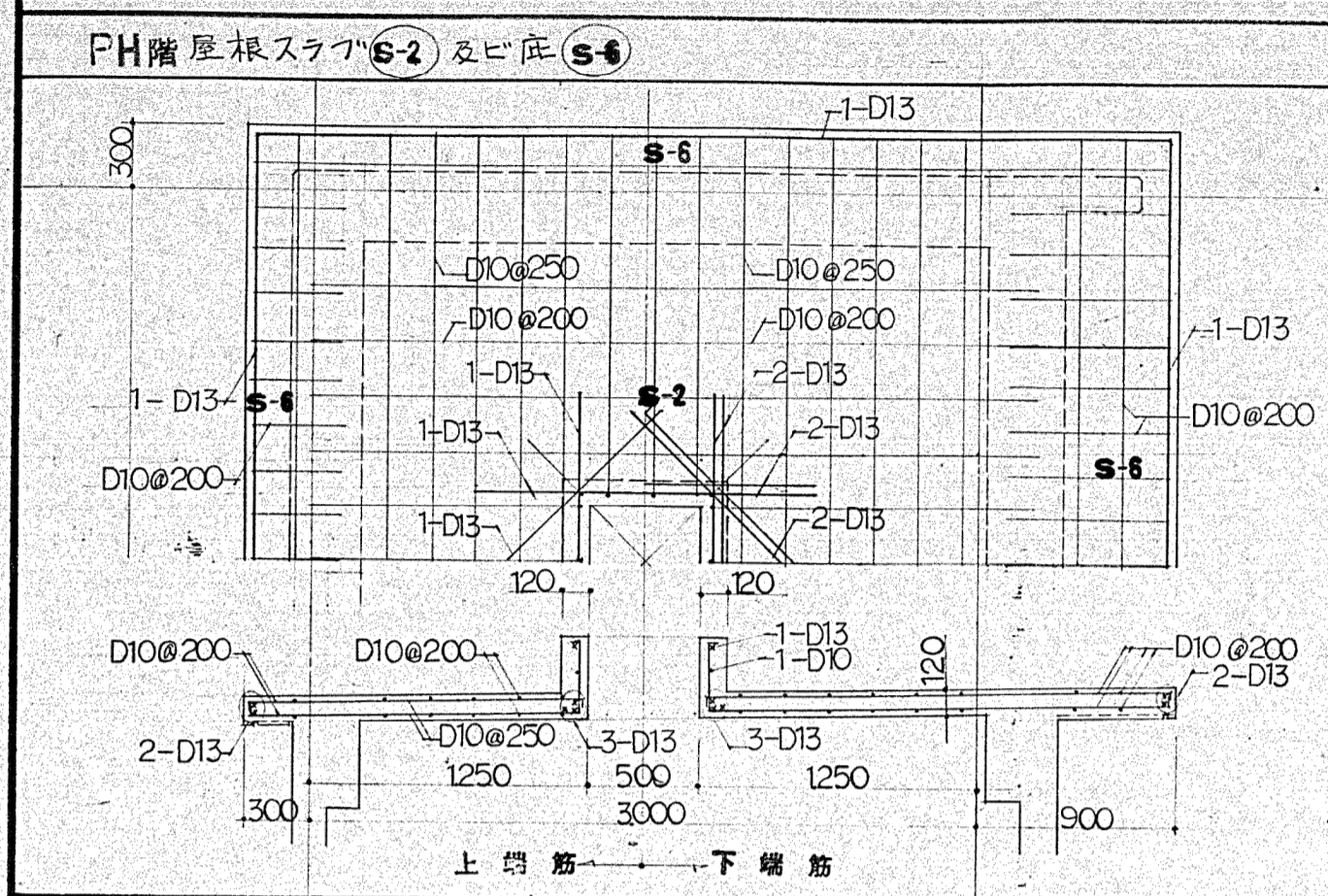
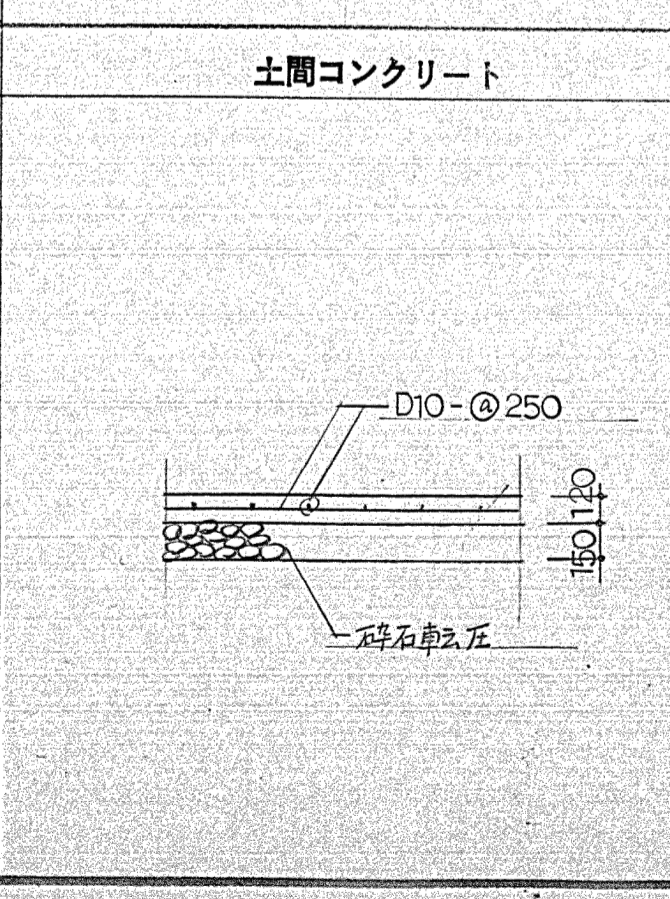
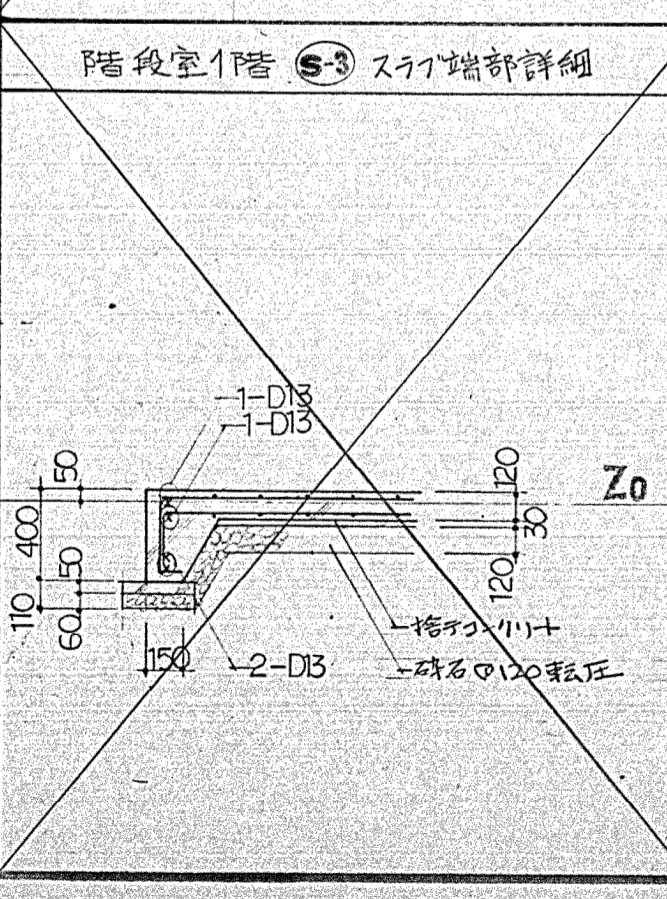
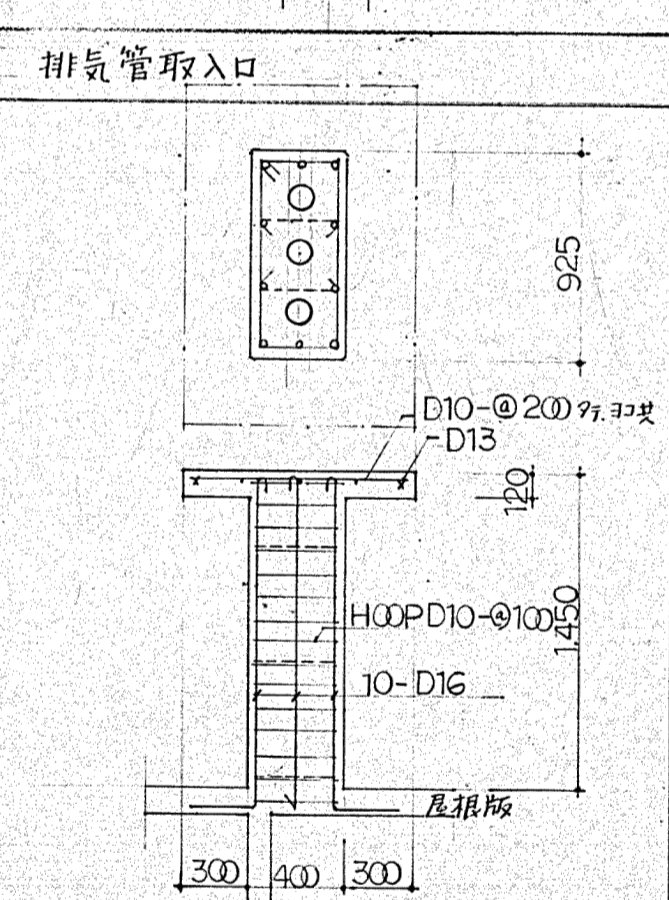
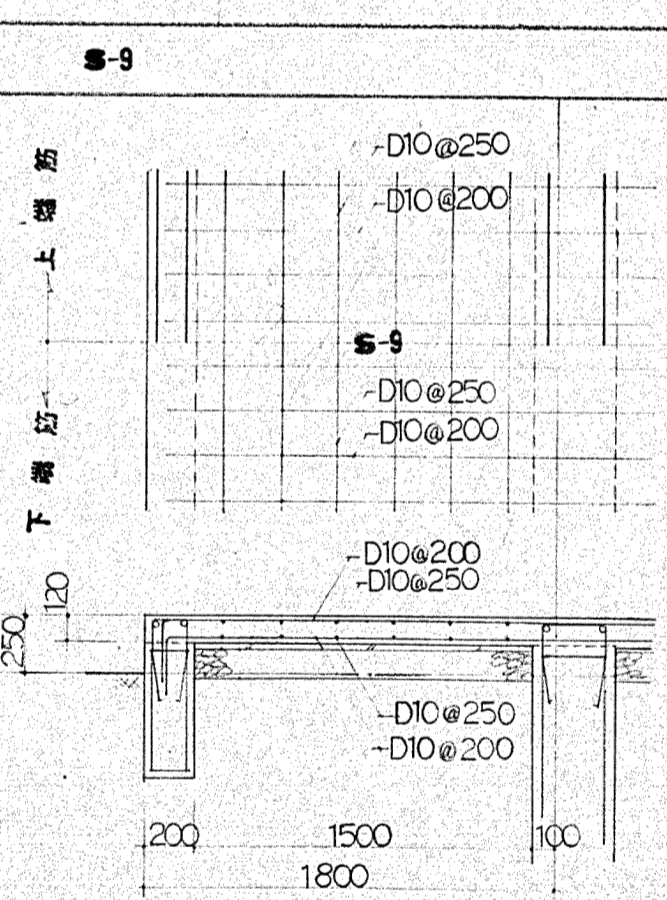
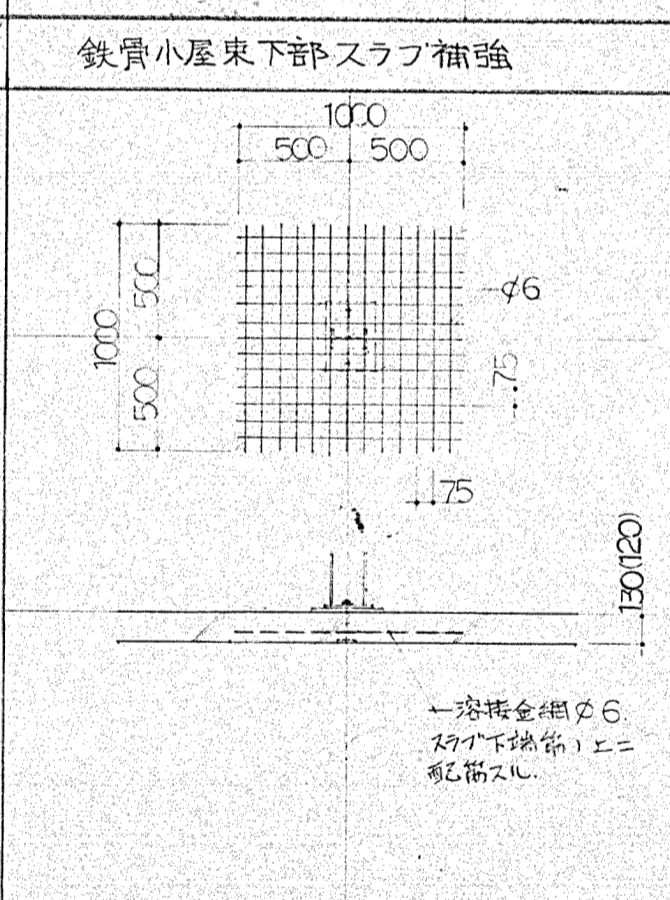
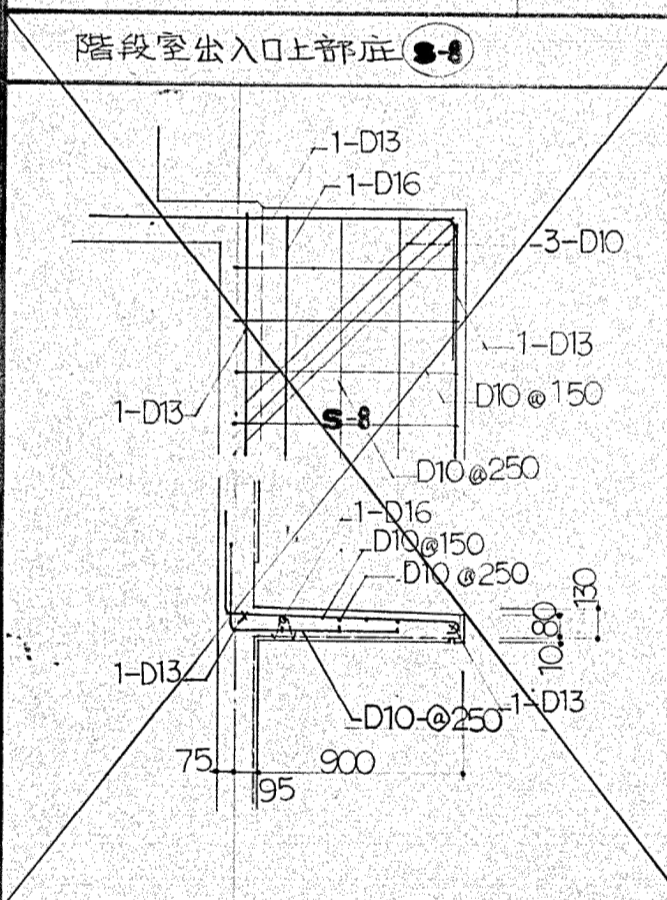
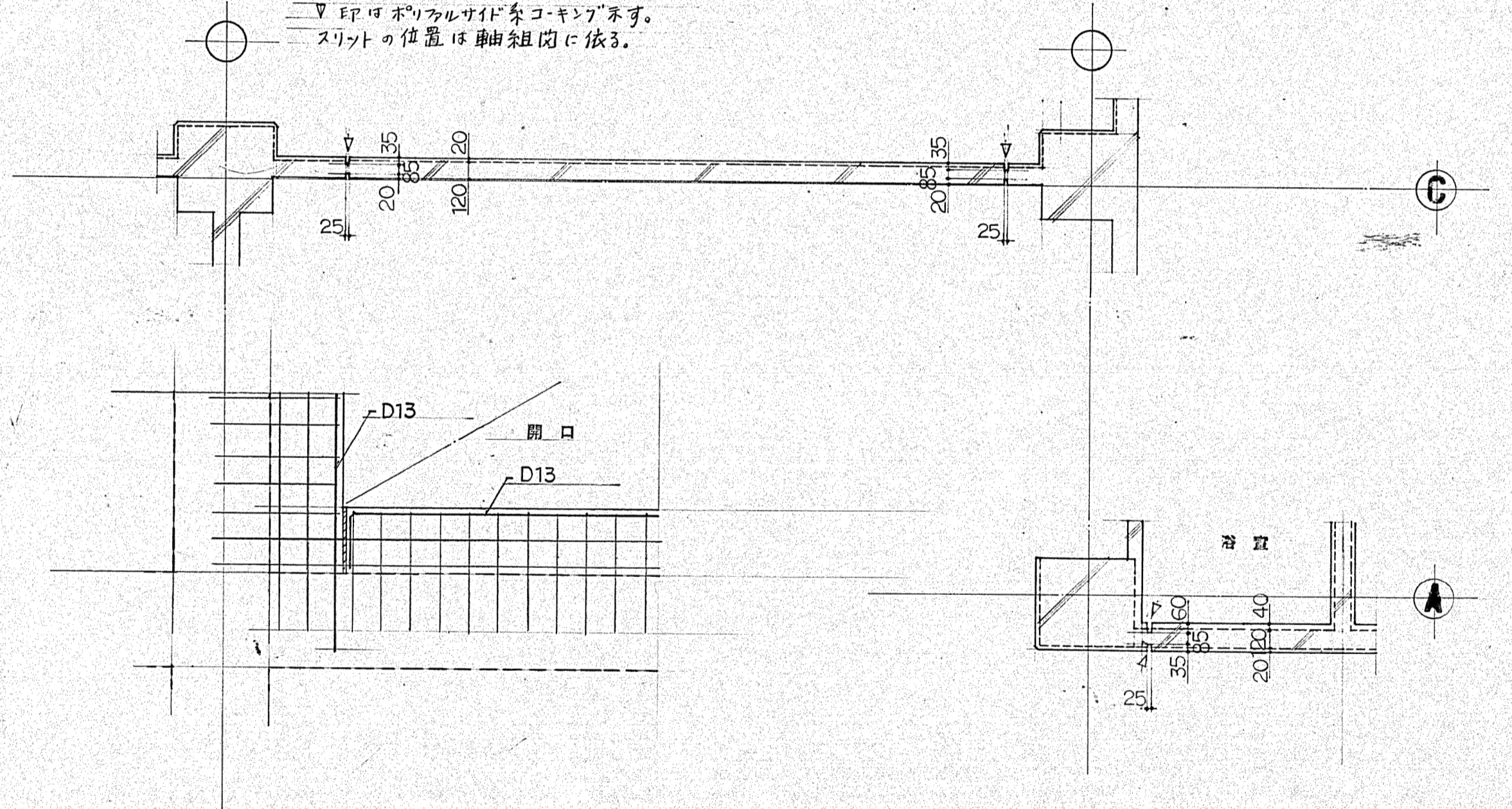


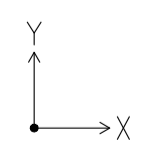
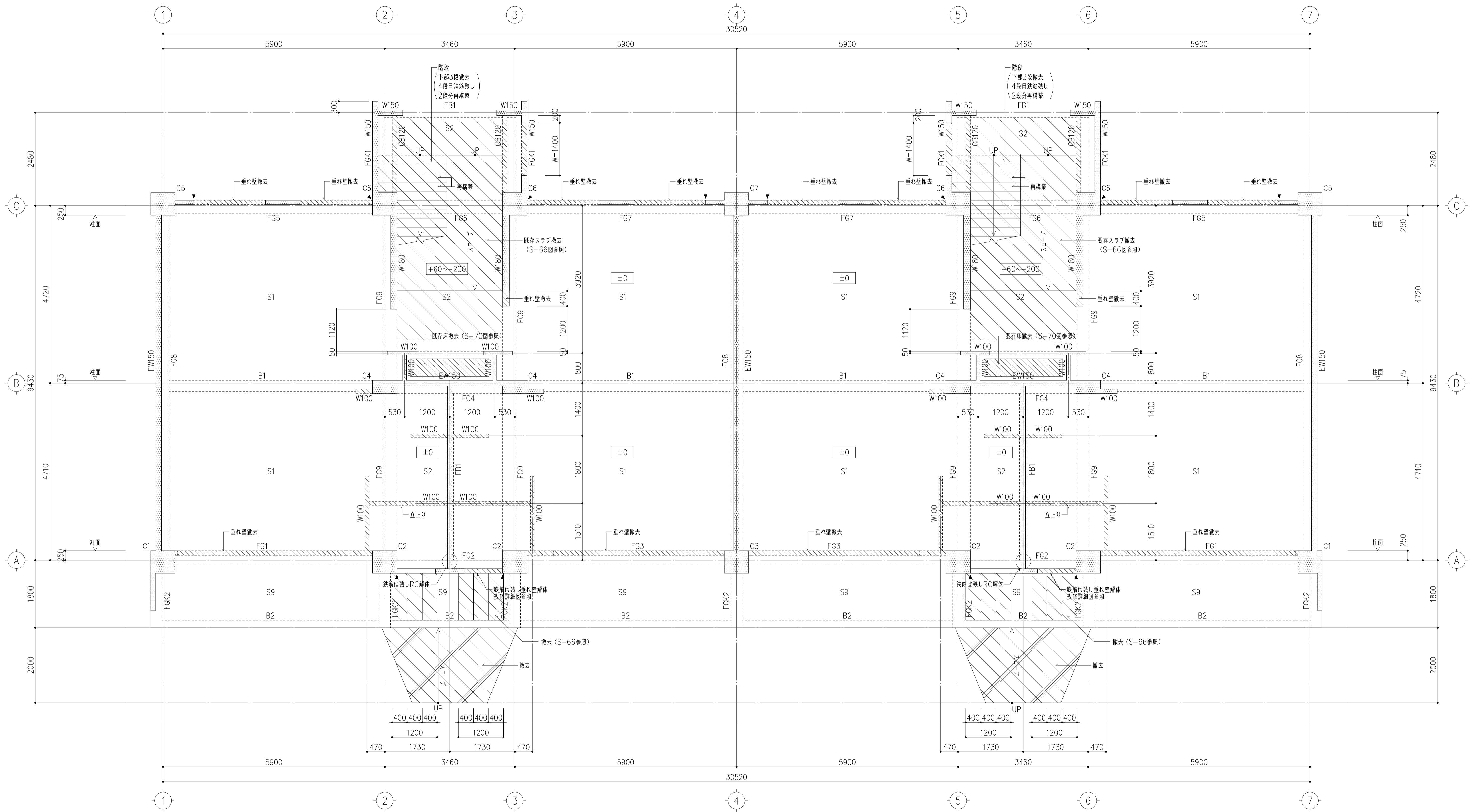
壁配筋リスト 1/30
 註) 中止筋 D10-@100

| | CB | W100 | W120 | W150 | E W150 | W180 | E W180 |
|-------|-------------------|----------------|----------------|---------------|---------------|-----------------------------------|----------------|
| 縦筋 横筋 | 120 | 100 | 120 | 150 | 150 | 180 | 180 |
| 縦筋 横筋 | 17-D13 D10@400 | D10@250 シヤル | D10@200 シヤル | D10@200 4F | D10@150 4F | 7F筋 D13@150 コシ筋 D10@200 シヤル | D10@150 シヤル |
| 開口部 | ナシ | 1-D13 | 1-D13 | 2-D13 | 4-D13 | 2-D16 | 4-D13 |
| 補筋 | ヨコ | 1-D13 | 1-D13 | 2-D13 | 4-D13 | 2-D16 | 4-D13 |
| 斜筋 | — | 1-D13 | 1-D13 | 1-D13 | 2-D13 | 2-D13 | 2-D13 |



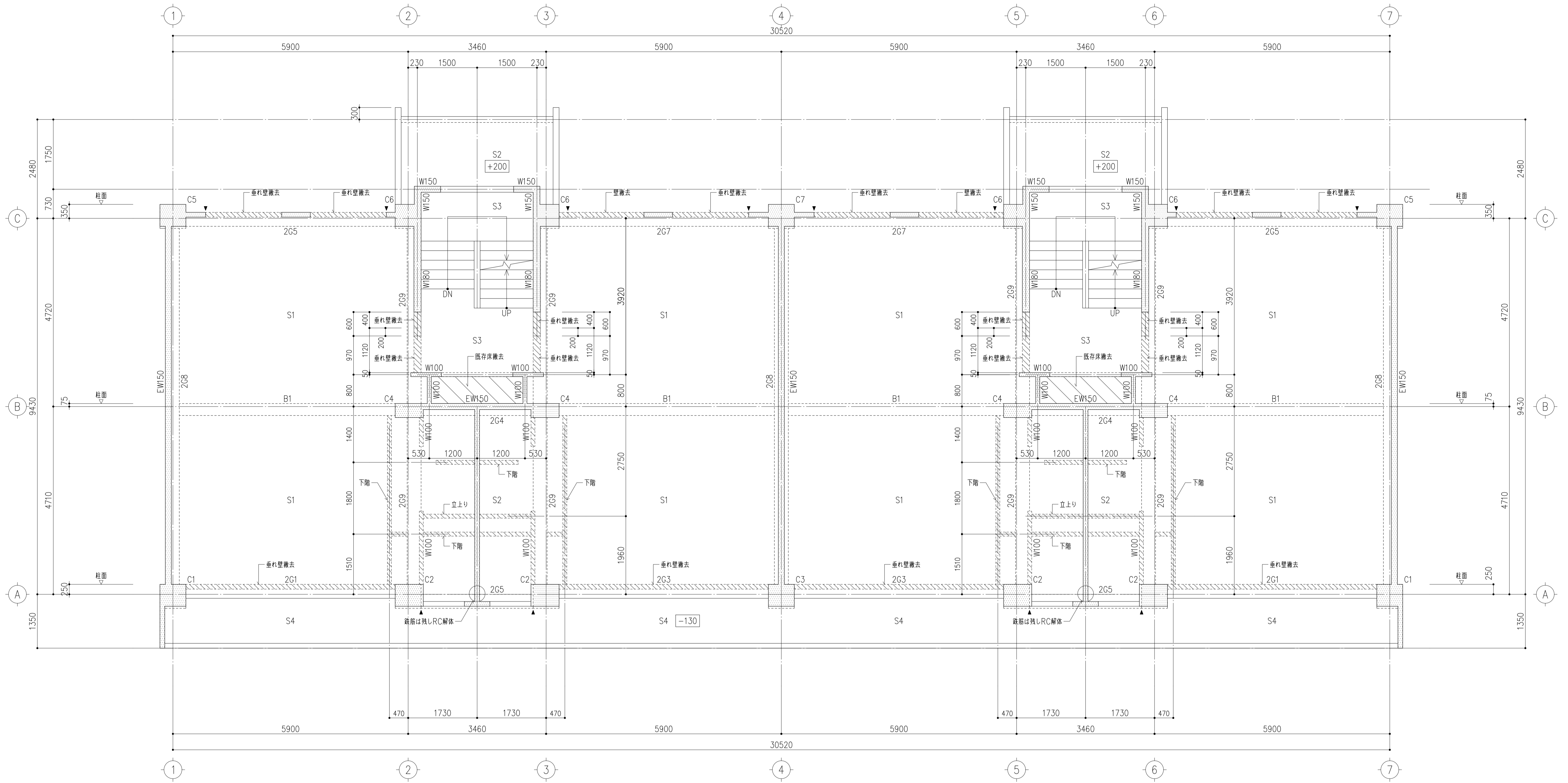
挿入スリット要領 1/30





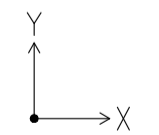
1階床梁伏図 (既存解体・撤去)

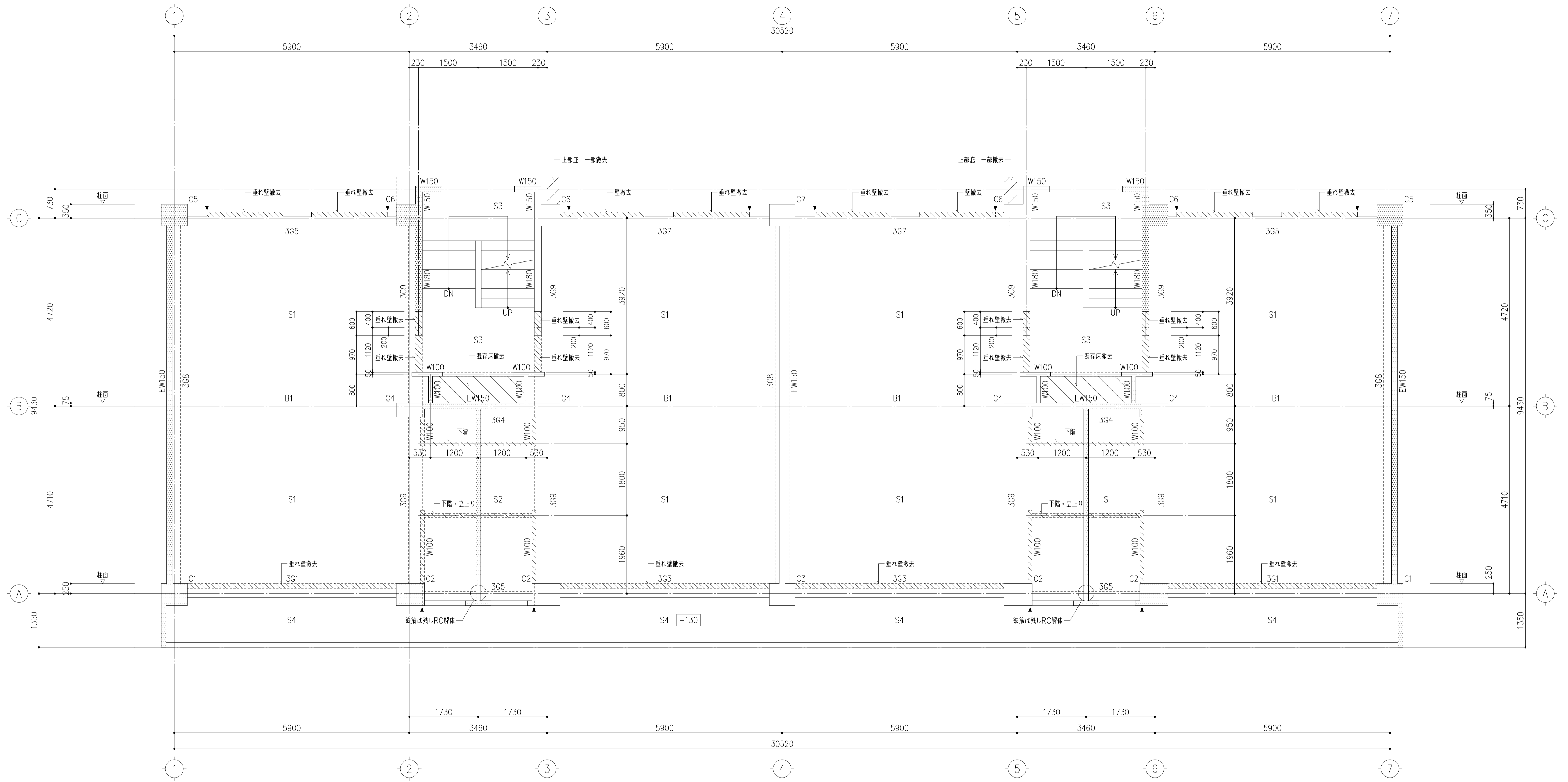
- 特記外
1. 特記なき壁は、W120とする。
 2. [Hatched pattern]: 既存壁撤去
 3. [Dotted pattern]: 既存壁
 4. ▼印は、既存構造スリットを示す。
 5. 撤去壁及び改修壁については、軸組図を参照のこと。



2階床梁伏図 (既存解体・撤去)

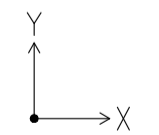
- 特記外
1. 特記なき壁は、W120とする。
 2. : 既存壁撤去
 : 既存壁
 3. ▼印は、既存構造スリットを示す。
 4. 撤去壁及び改修壁については、軸組図を参照のこと。

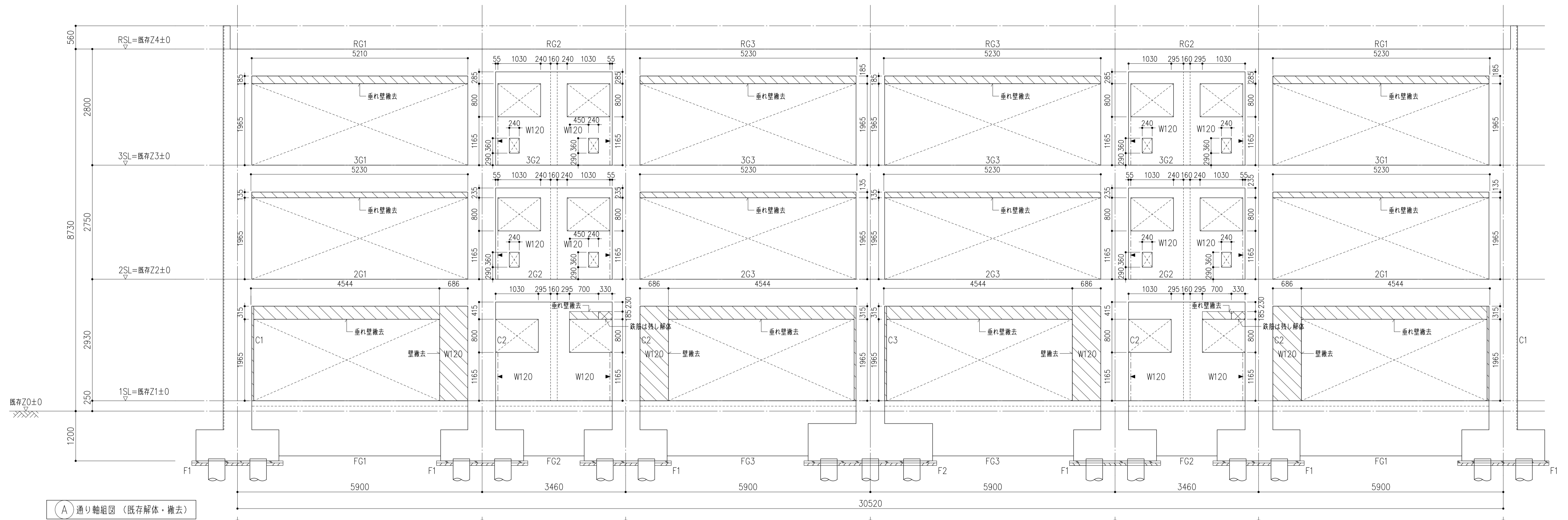




3階床梁伏図 (既存解体・撤去)

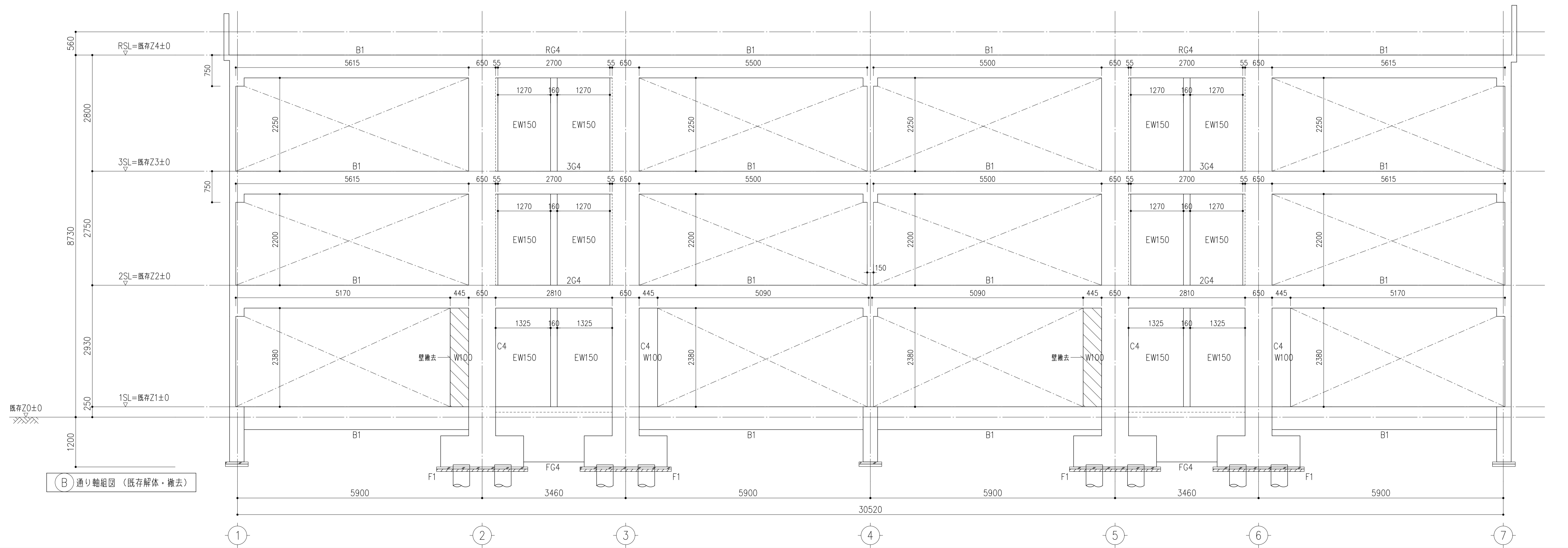
- 特記外
1. 特記なき壁は、W120とする。
 2. : 既存壁撤去
 : 既存壁
 3. ▼印は、既存構造スリットを示す。
 4. 撤去壁及び改修壁については、軸組図を参照のこと。



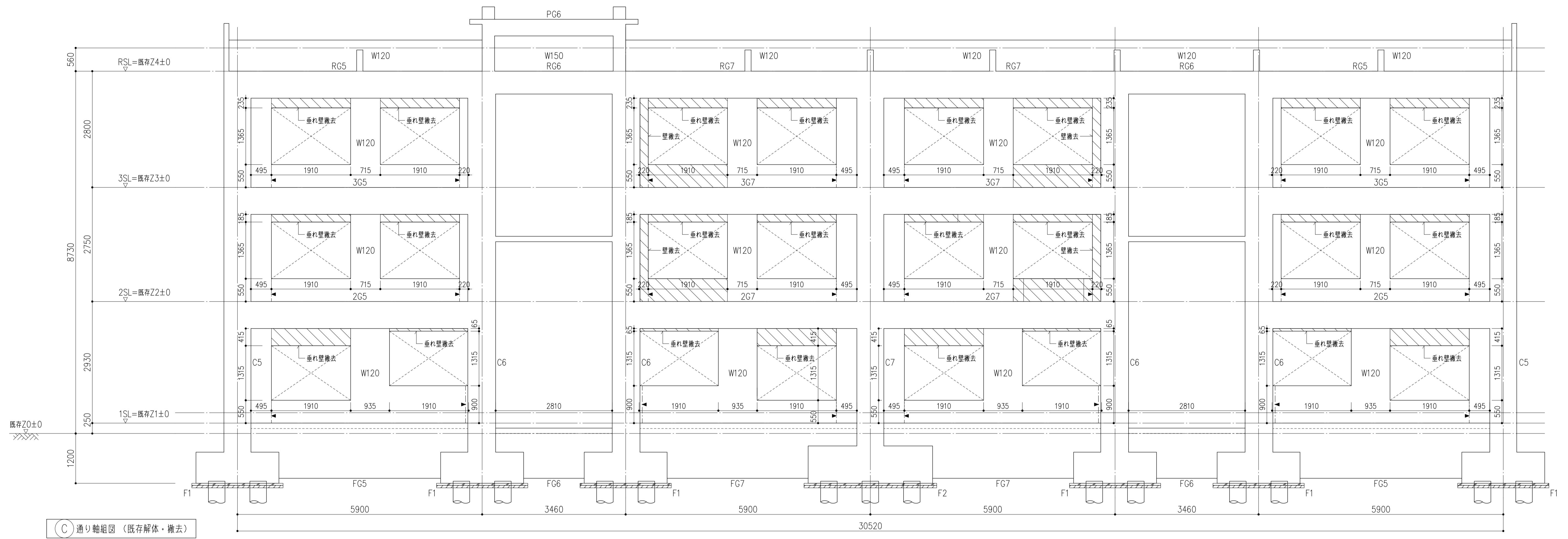


(A) 通り軸組図 (既存解体・撤去)

特記外 1. : 印は、鉄筋及びコンクリートとも撤去を示す。
 : 印は、鉄筋は残し解体を示す。
2. : 印は、既存構造スリットを示す。

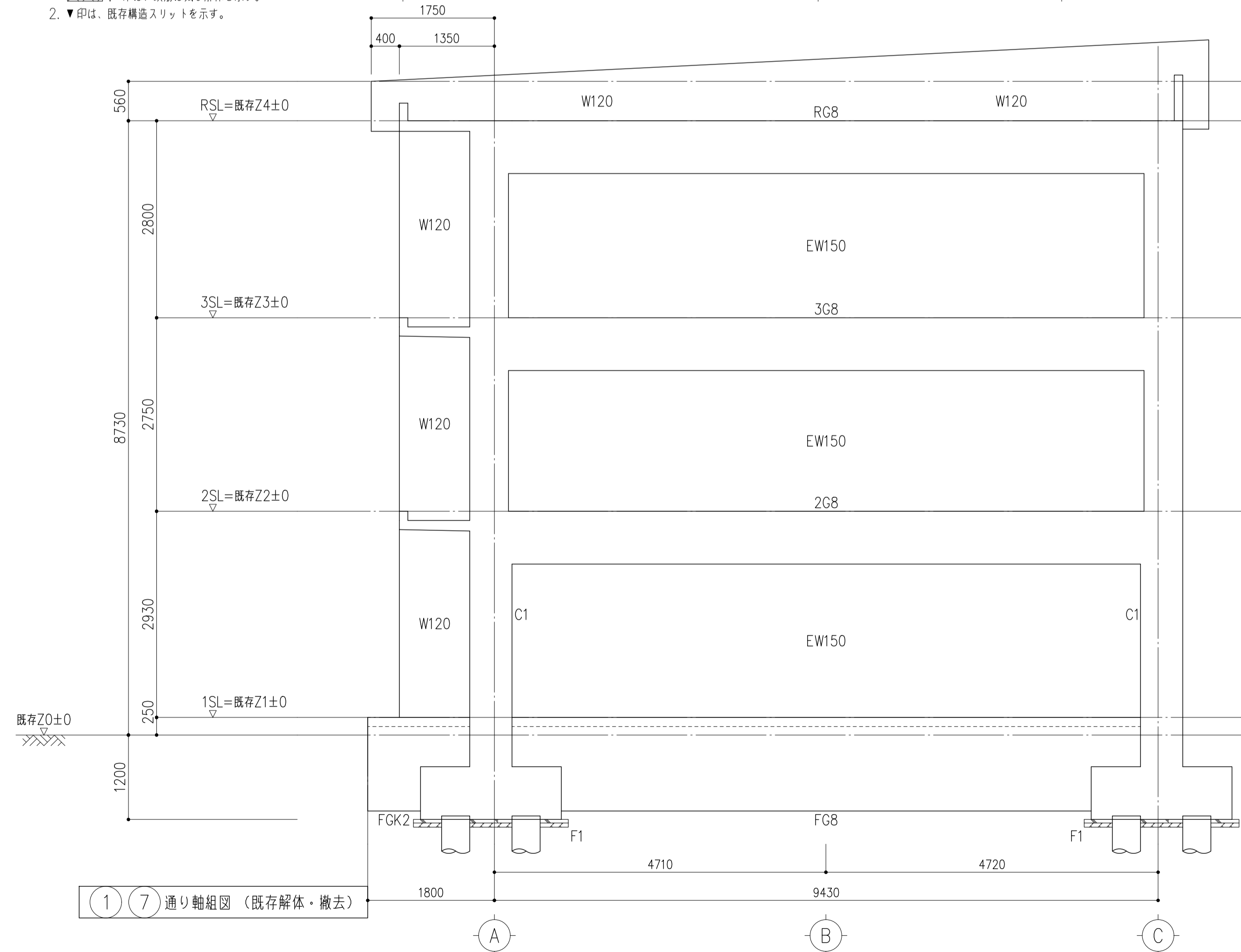


(B) 通り軸組図 (既存解体・撤去)

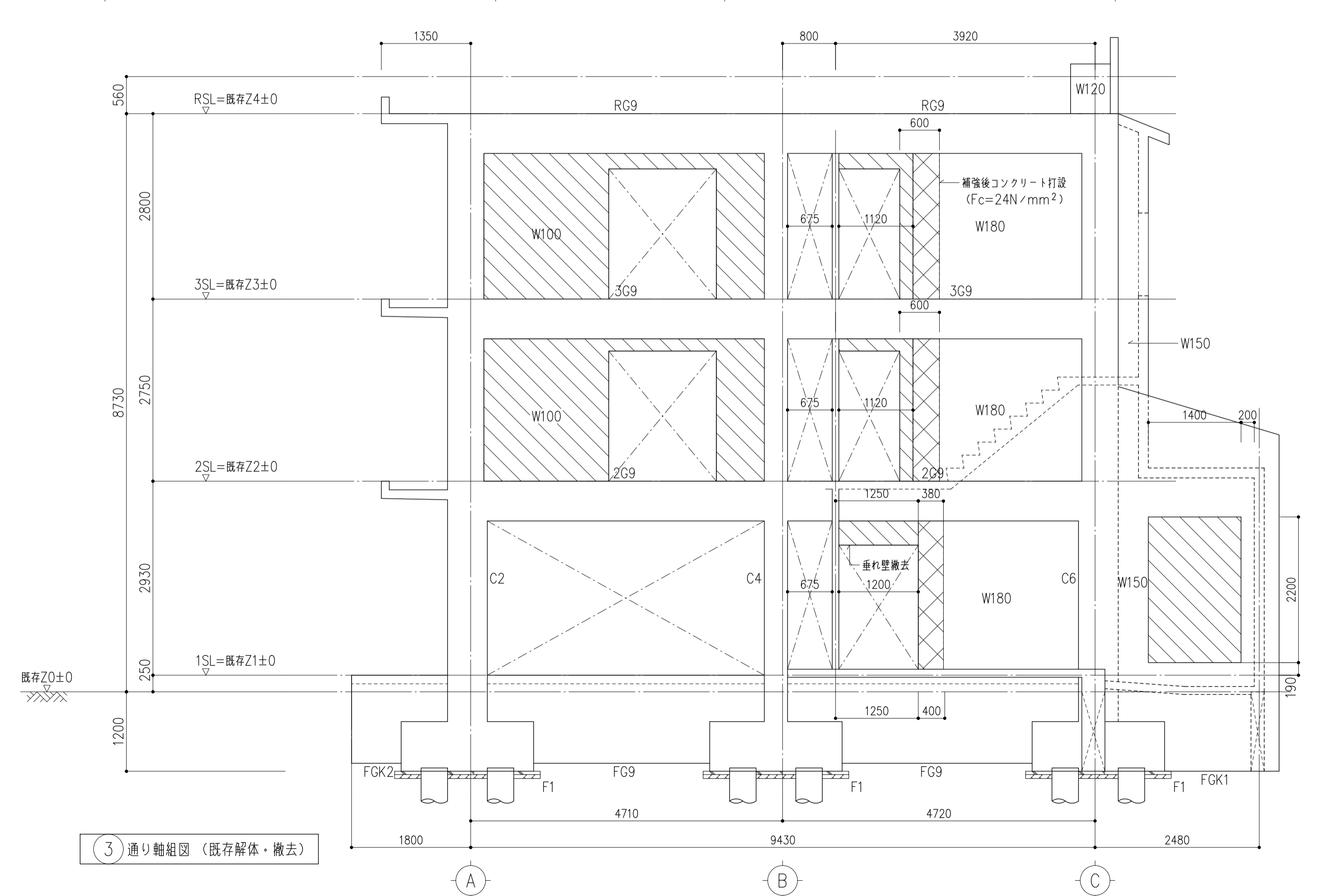


(C) 通り軸組図 (既存解体・撤去)

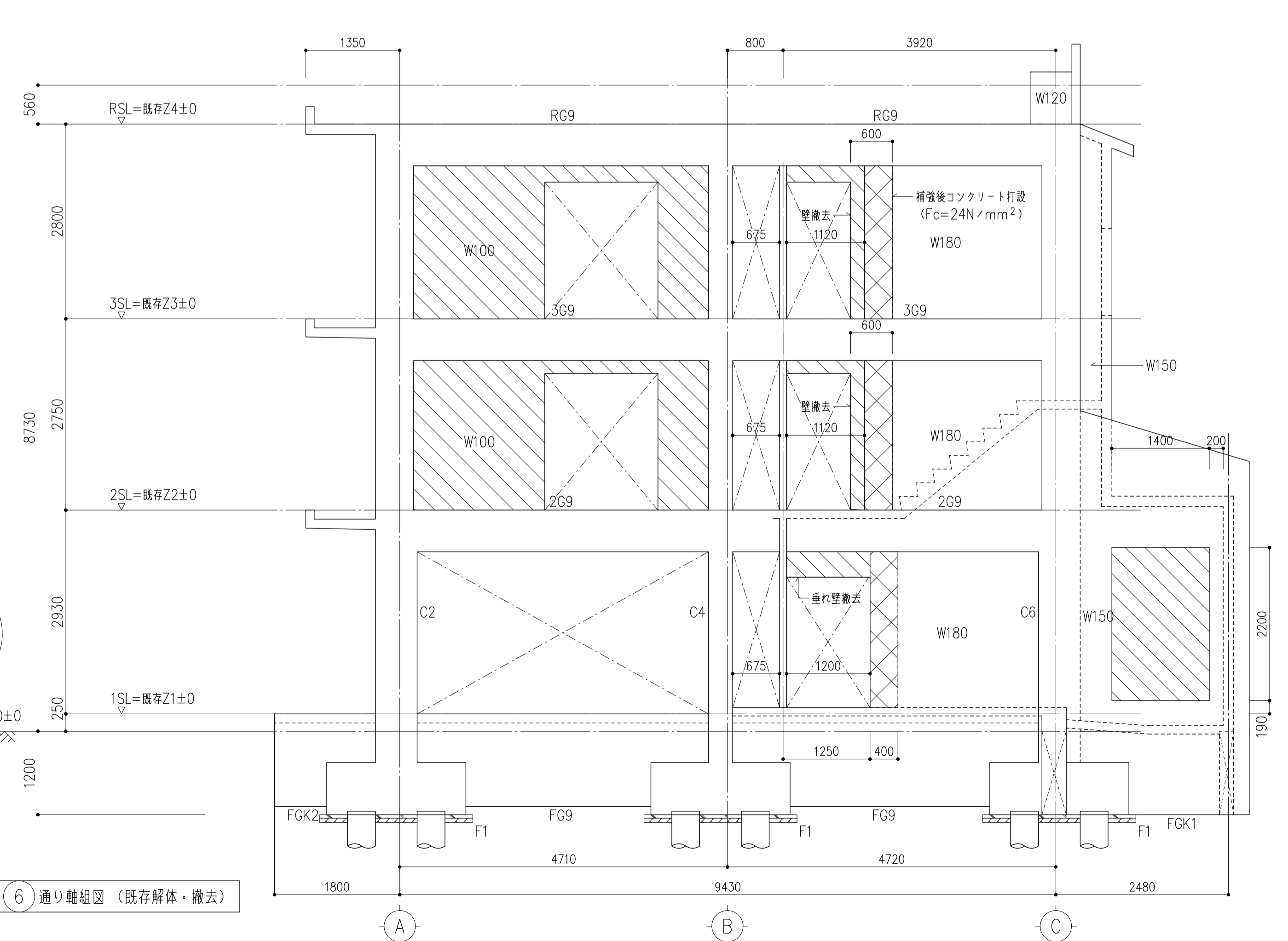
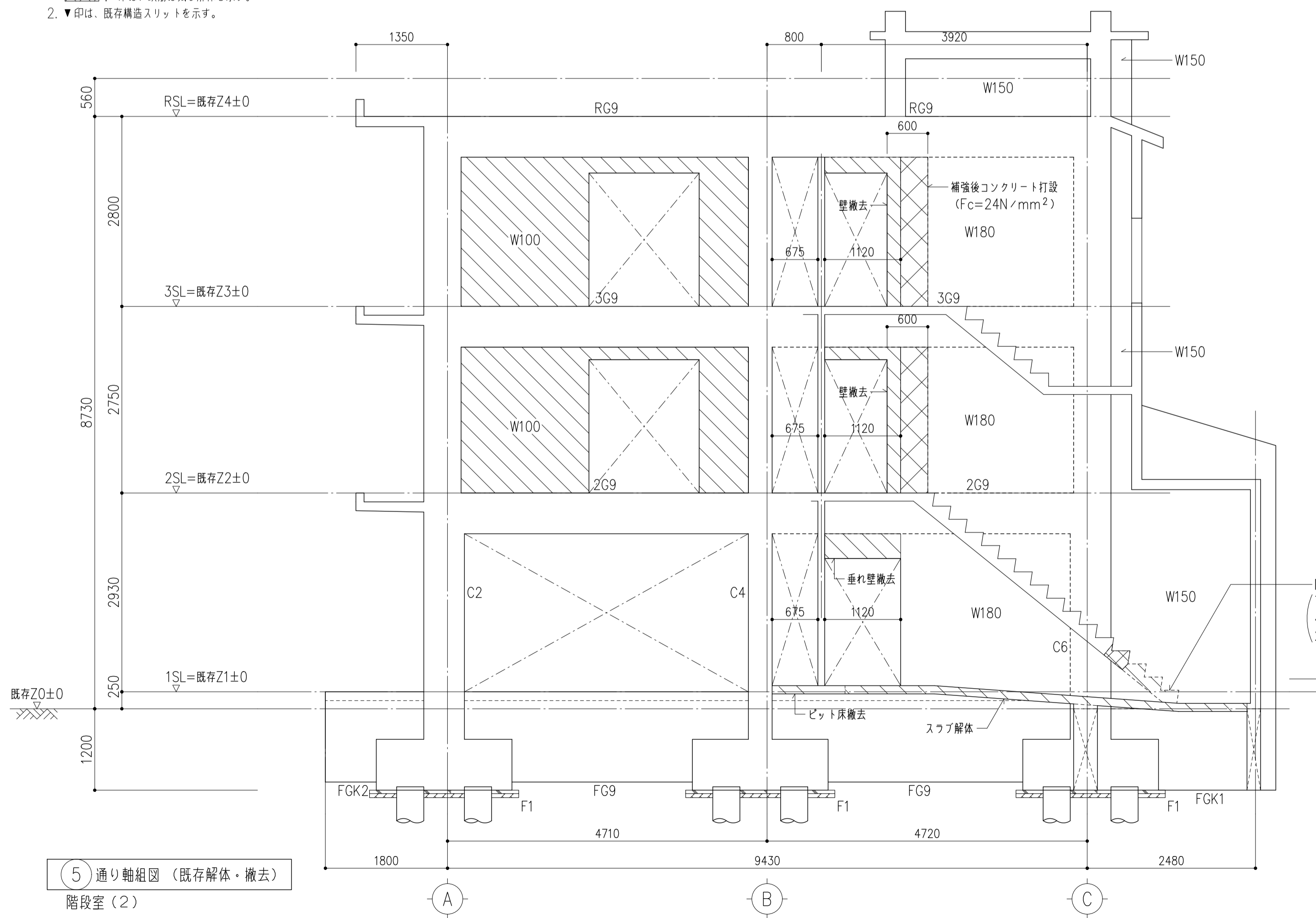
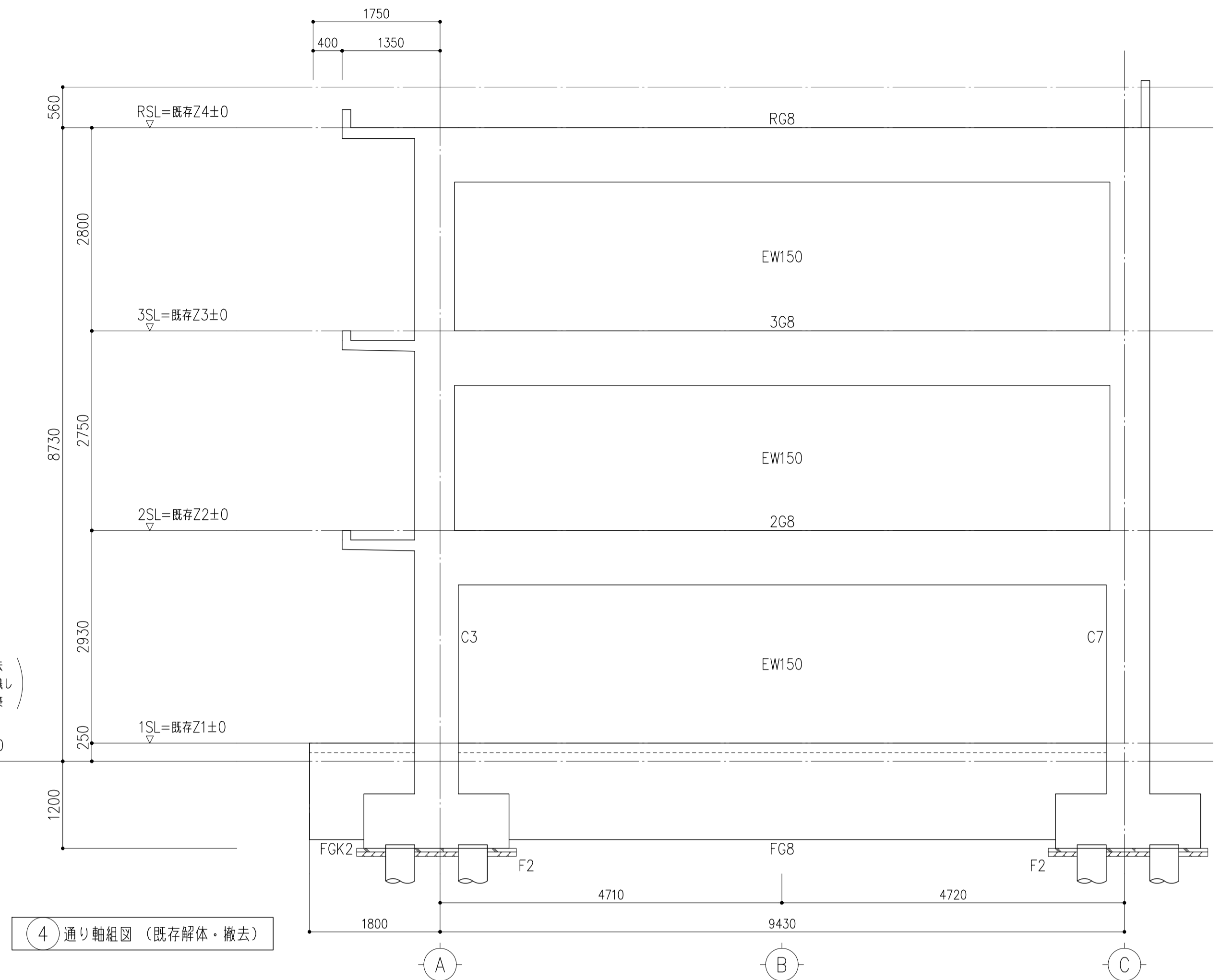
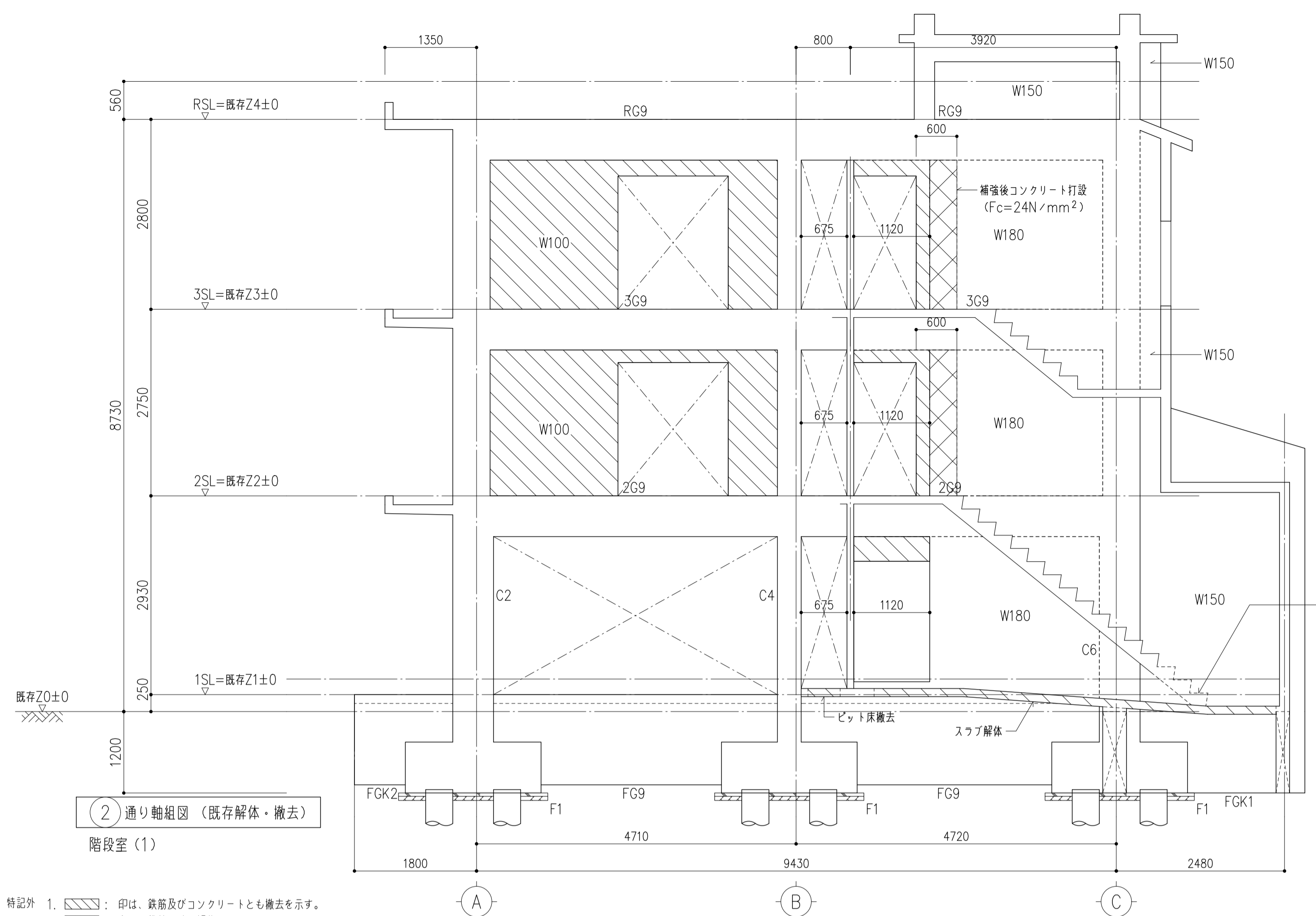
特記外 1. 印は、鉄筋及びコンクリートとも撤去を示す。
 2. 印は、鉄筋は残し解体を示す。
 3. 印は、既存構造スリットを示す。



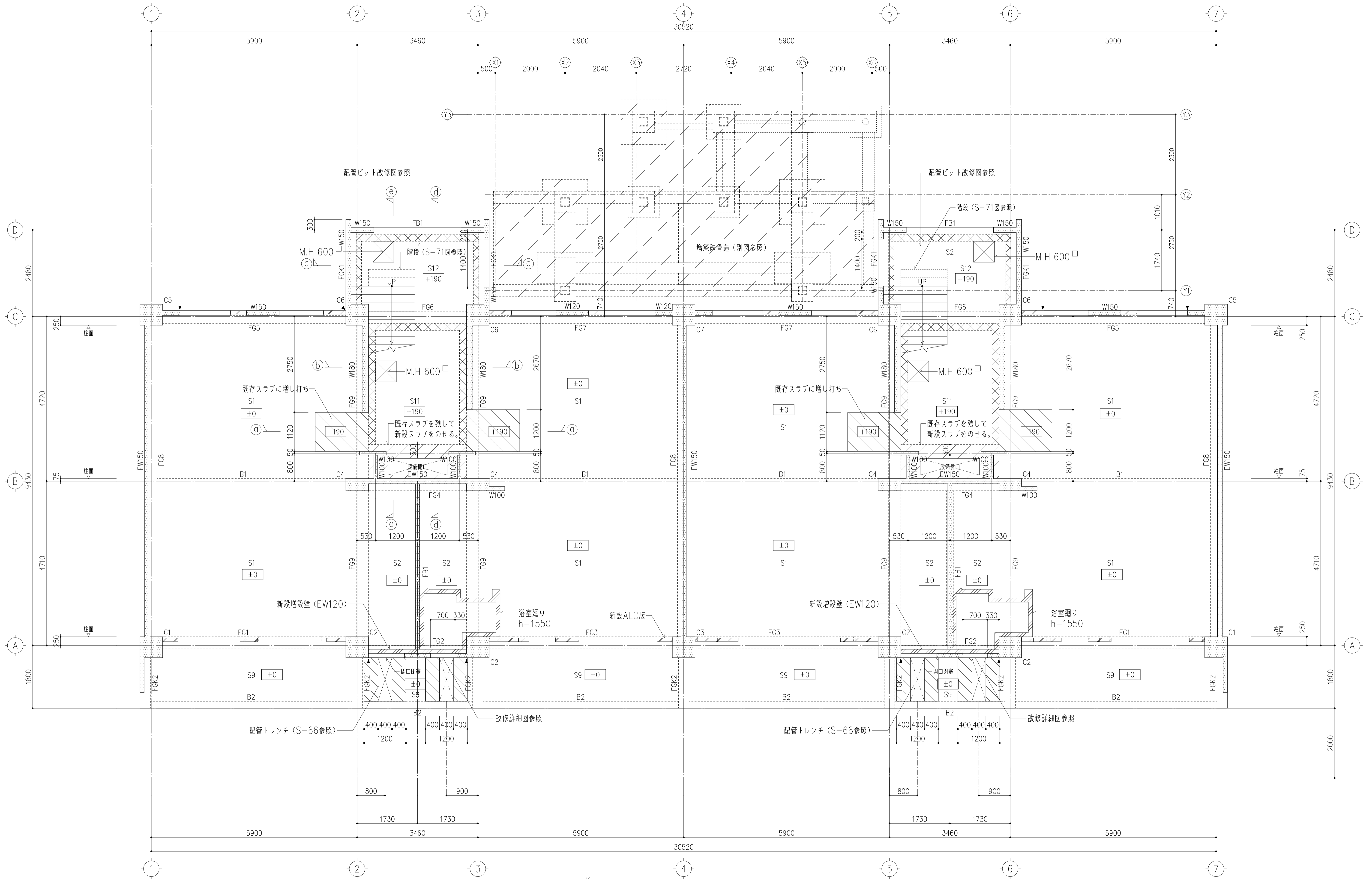
(1) 通り軸組図 (既存解体・撤去)



(3) 通り軸組図 (既存解体・撤去)

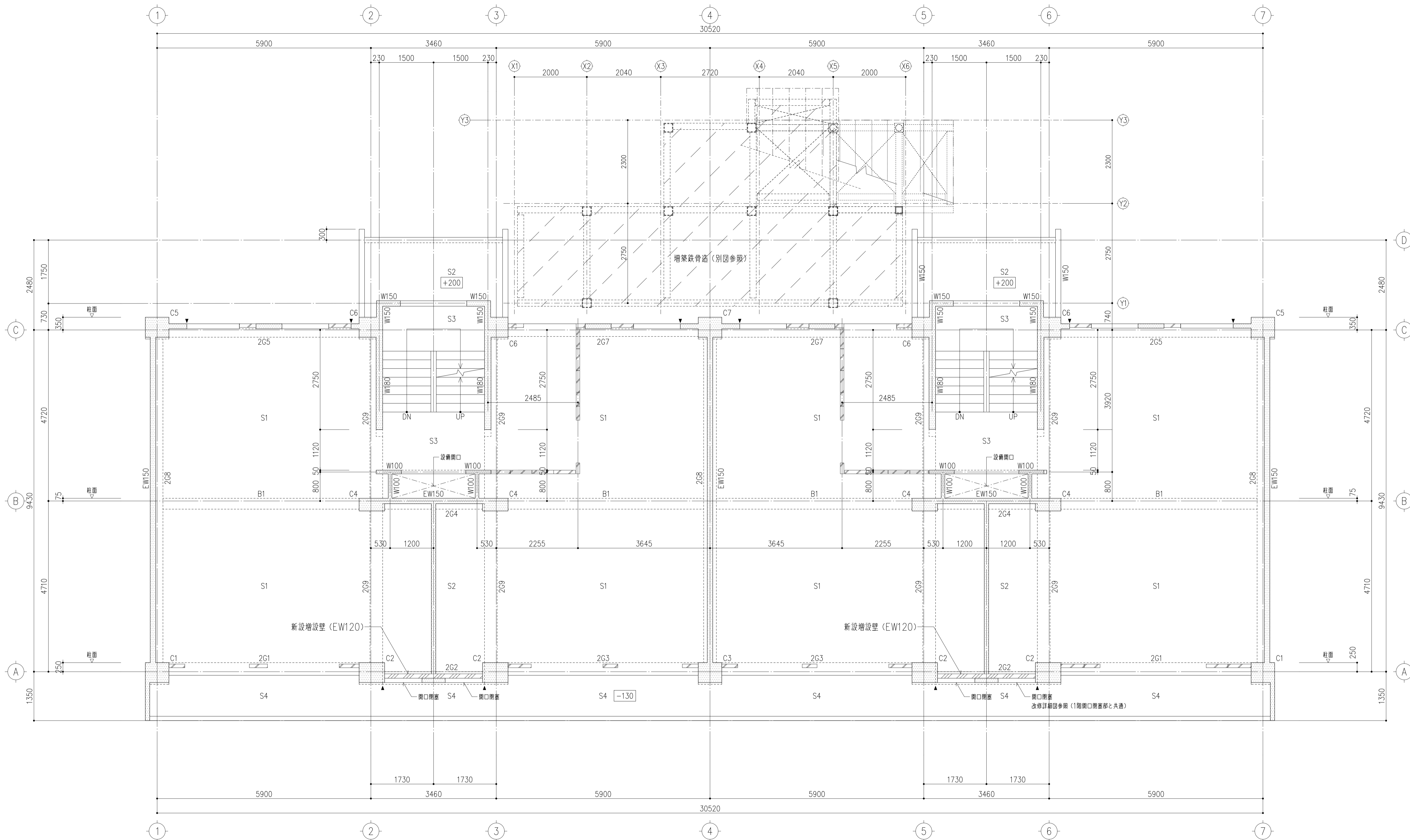


特記外 1. 印は、鉄筋及びコンクリートとも撤去を示す。
 2. 印は、鉄筋は残し解体を示す。
 3. 印は、既存構造スリットを示す。



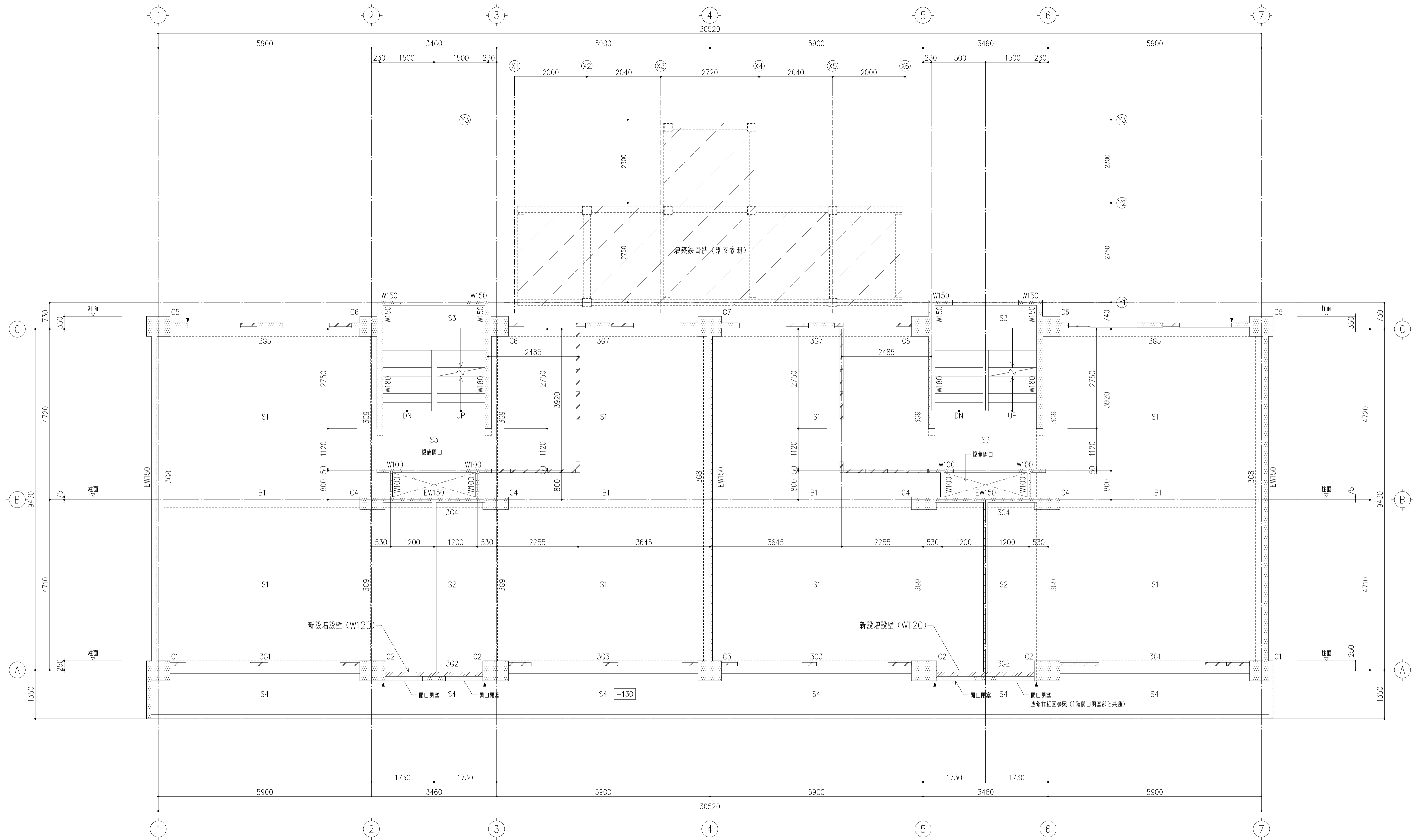
1階床梁伏図 (改修図)

- 特記外
1. 特記なき壁は、W120とする。
 2. □内数値は、1SLからの床コンクリート天端を示す。
 3. 既存地中梁天端レベルは、1SL-130とし、
既存FG-6, 既存FGK-1, 既存FB-1天端レベルは、1SL-250とする。
 4. ▼印は、構造スリット(既存壁)を示す。
 5. : 新設RC壁 (W120)
 : 新設ALC板 (t=100)
 : 開口



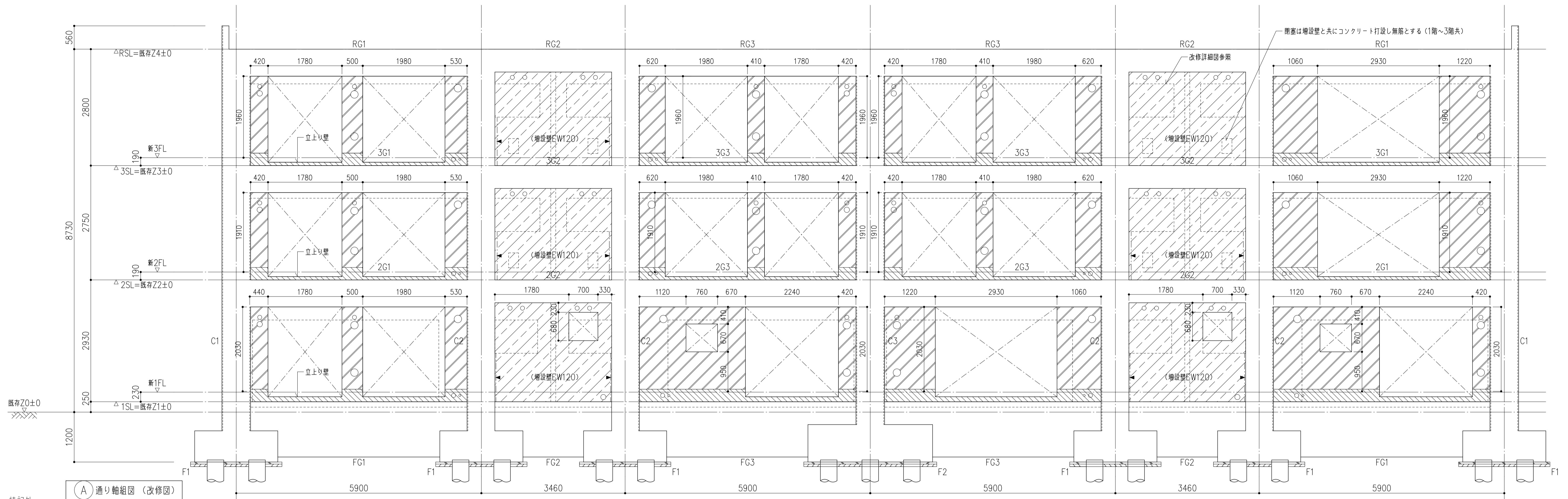
2階床梁伏図 (改修図)

- 特記外
1. 特記なき壁は、W120とする。
 2. 内数値は、2SLからの床コンクリート天端を示す。
 3. ▼印は、構造スリット (既存壁) を示す。
 4.
 - 印は、新設RC壁 (W120)
 - 印は、新設ALC版 t=100
 - 印は、開口

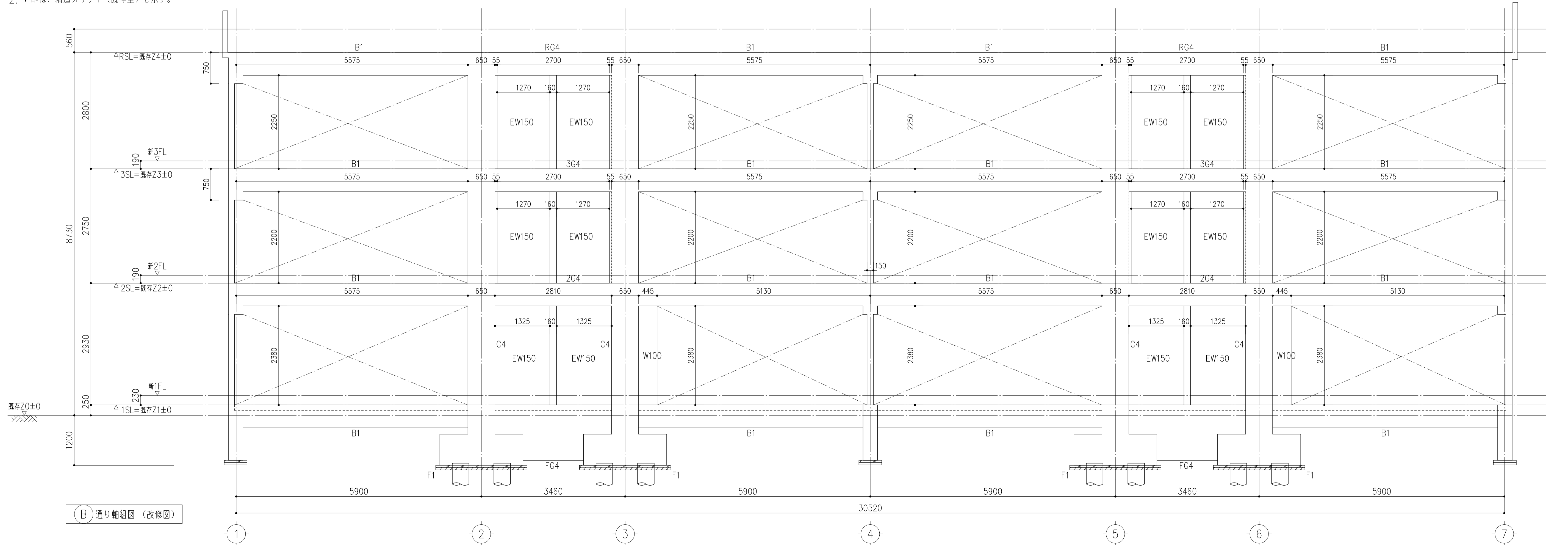


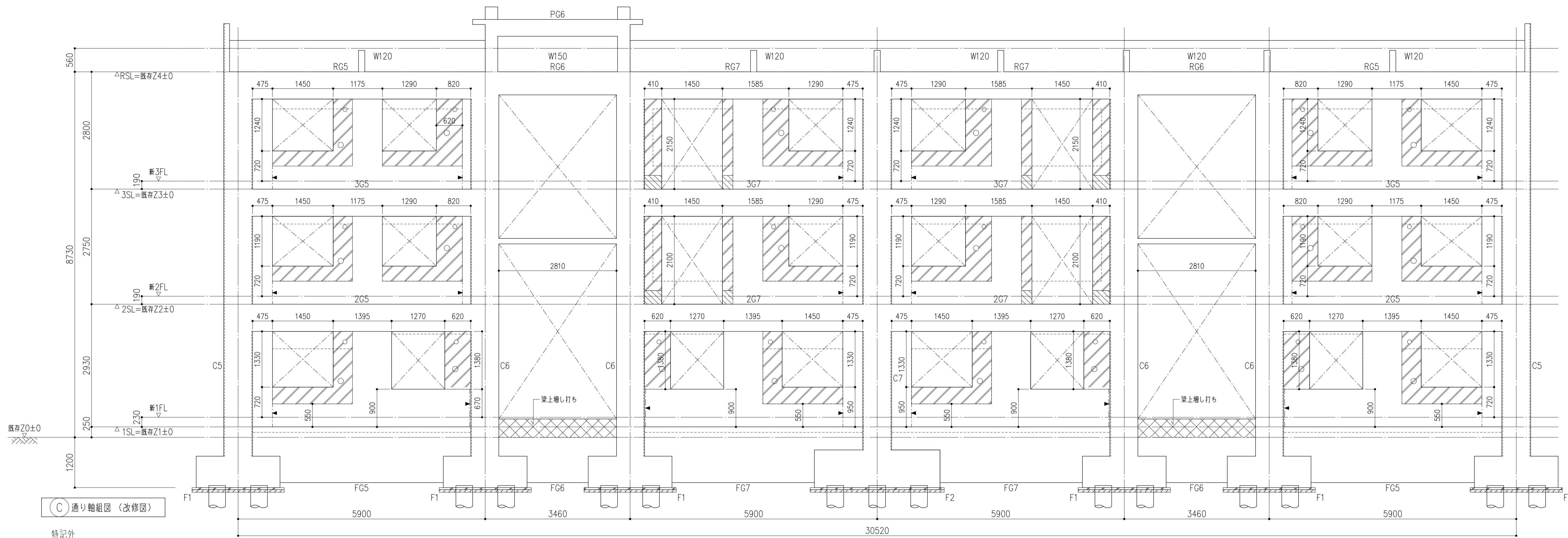
3階床梁伏図 (改修図)

- 特記外
1. 特記なき壁は、W120とする。
 2. □内数値は、3SLからの床コンクリート天端を示す。
 3. ▼印は、構造スリット (既存壁) を示す。
 4. 斜線: 新設RC壁 (W120)
 5. 点線: 新設ALC版 t=100
 6. 破線: 開口



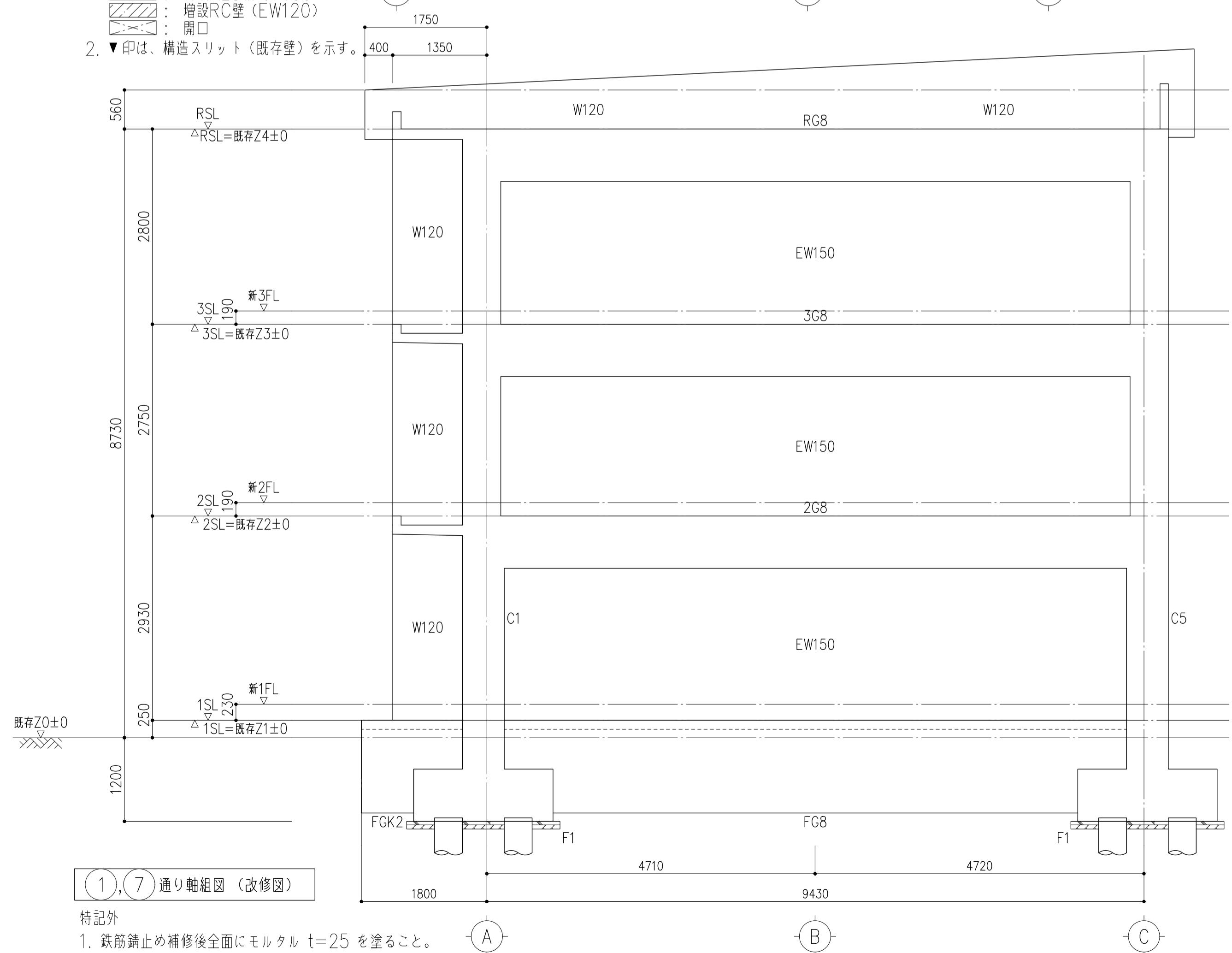
- 特記外
- 新設RC壁 (W120)・立上り
 新設ALC版 t=100
 増設RC壁 (EW120)
 開口
 - ▼印は、構造スリット (既存壁) を示す。





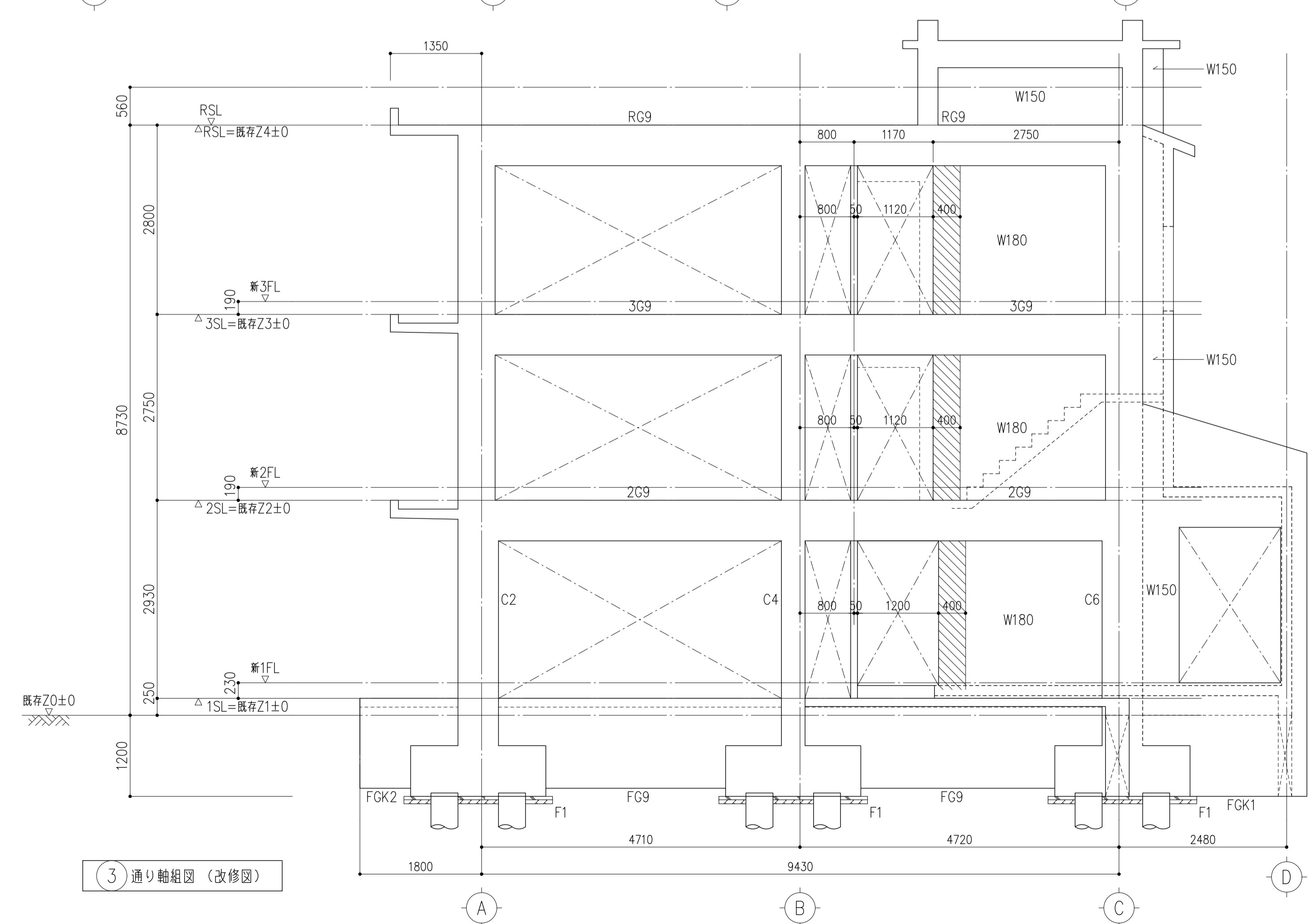
(C) 通り軸組図 (改修図)

- 特記外
- 新設RC壁 (W120)・立上り
 - 新設ALC板 t=100
 - 増設RC壁 (EW120)
 - 開口
 - ▼印は、構造スリット (既存壁) を示す。

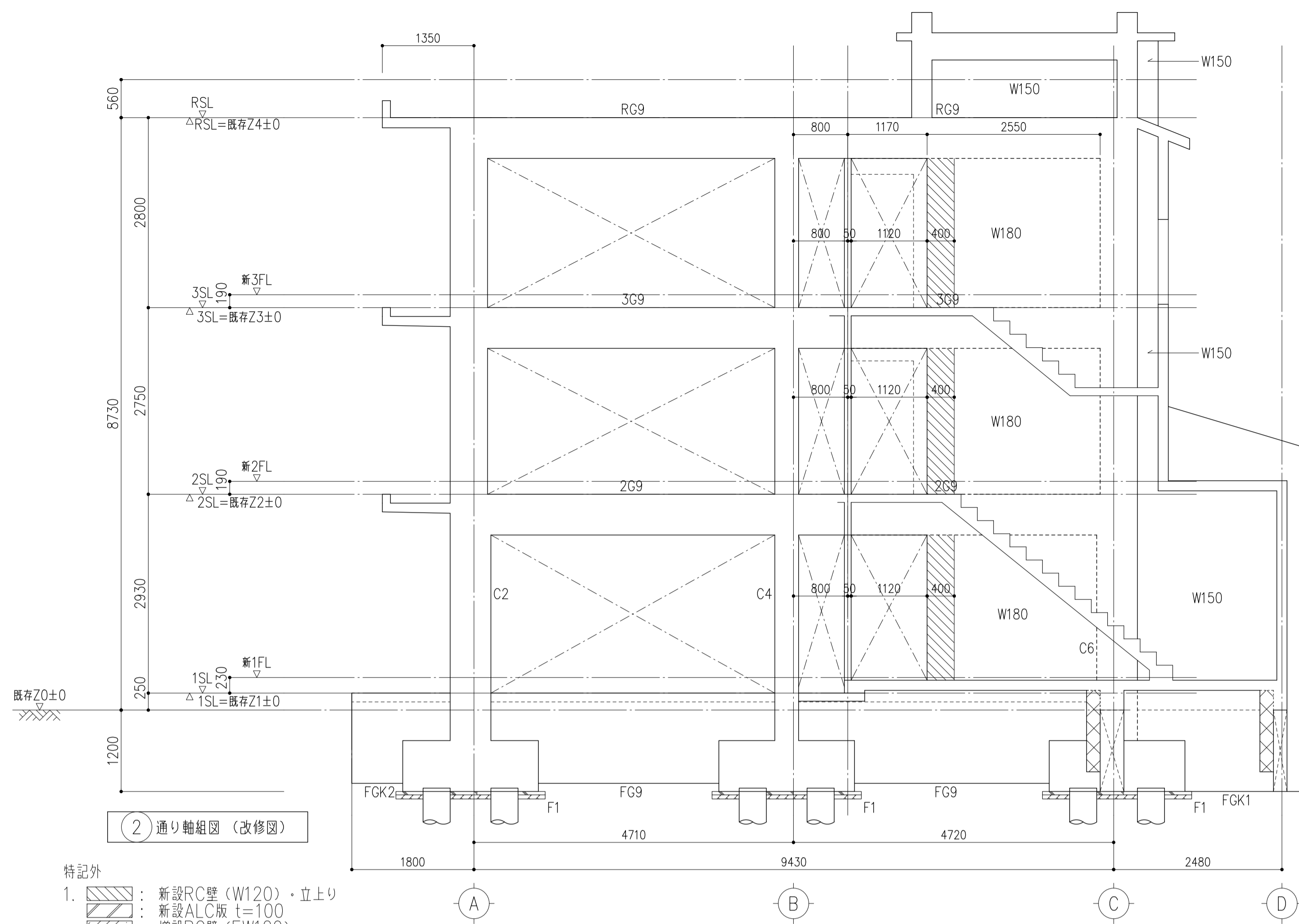


(1,7) 通り軸組図 (改修図)

- 特記外
- 鉄筋錆止め補修後全面にモルタル t=25 を塗ること。

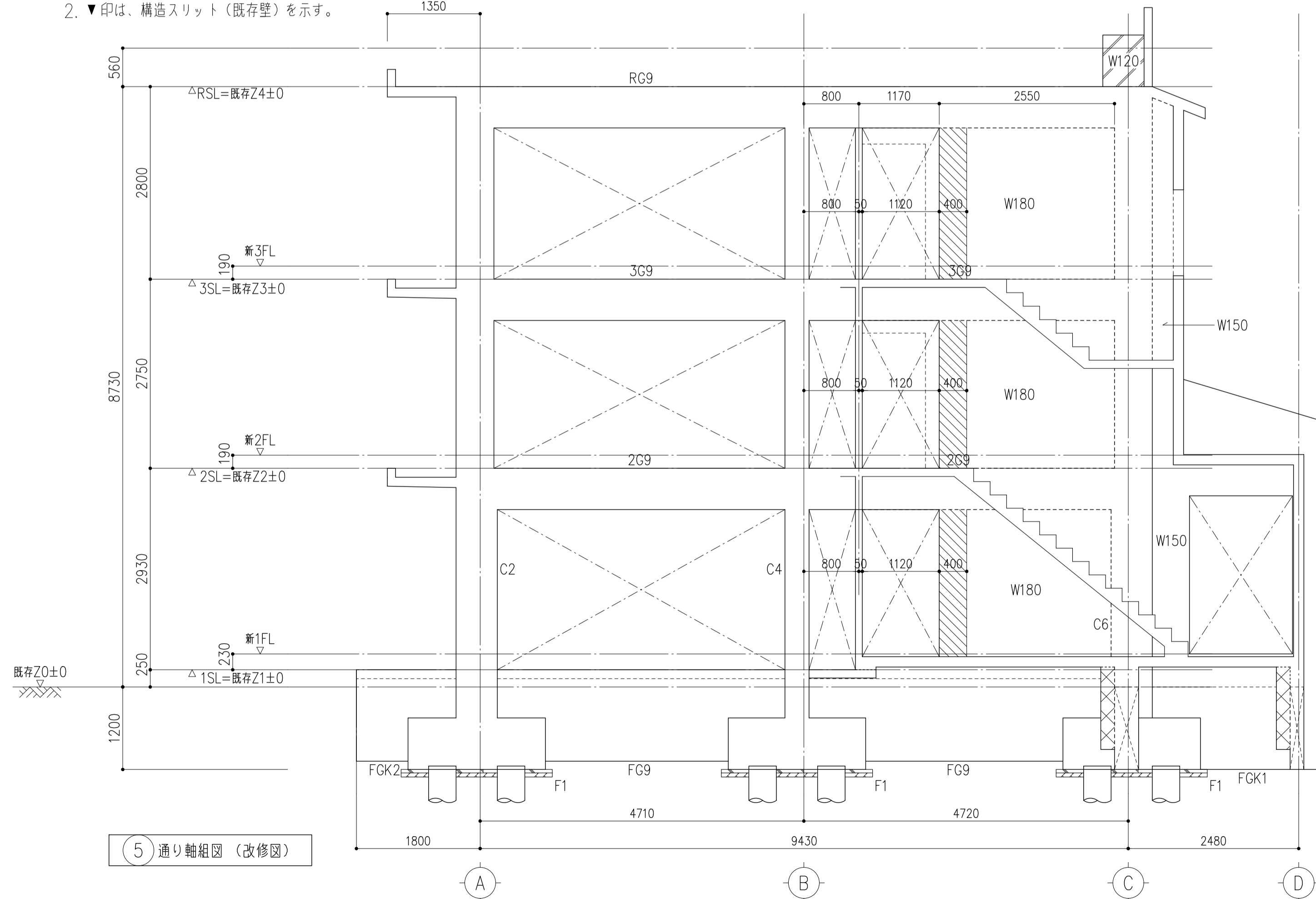


(3) 通り軸組図 (改修図)

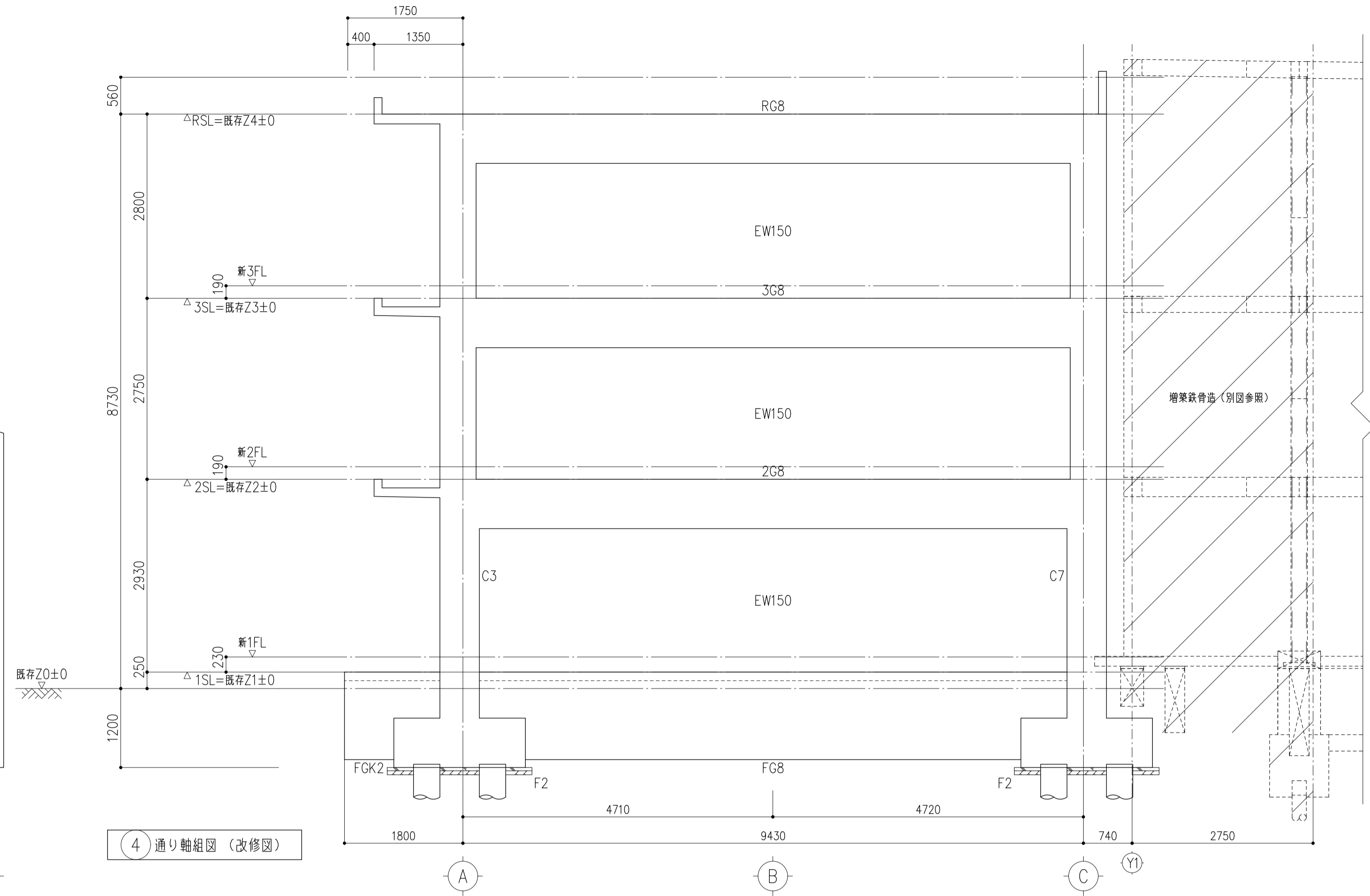


② 通り軸組図 (改修図)

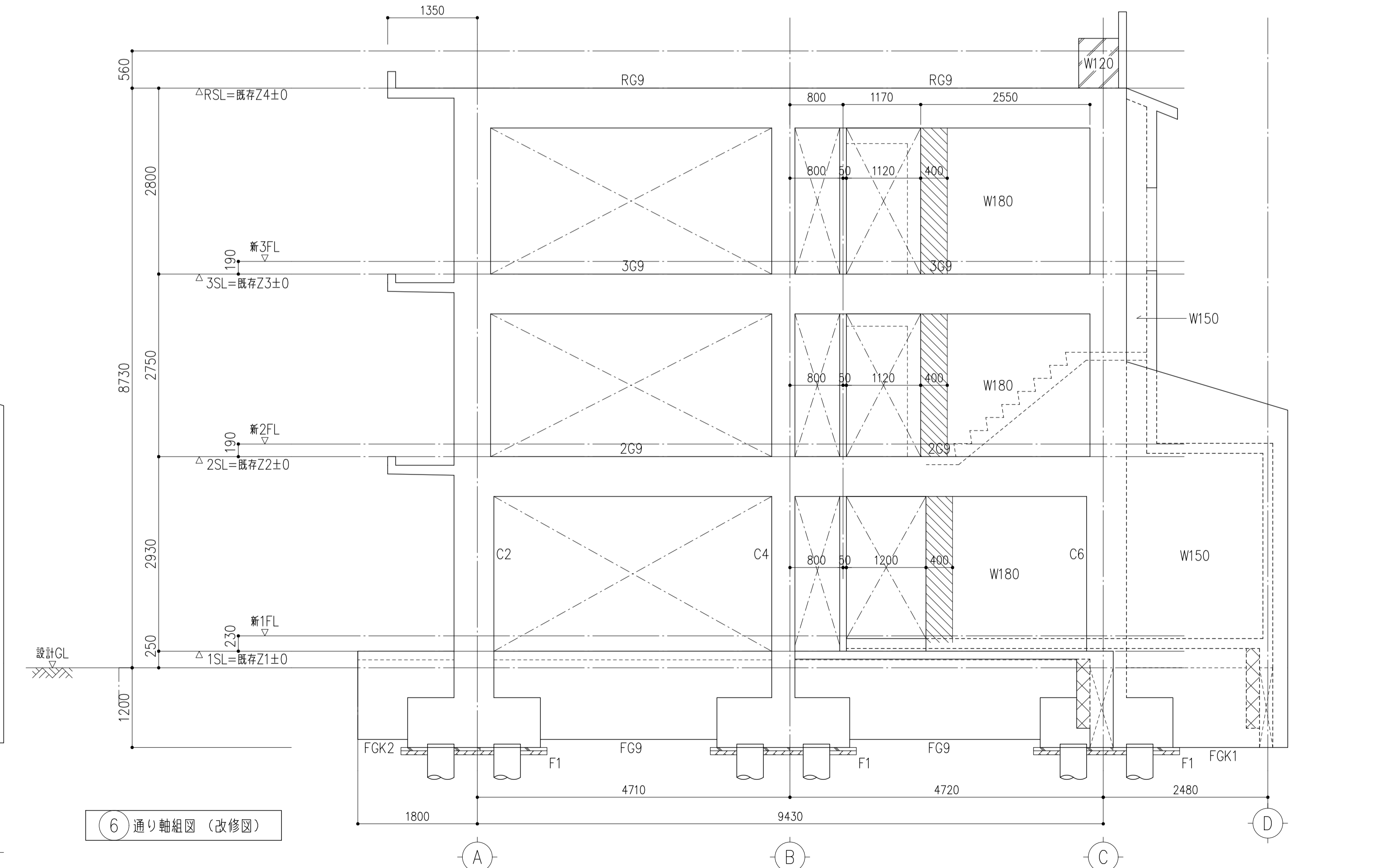
- 特記外
- 新設RC壁 (W120)・立上り
 新設ALC版 t=100
 増設RC壁 (EW120)
 開口
 - ▼印は、構造スリット (既存壁) を示す。



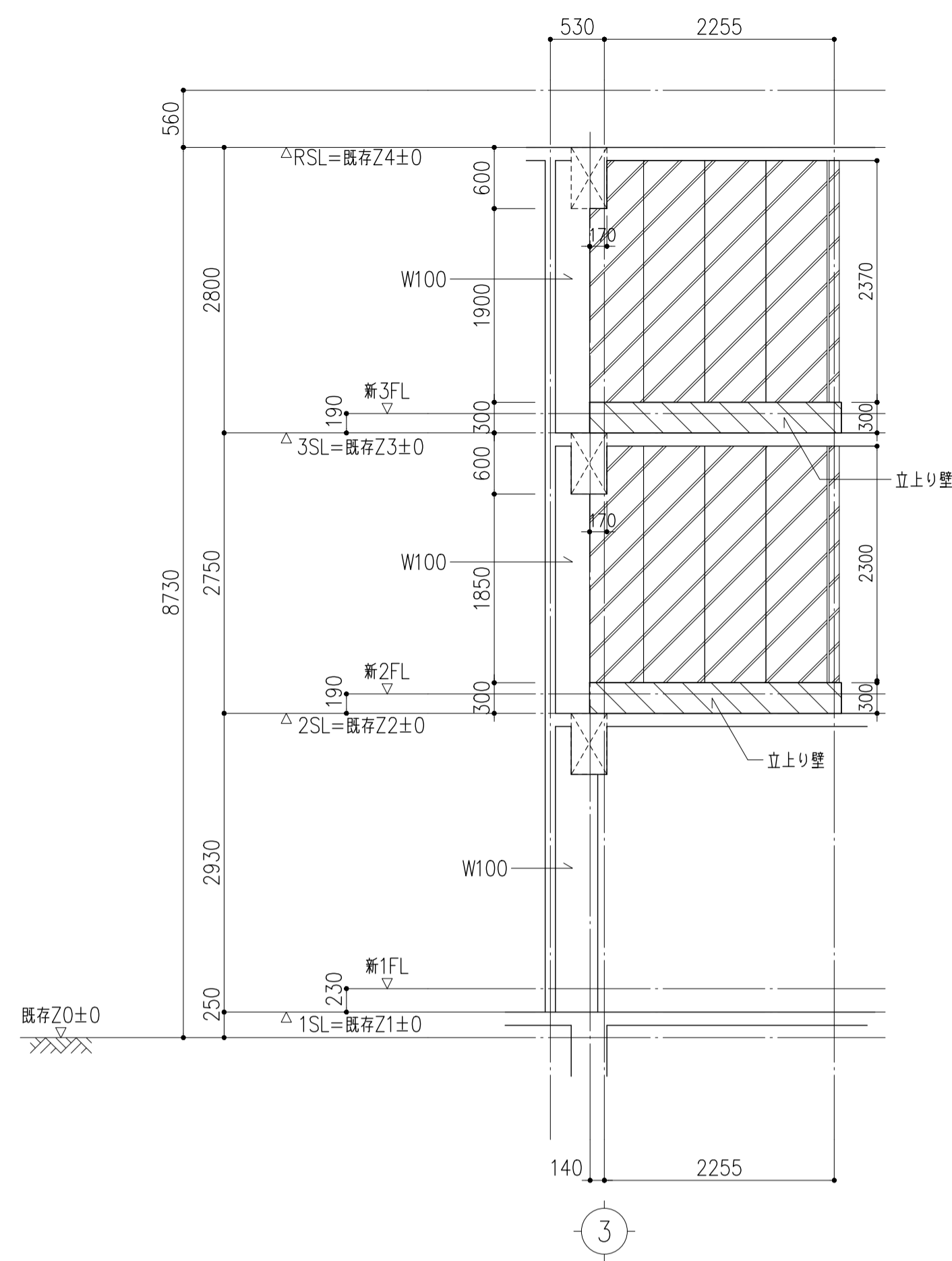
⑤ 通り軸組図 (改修図)



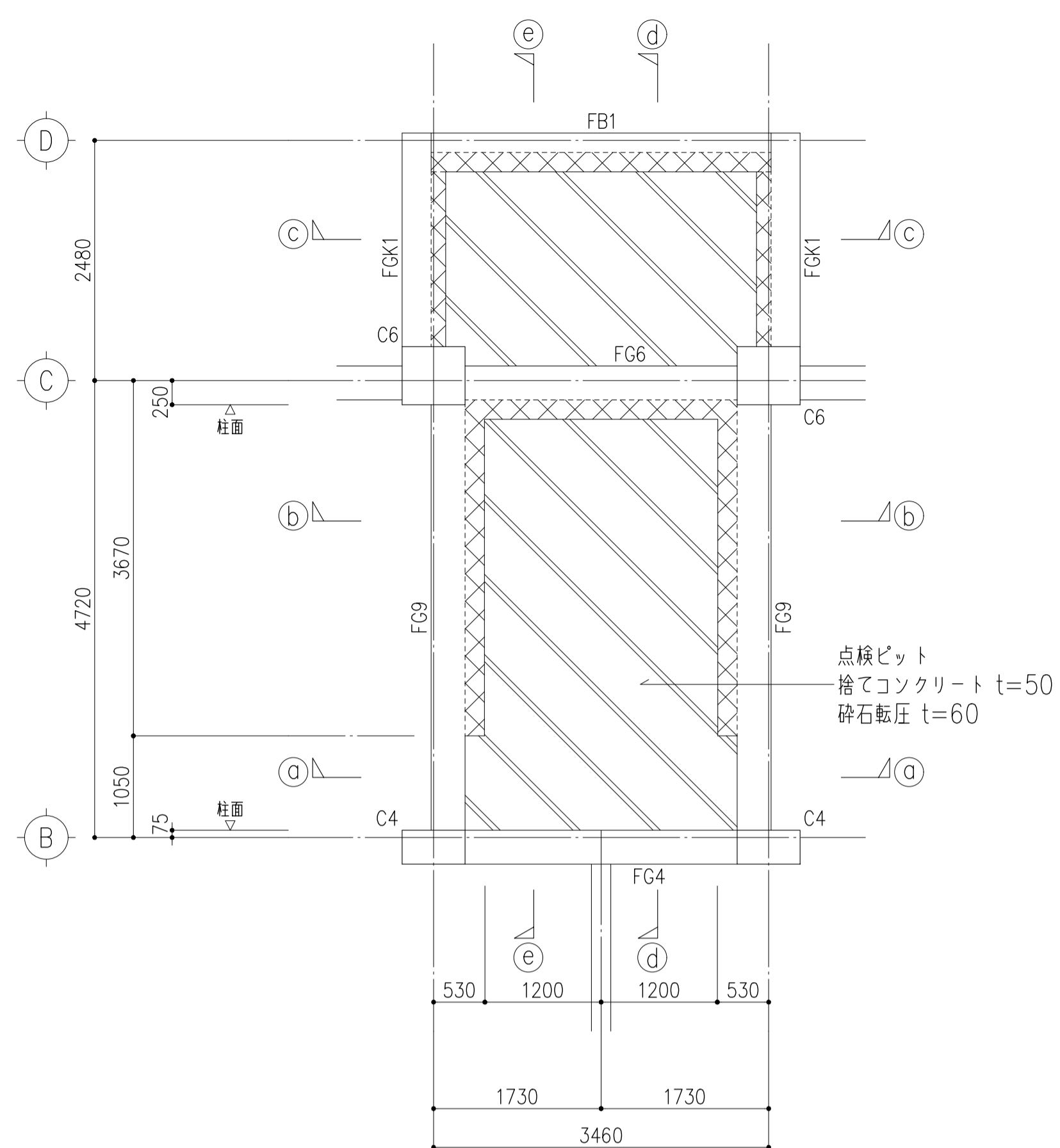
④ 通り軸組図 (改修図)



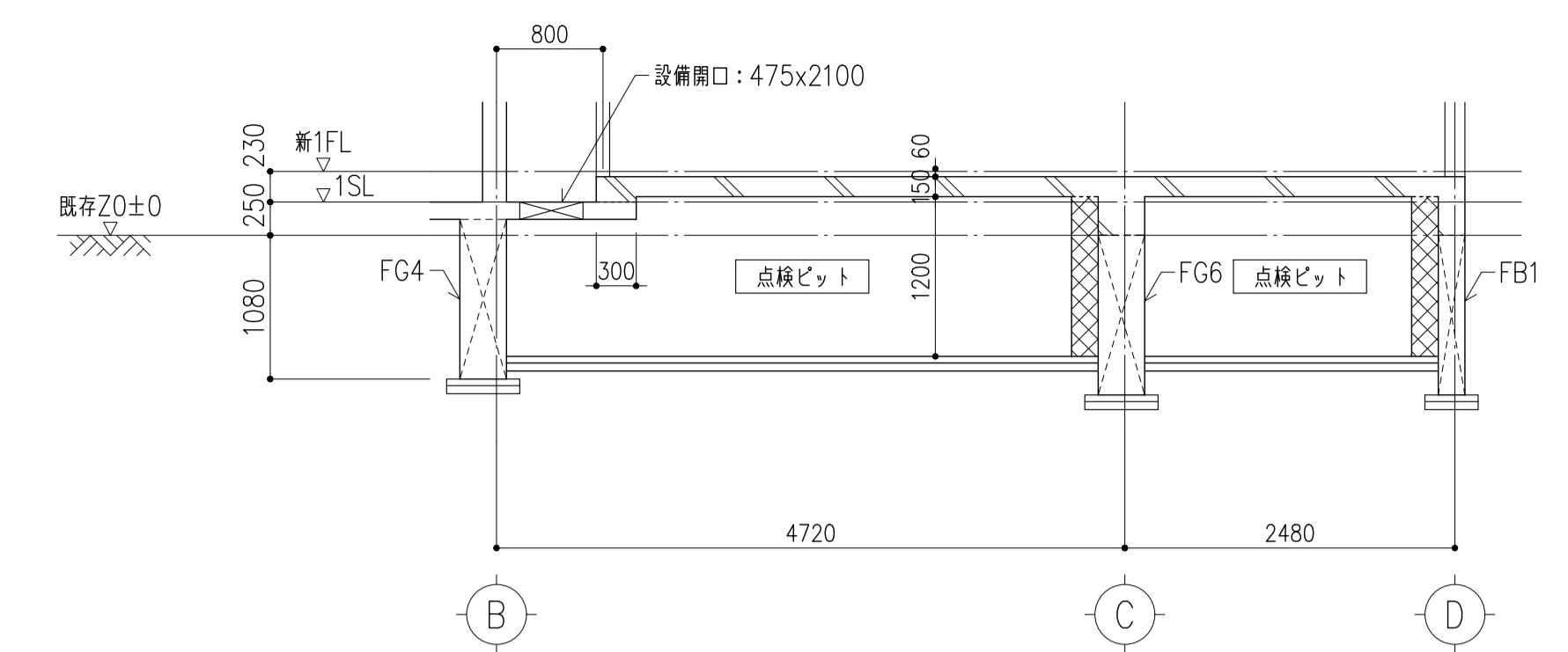
⑥ 通り軸組図 (改修図)



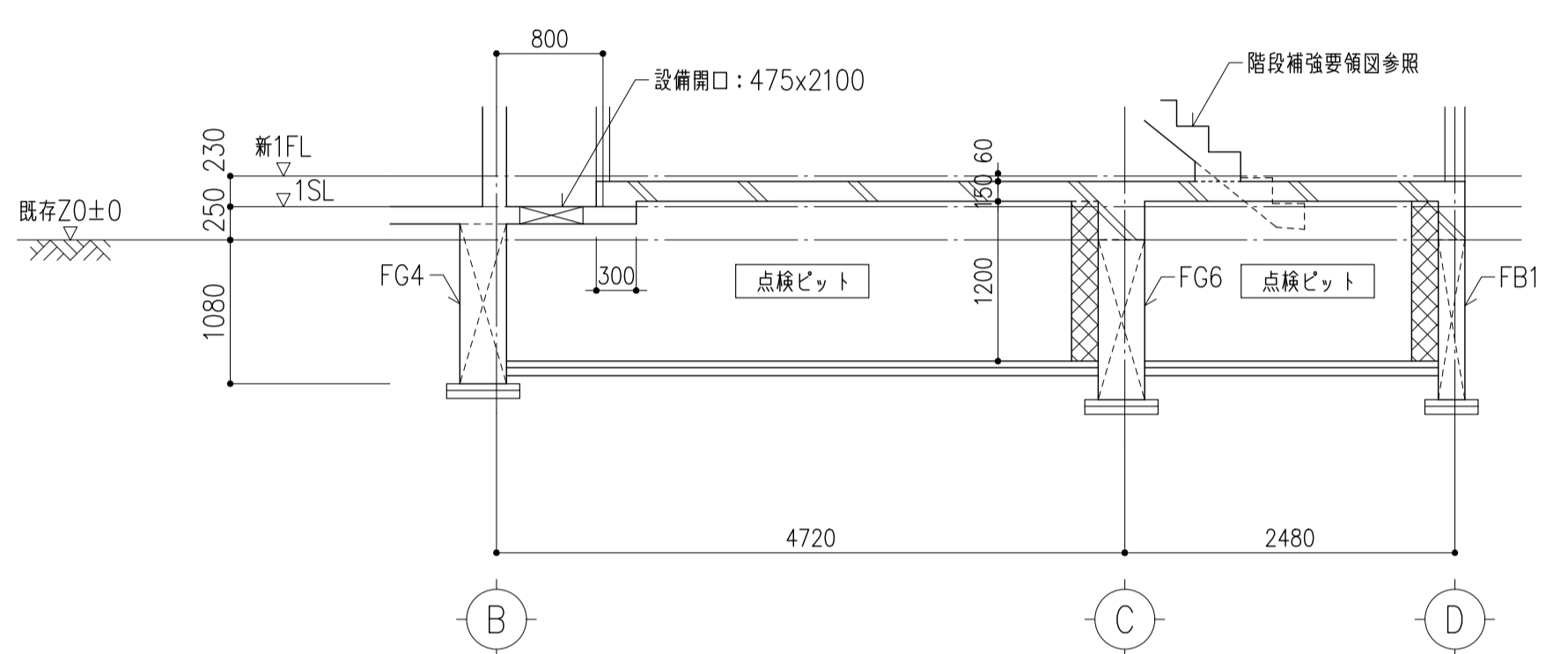
(B) 通り+800 ALC板割付図



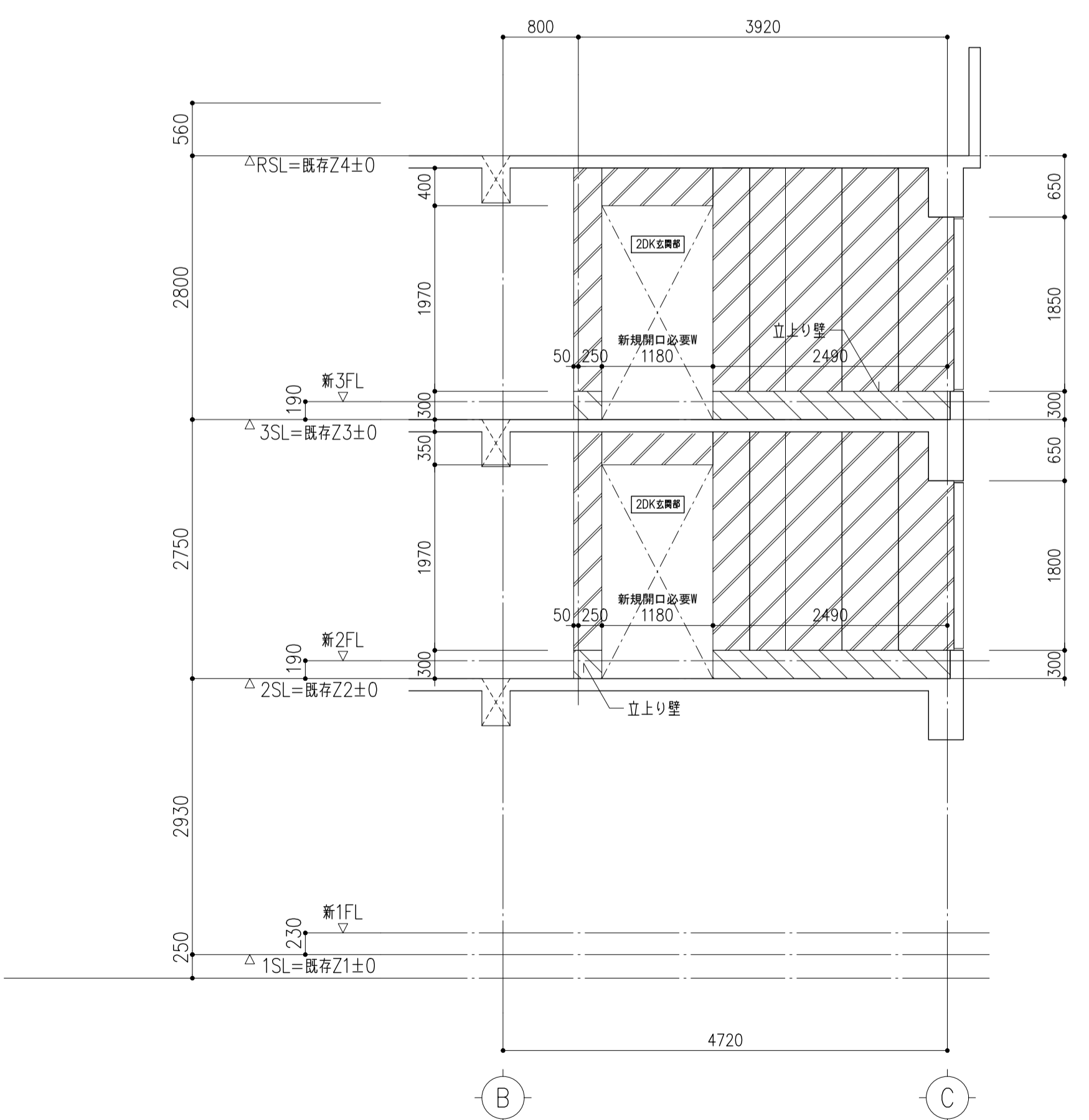
ビット伏図 (改修図)



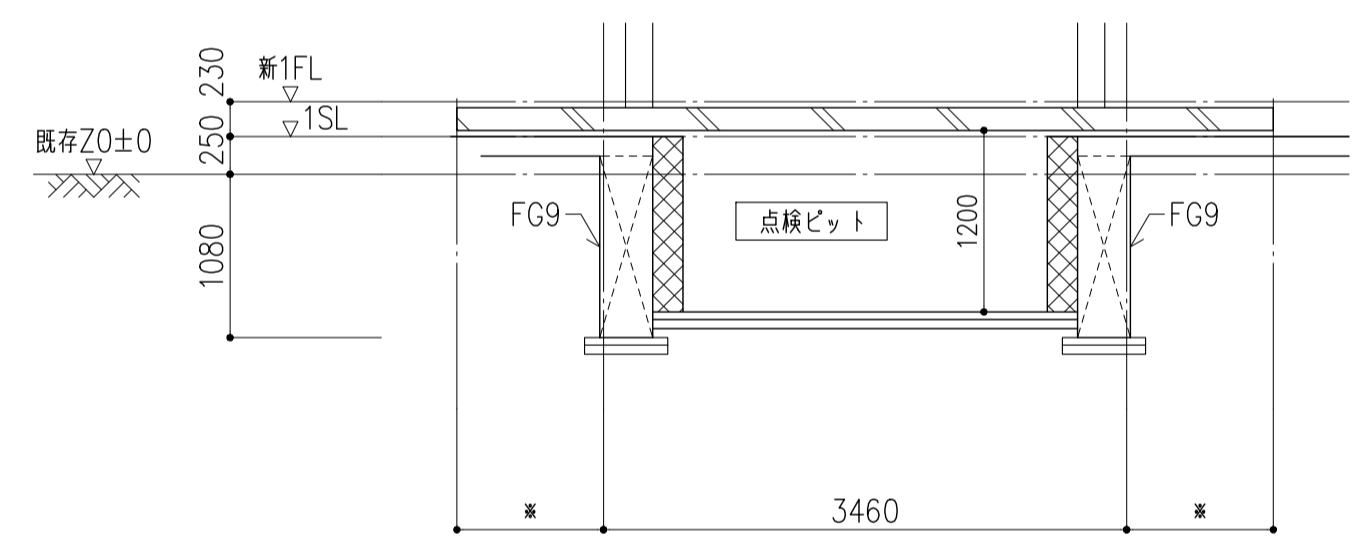
SEC. (d) - (d) (改修図)



SEC. (e) - (e) (改修図)

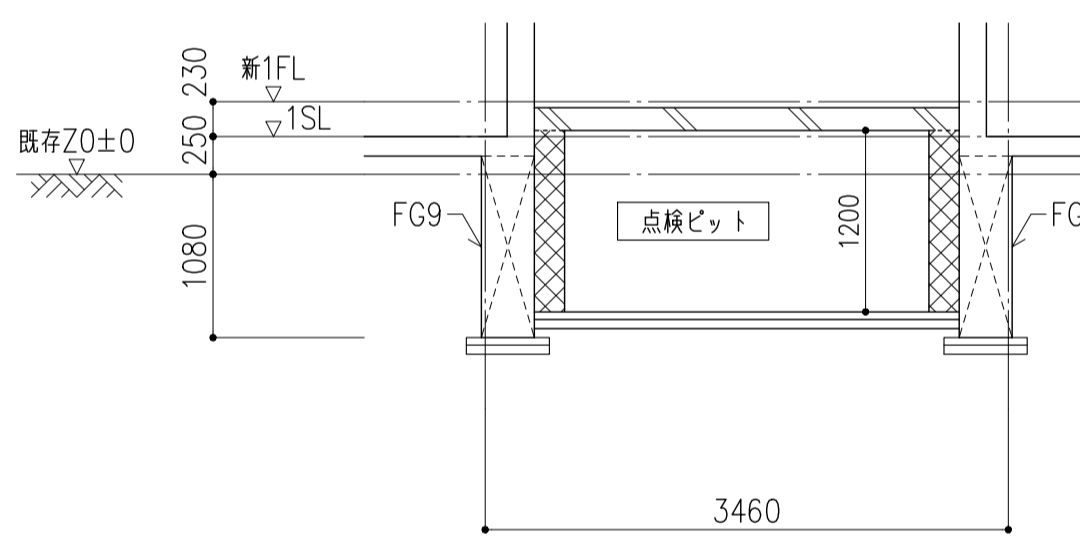


(3), (5) 通り±2255 ALC板割付図

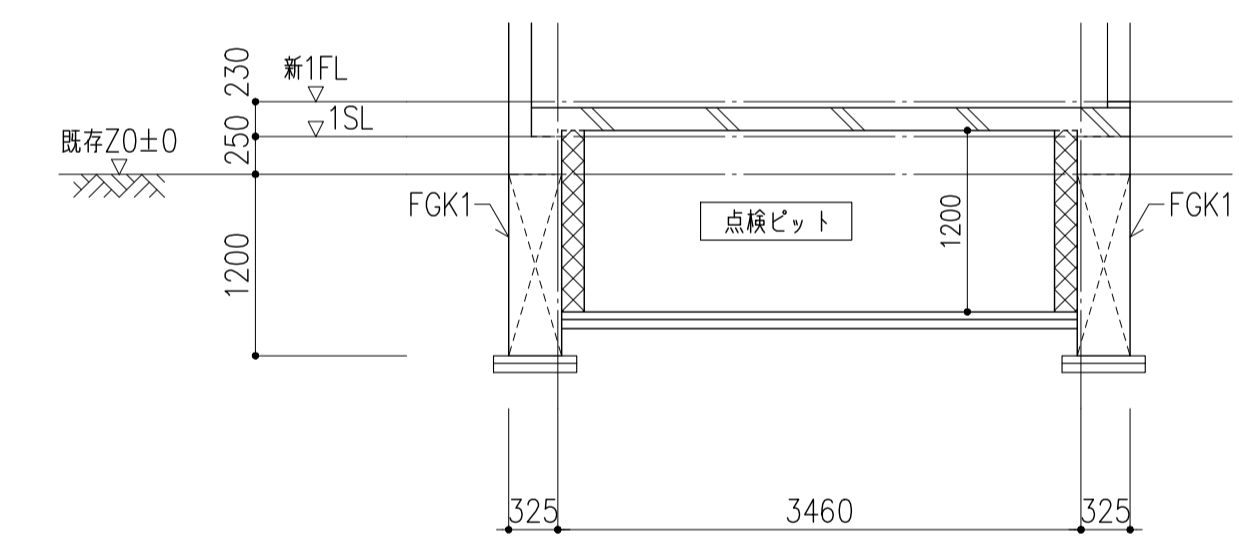


SEC. (a) - (a) (改修図)

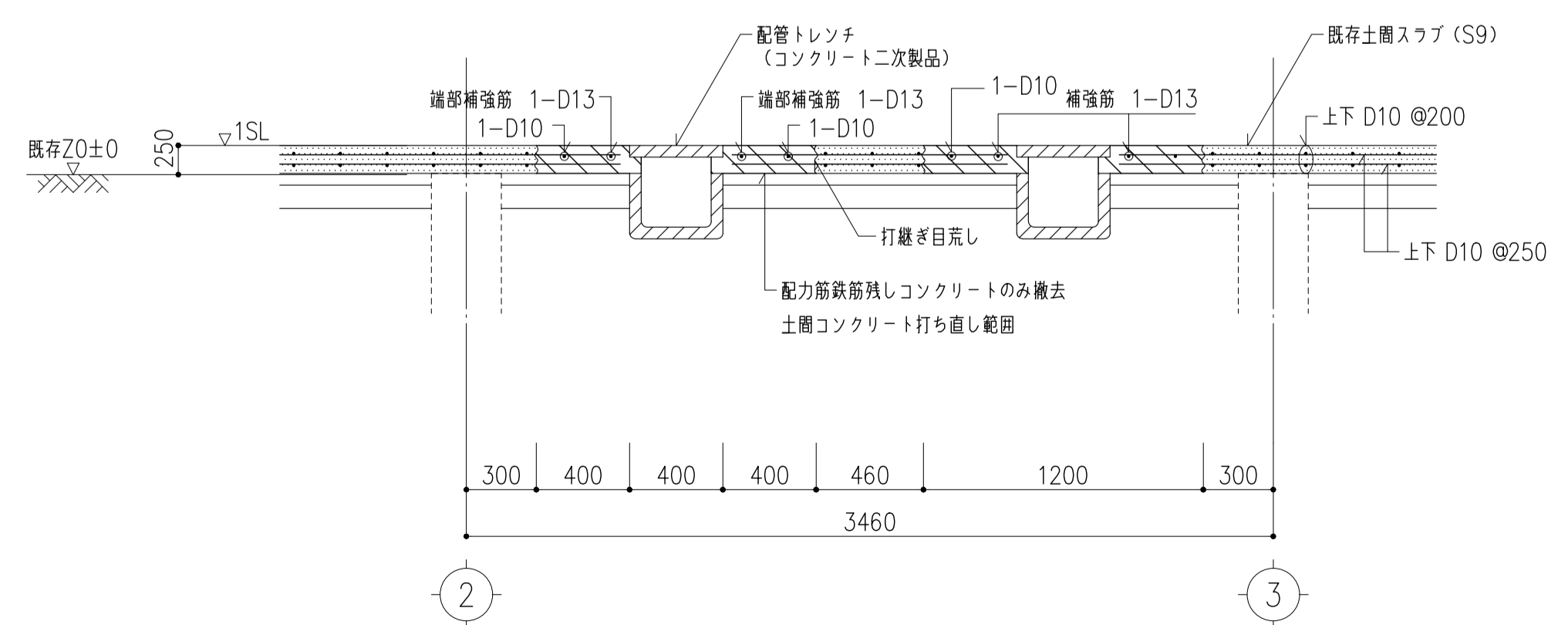
* 善匠図による



SEC. (b) - (b) (改修図)

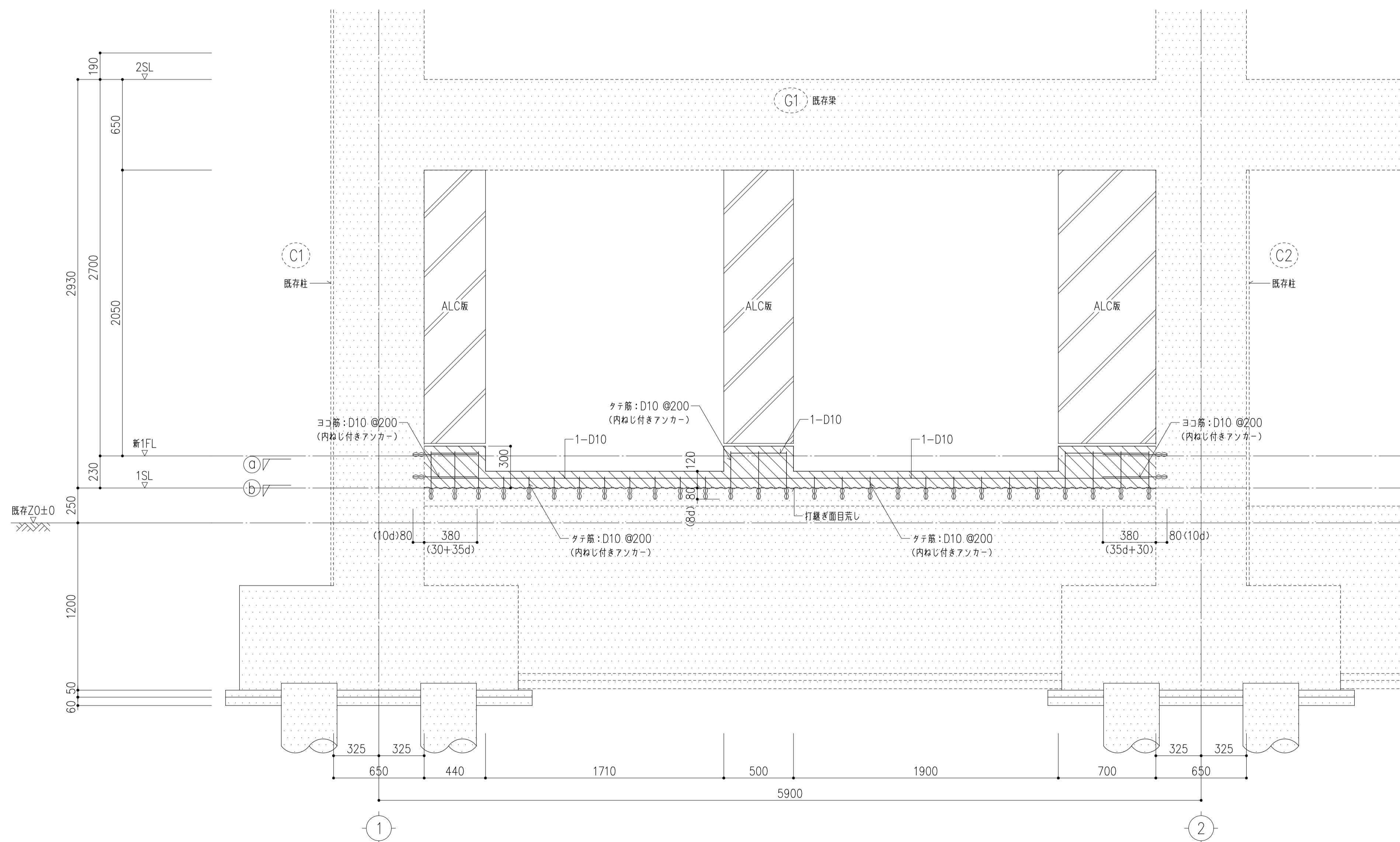
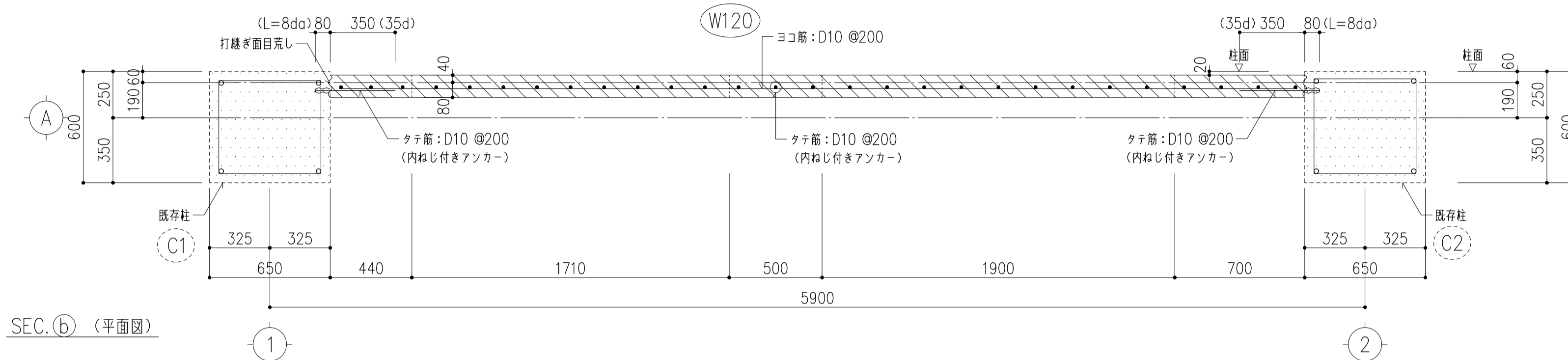
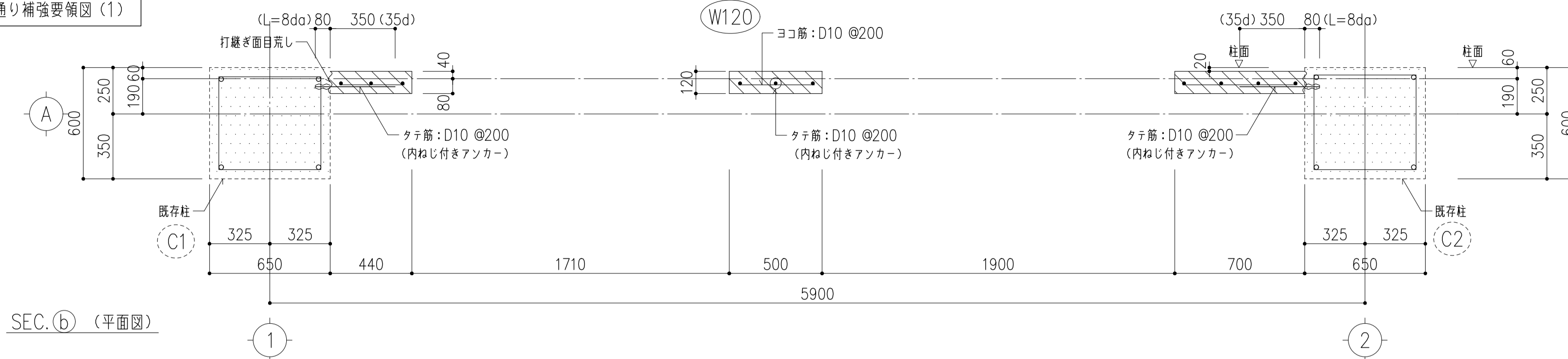


SEC. (c) - (c) (改修図)



配管トレンチ詳細図 (A1: 1/25) (改修図)

1階 (A) 通り ①-② 通り補強要領図 (1)



一般事項

使用材料

コンクリートの圧縮強度は $F_c=24\text{N}/\text{mm}^2$ (既存躯体圧縮強度) 以上とする。
鉄筋はD16以下はSD295A規格品とする。

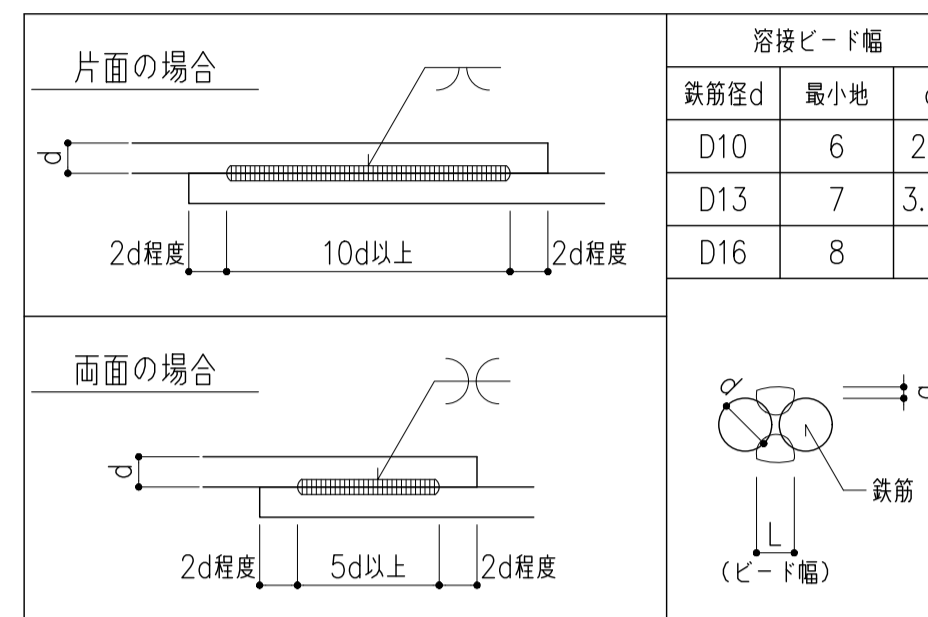
無収縮モルタル圧入工法

無収縮モルタル強度は $F_m=30\text{N}/\text{mm}^2$ とする。
梁下のコンクリート打設後のレイタンスを除去し、無収縮モルタルを圧入する。

鉄筋継手

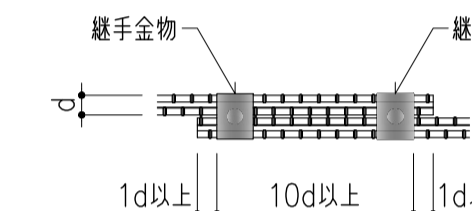
原則として、鉄筋の種類はSD295Aまで、径D16以下とする。
10d溶接の場合は、機械式継手でも可とする。

溶接継手



機械式継手 (OSフープクリップ 工法同等) 【参考図】 S=1:5

注) スリーブの外端部距離を10d以上離して接合し、
鉄筋はスリーブ端部より1d以上出ている事とする。
(dは鉄筋の呼称直径)



開口補強筋

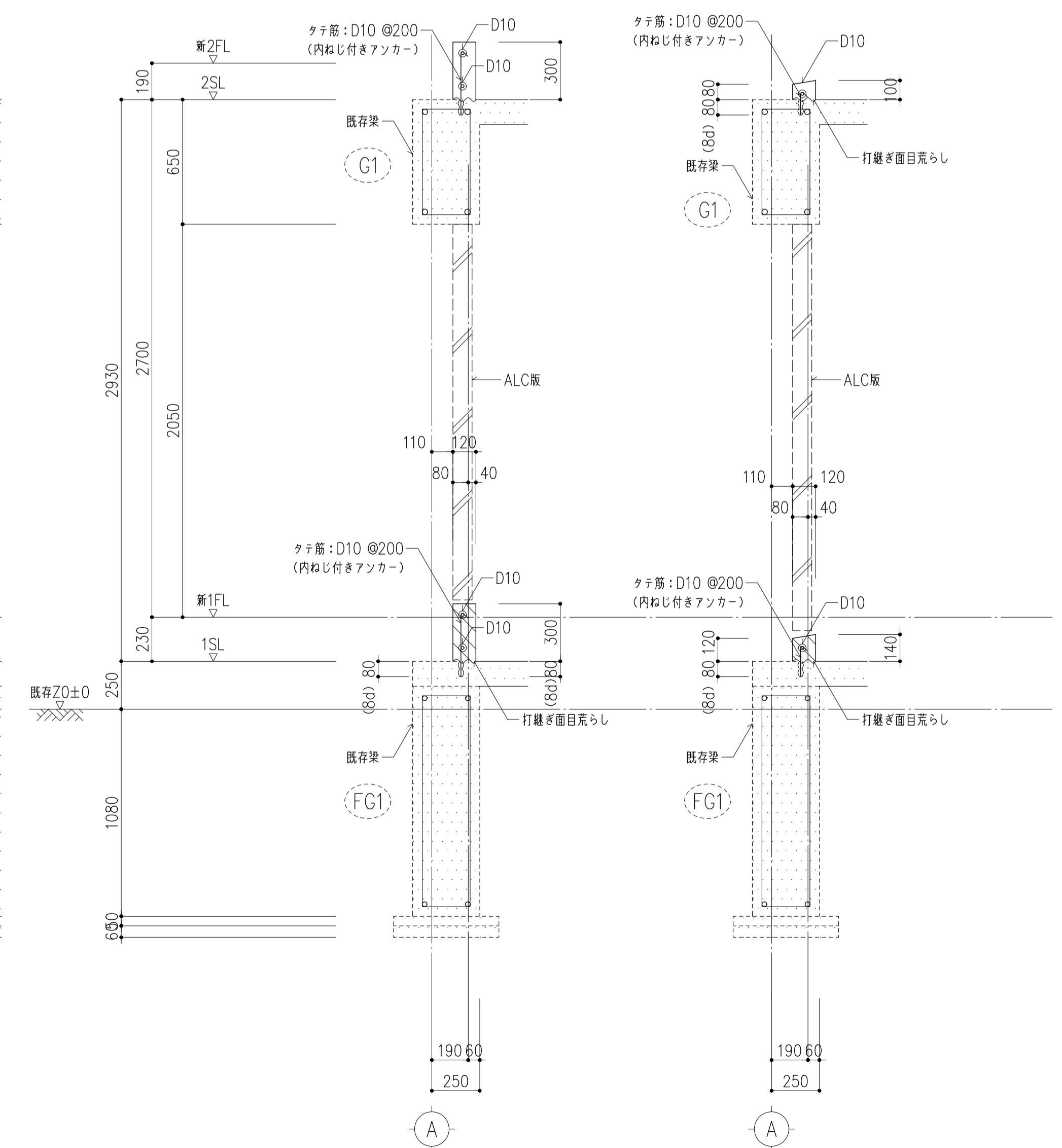
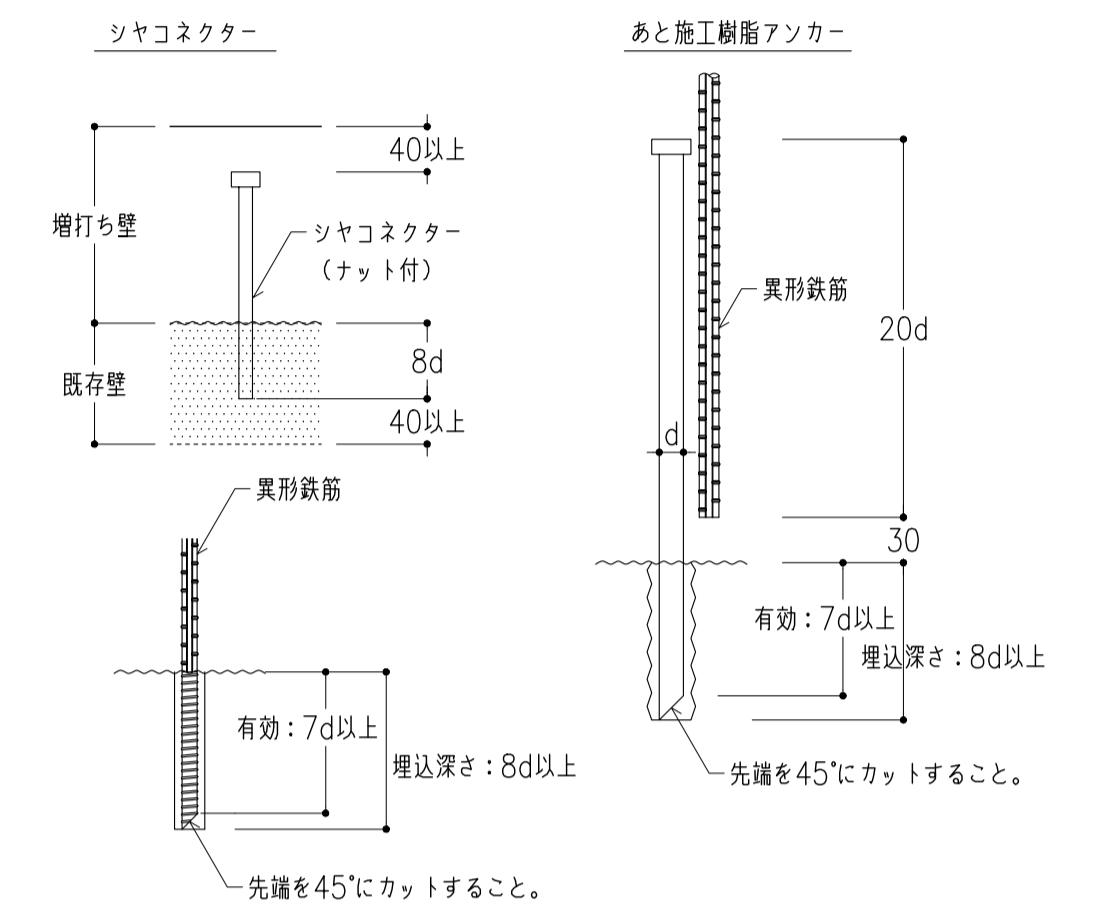
「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針・同解説」に基づいた製品を使用すること。
埋込み深さ: 樹脂系13d以上 (有効埋込深さ12d以上)
プロフォーマー (鉄筋検査機) にて主筋・帯筋位置を確認後施工すること。

あと施工樹脂アンカー

「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針・同解説」に基づいた製品を使用すること。
埋込み深さ: 樹脂系8d以上 (有効埋込深さ7d以上)
プロフォーマー (鉄筋検査機) にて主筋・帯筋位置を確認後施工すること。

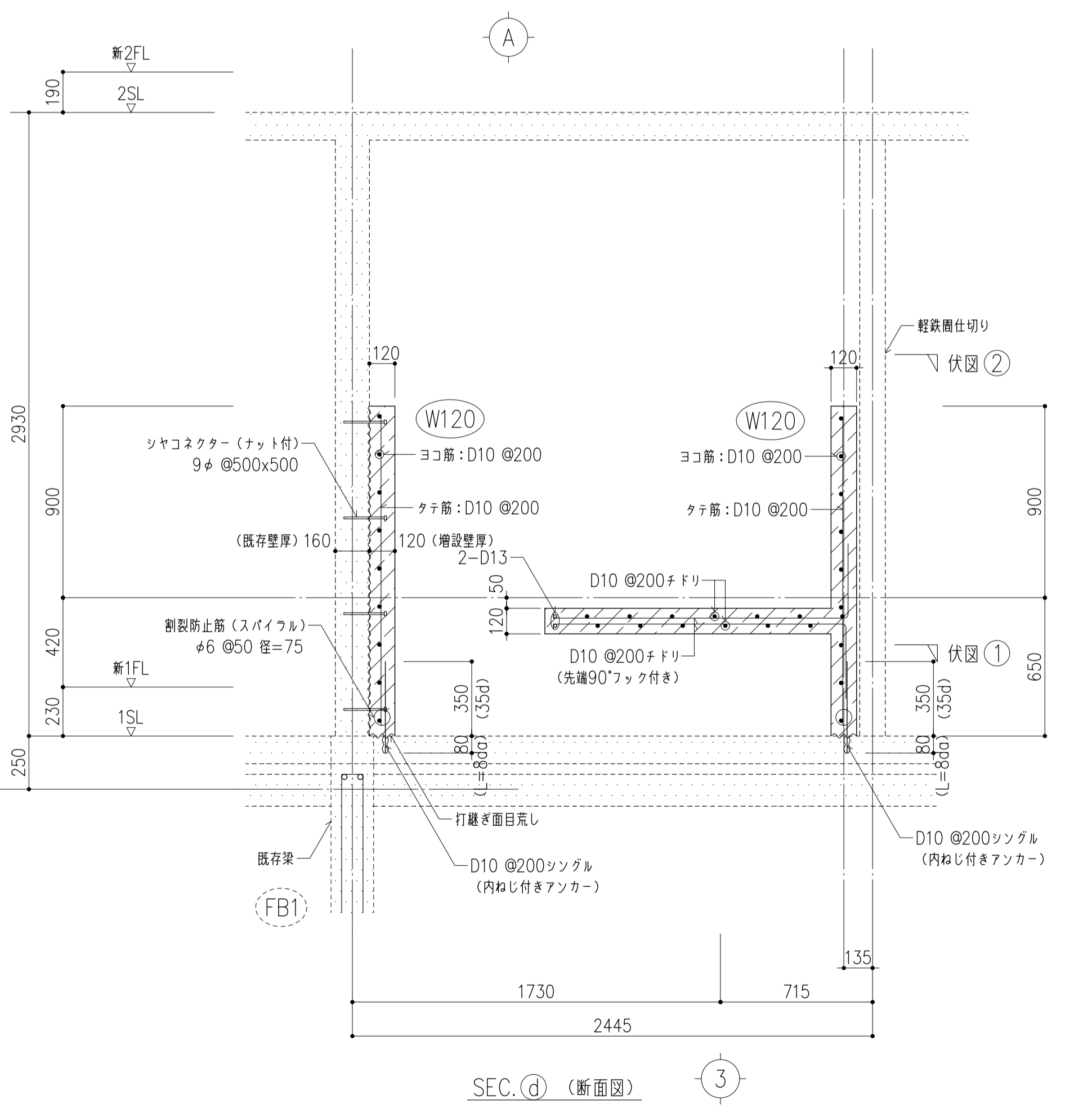
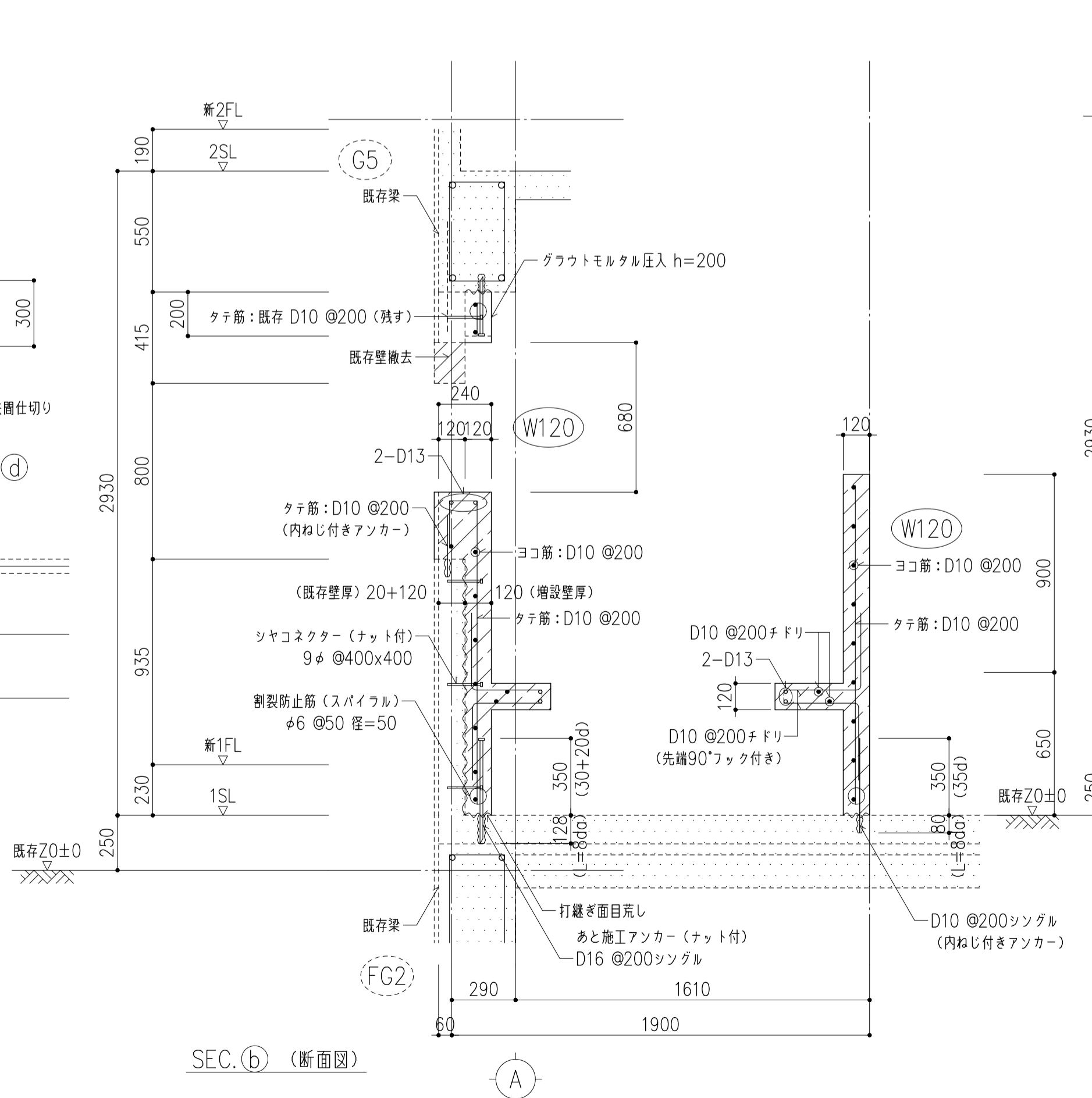
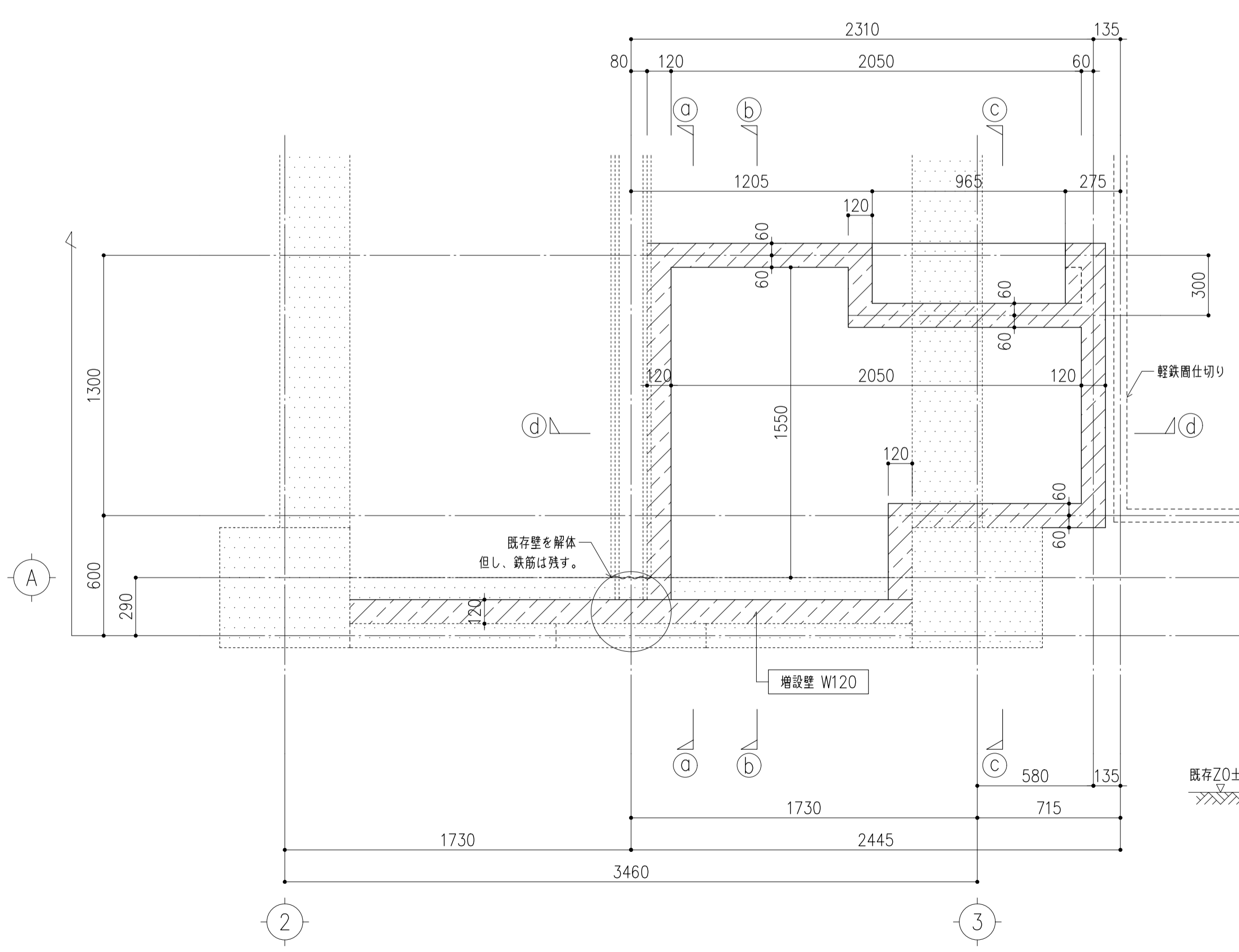
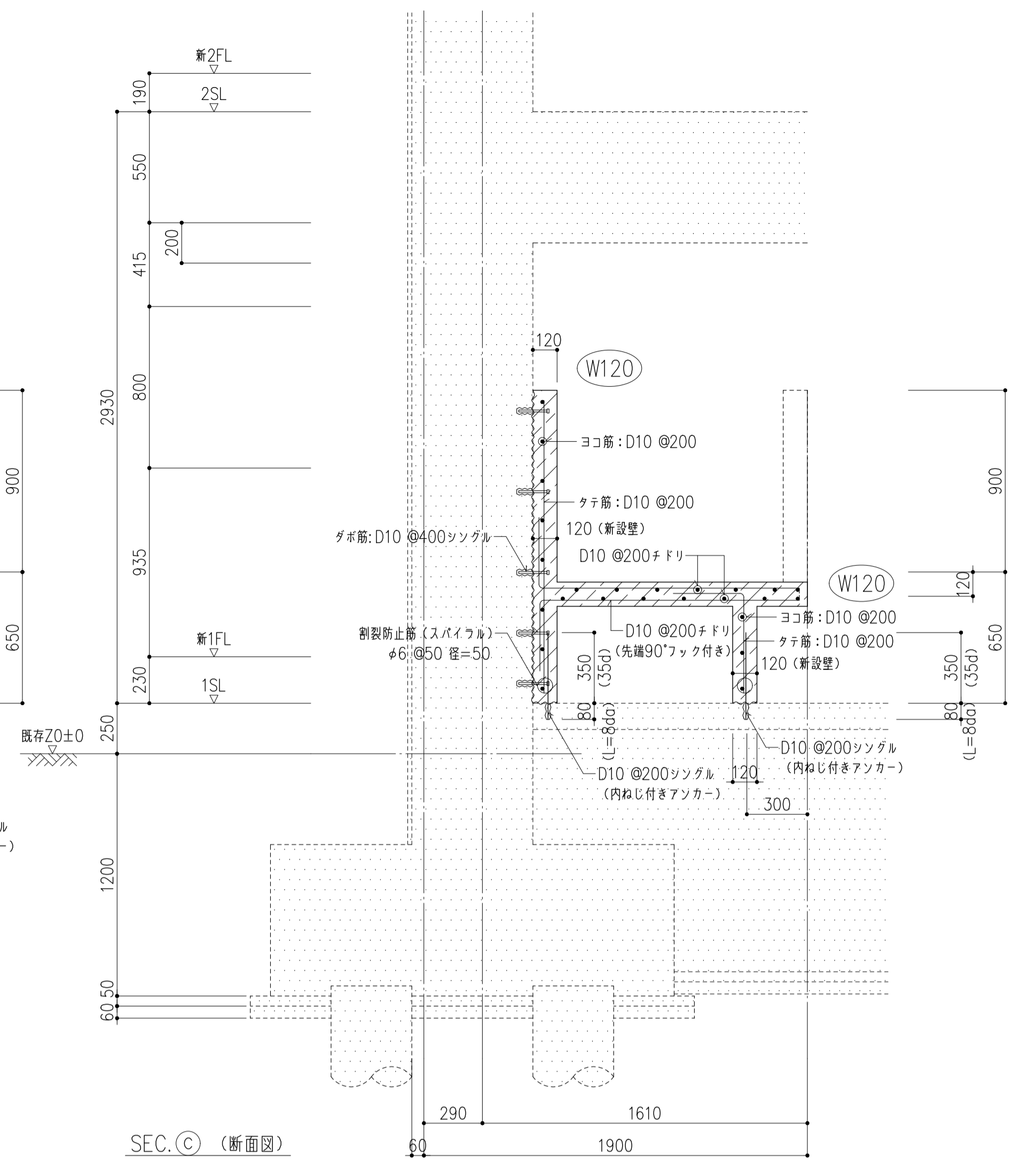
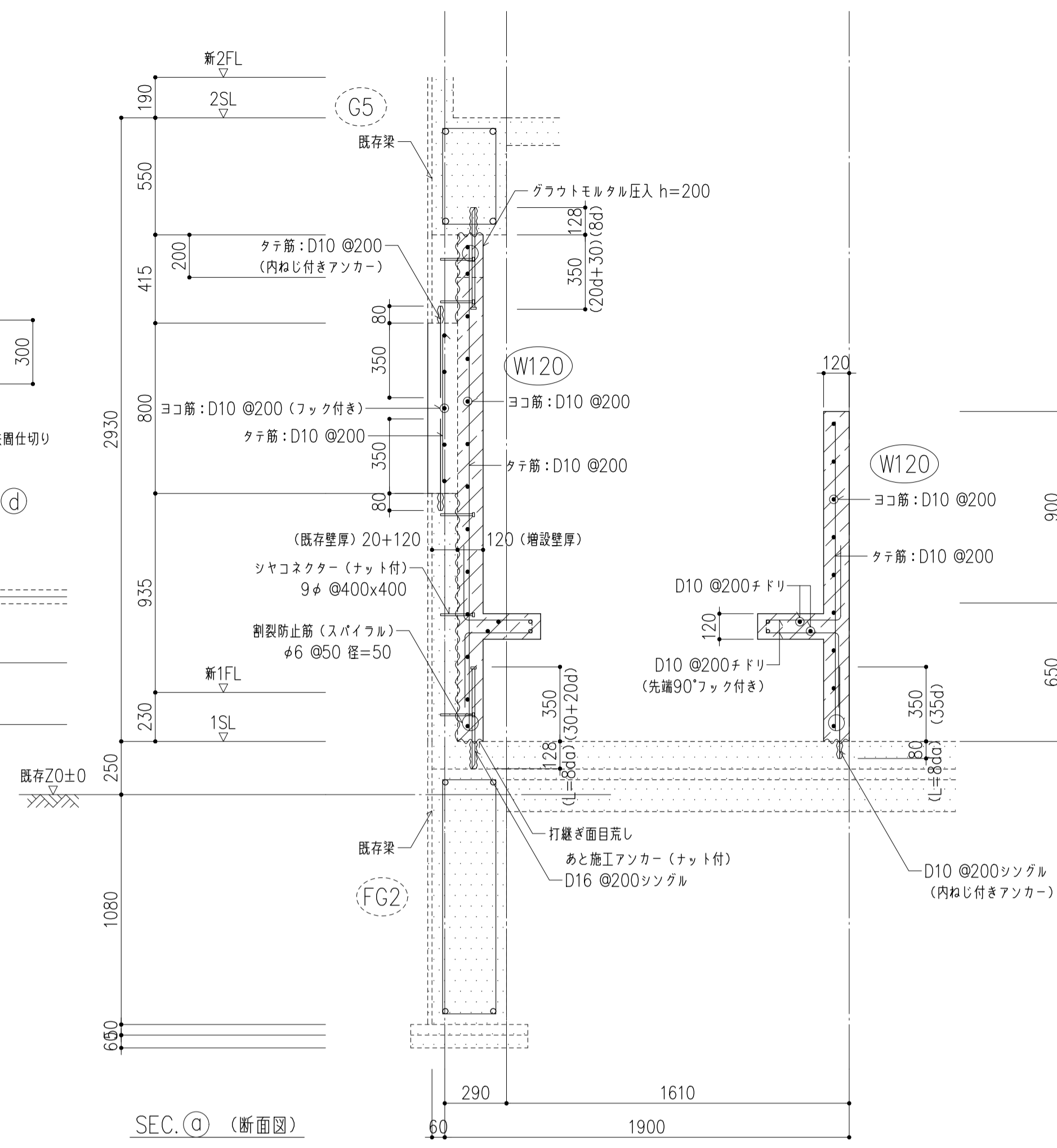
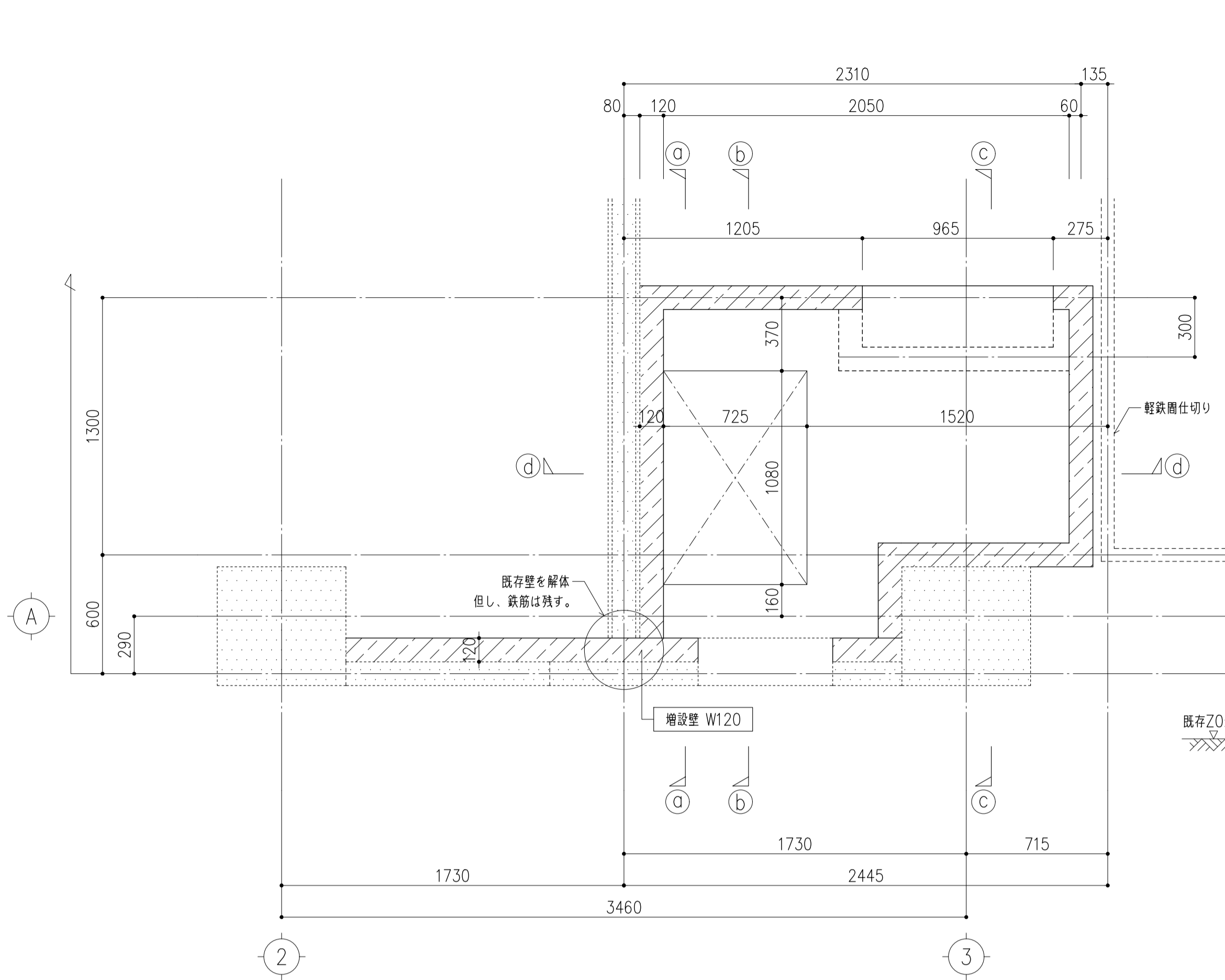
シヤコネクター

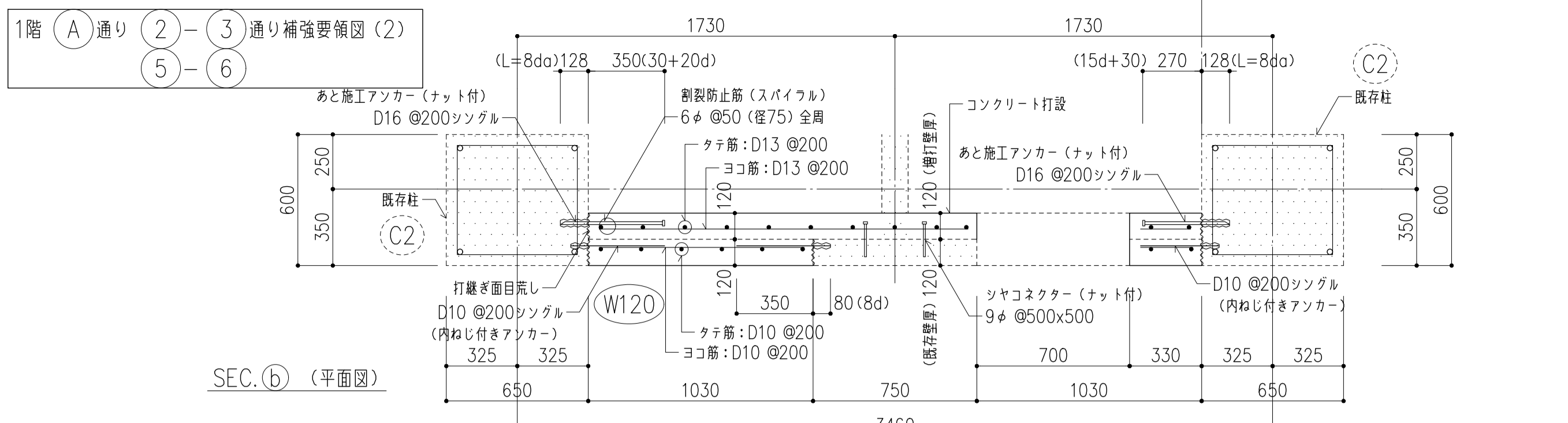
- 増打壁内定着長: 増打壁厚-40
- 既存壁への定着方法: あと施工アンカーによる (金属板張系、接着系)
- 既存壁への定着長: (有効埋込み深さで) 接着系7d以上かつ、既存壁厚-40以下とする。



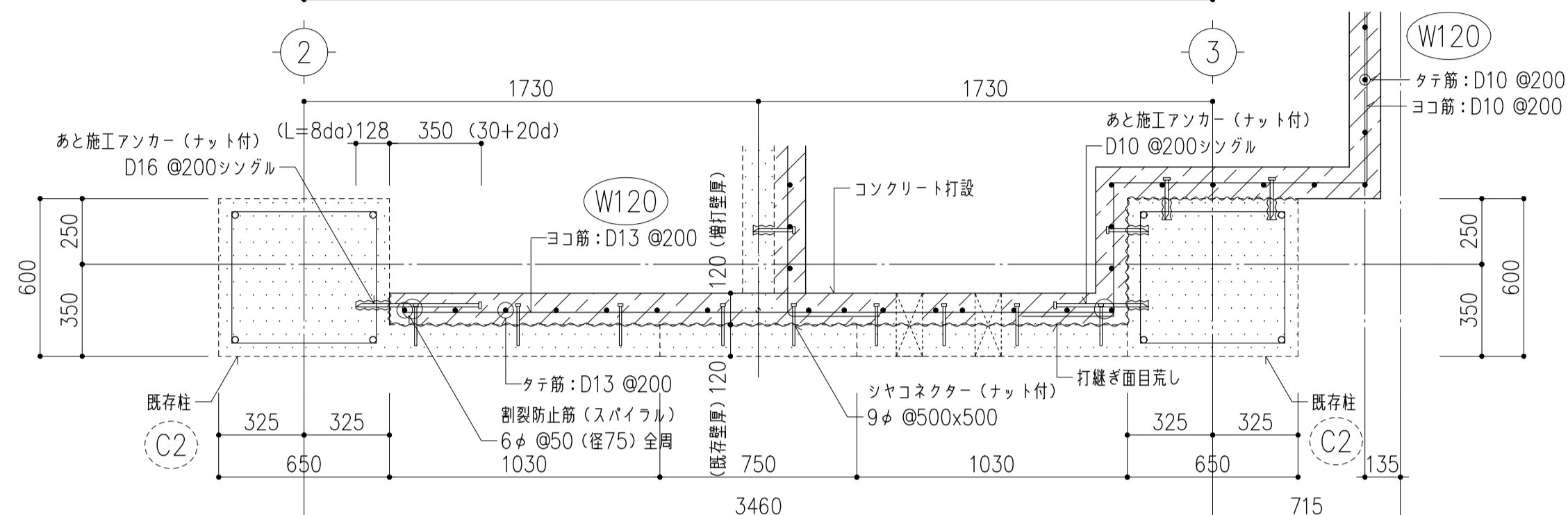
SEC. (c) (断面図)

SEC. (c) (断面図)

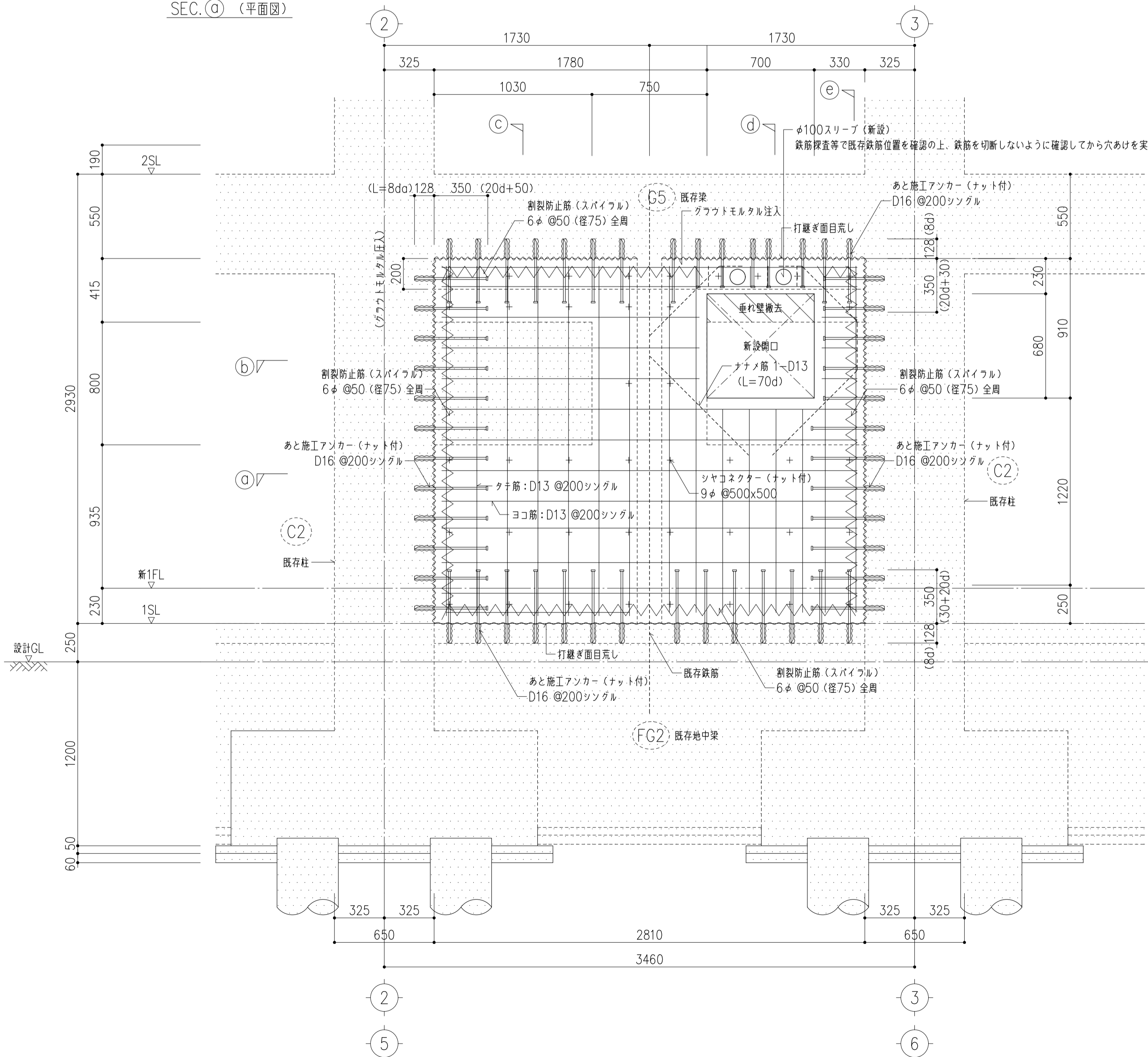




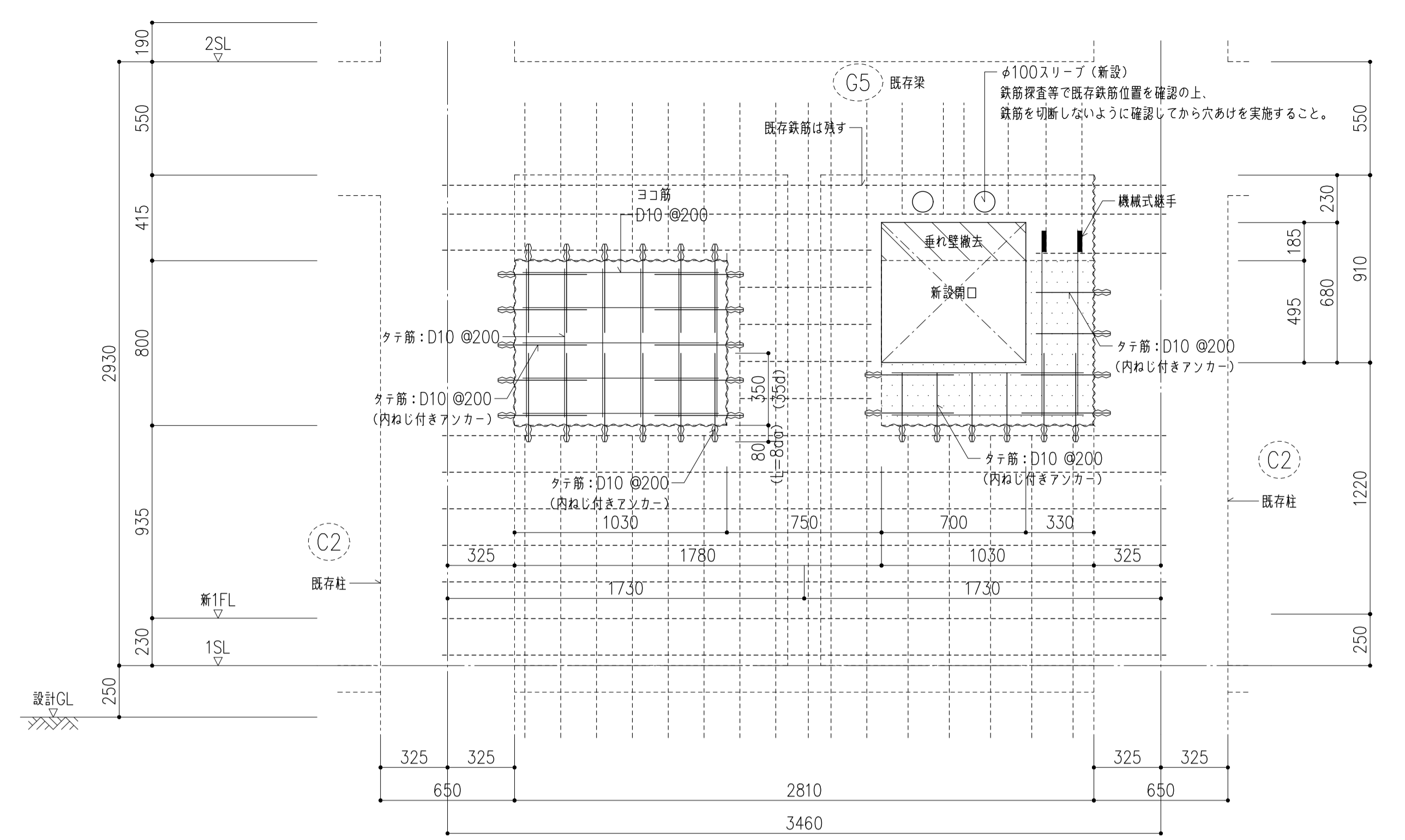
SEC. (b) (平面図)



SEC. (c) (平面図)

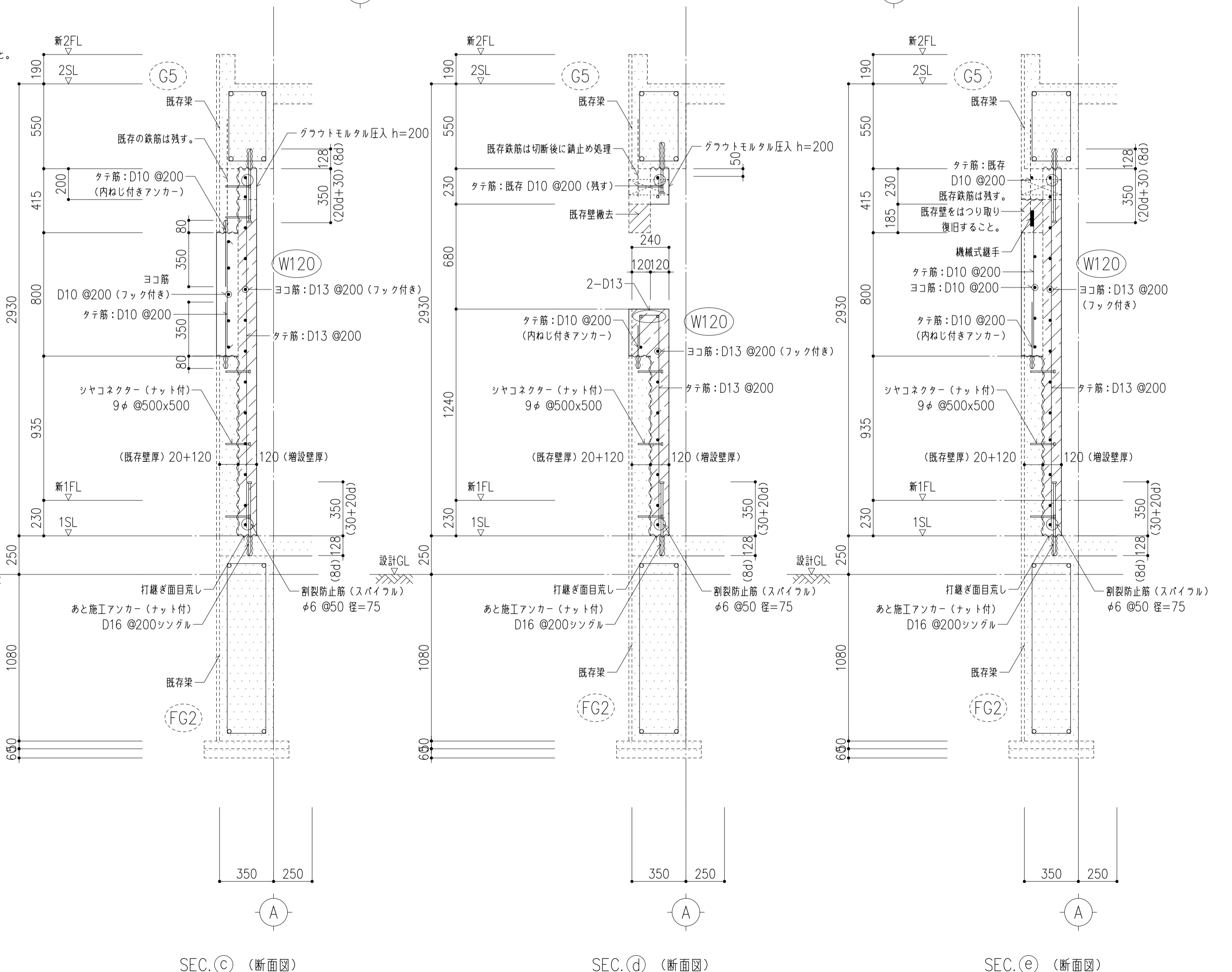


SEC. (a) (断面図)



SEC. (b) (断面図)

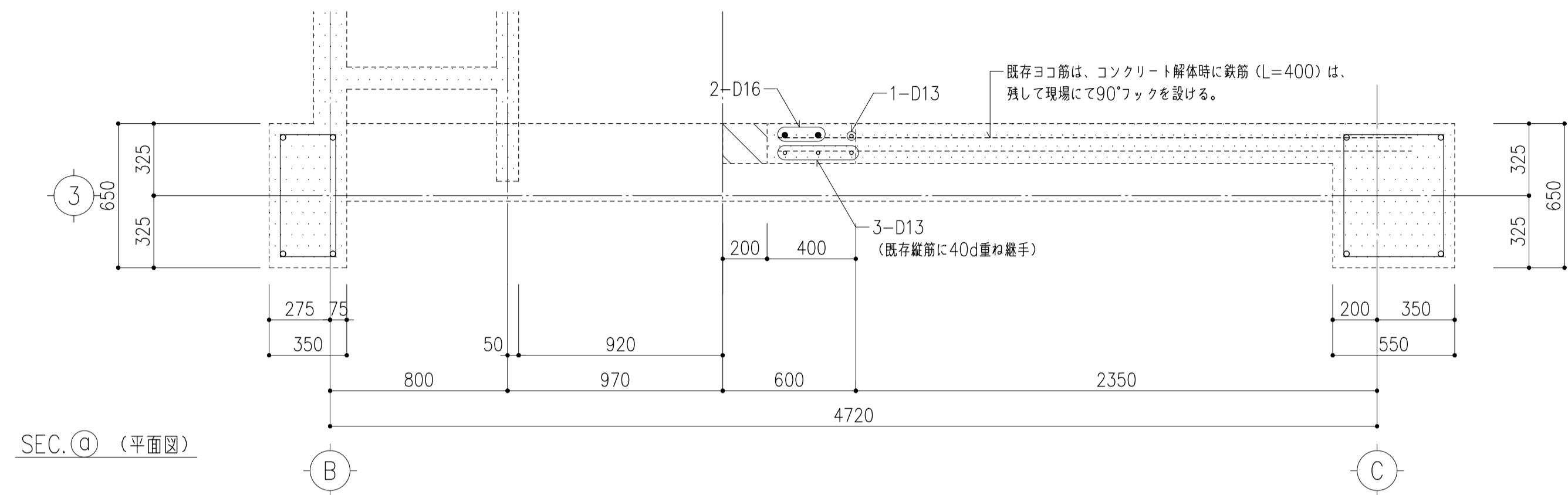
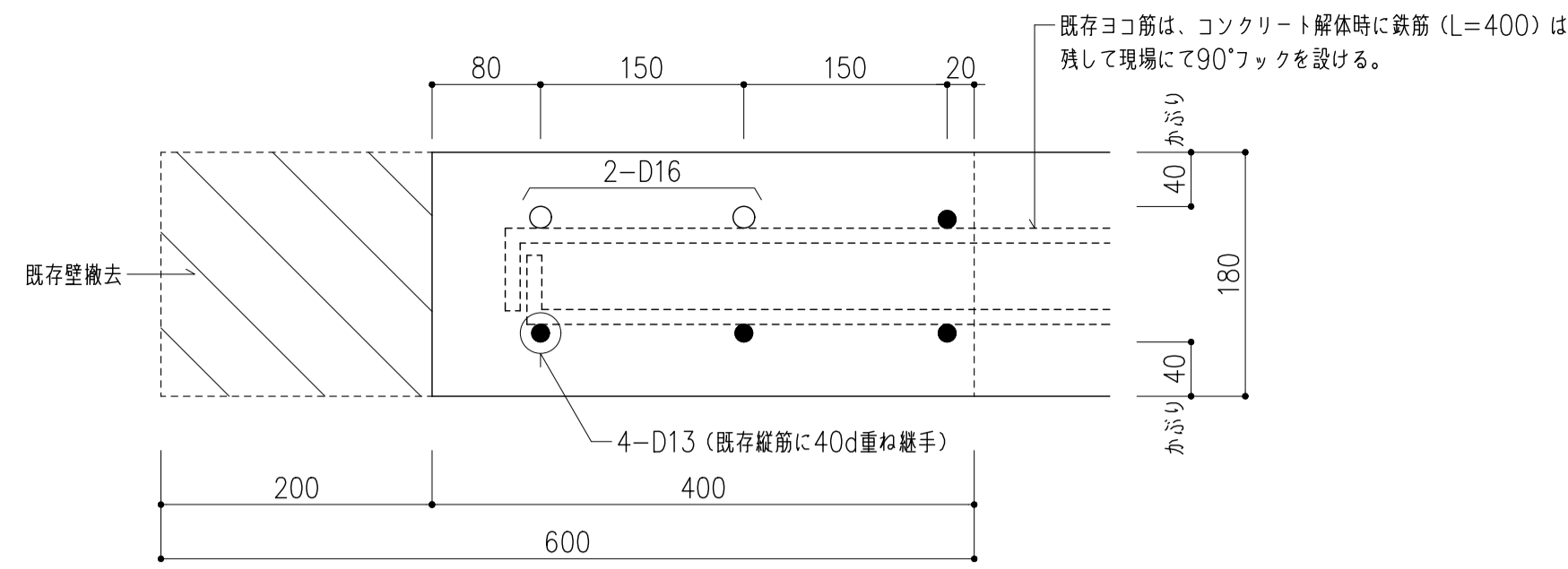
既存壁開口心さき部配筋図 (断面図)
 * 2階, 3階は (c), (e) 通り側の開口も (2), (5) 通り側と同様に開口閉塞とする。



SEC. (c) (断面図)

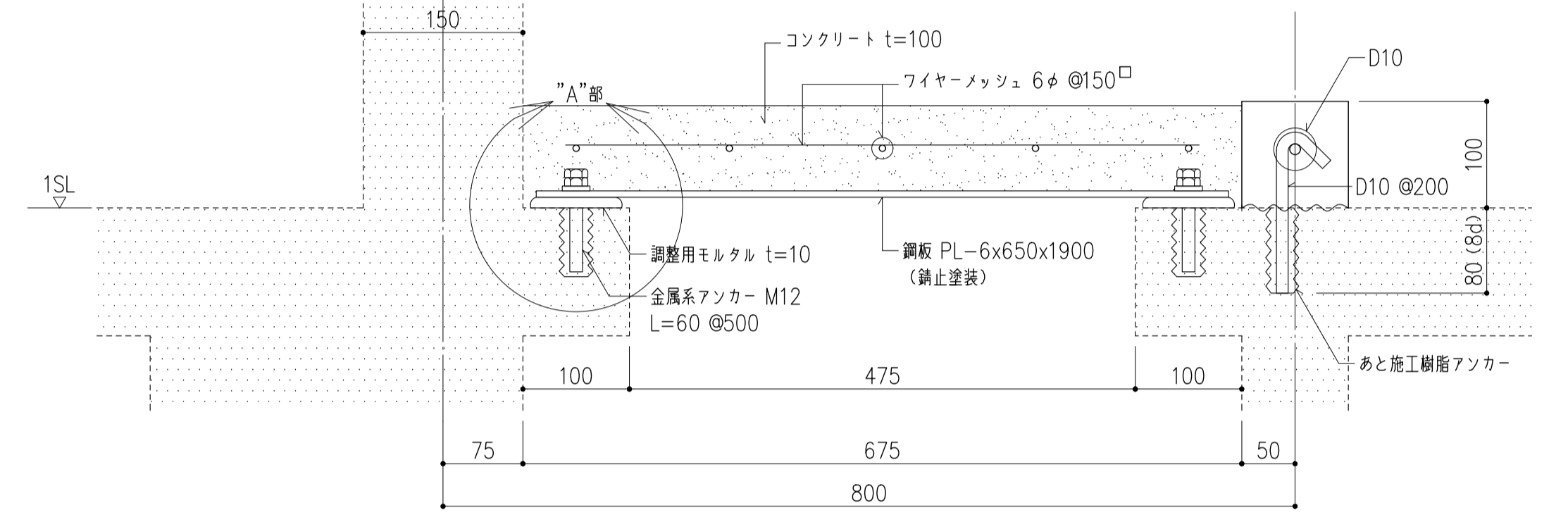
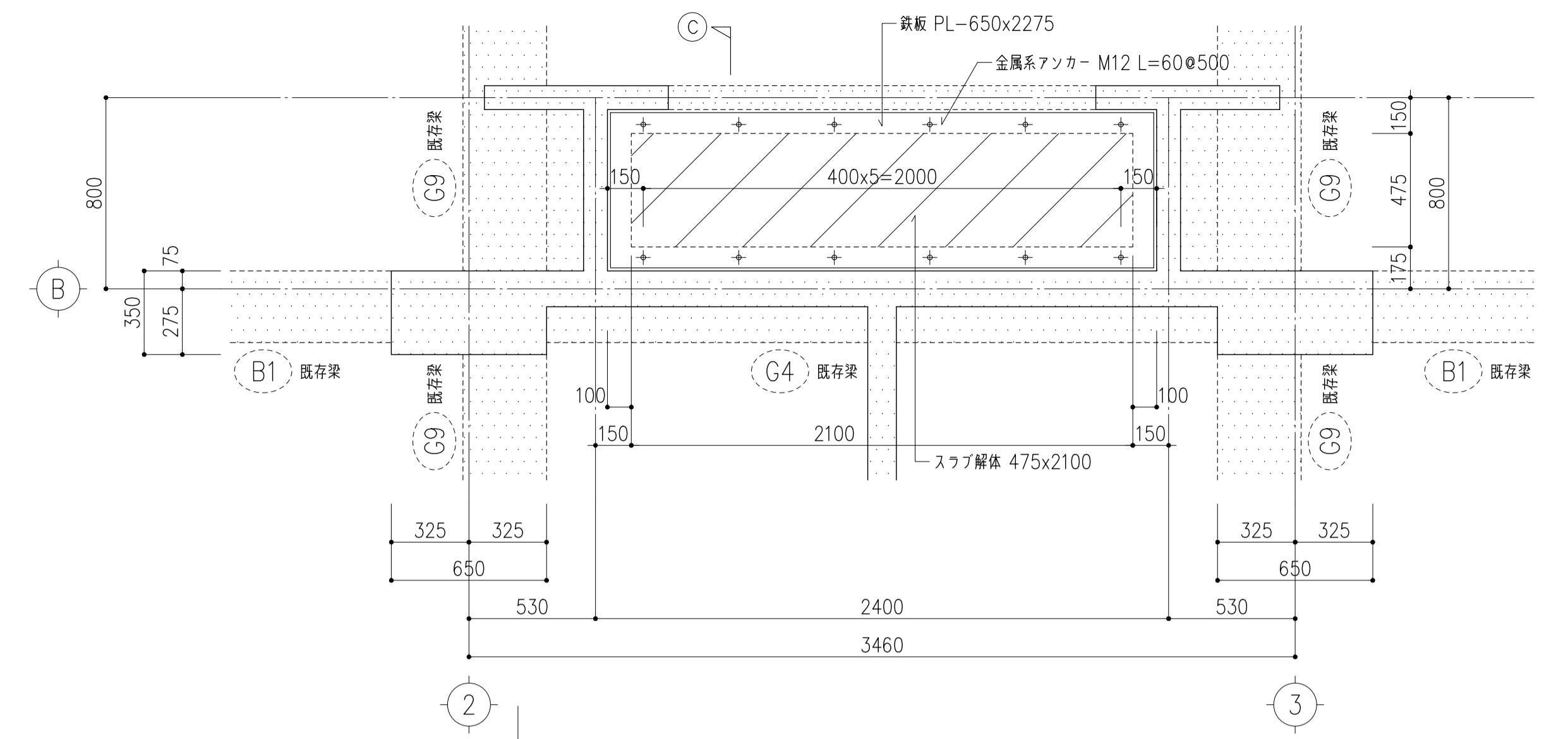
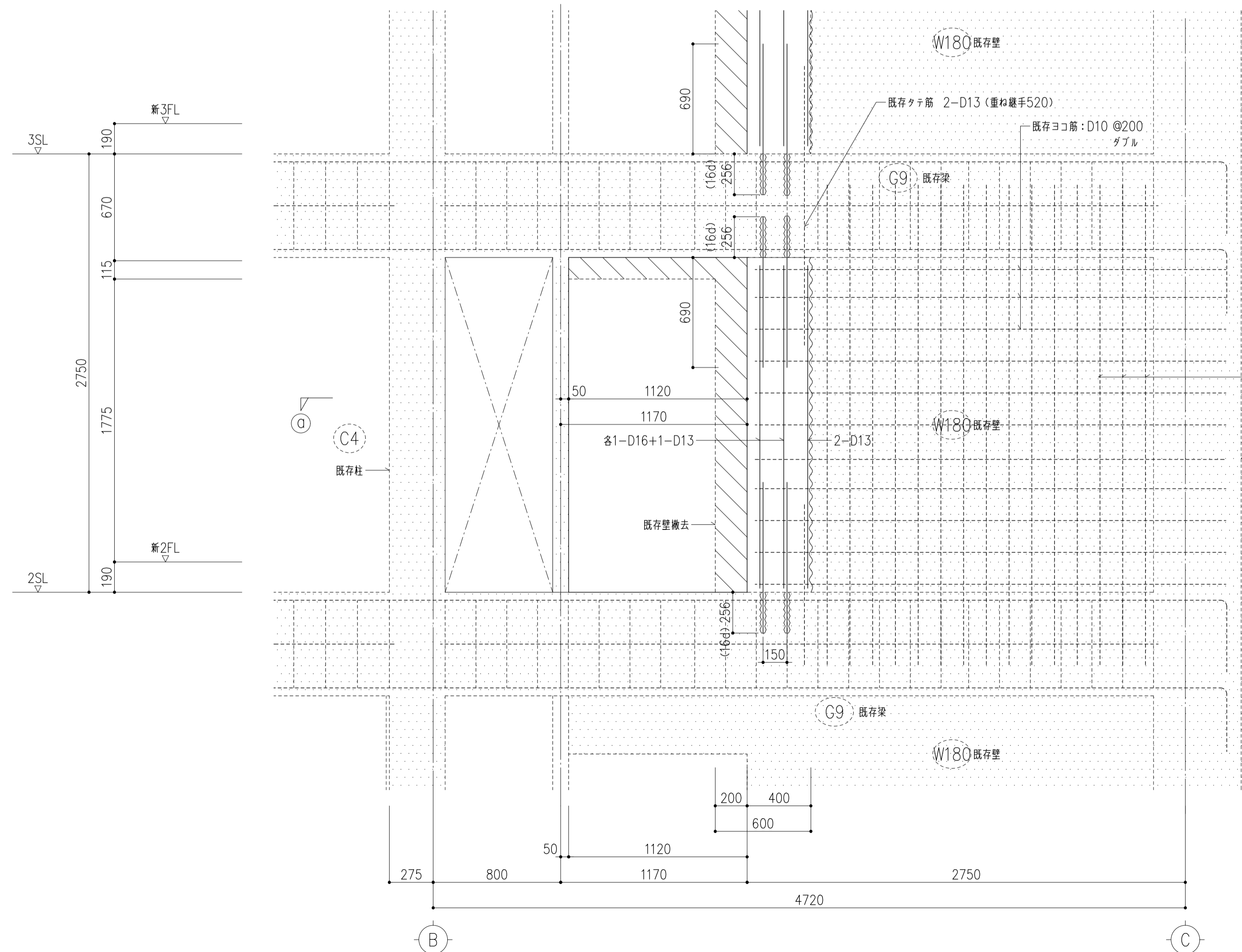
SEC. (d) (断面図)

SEC. (e) (断面図)

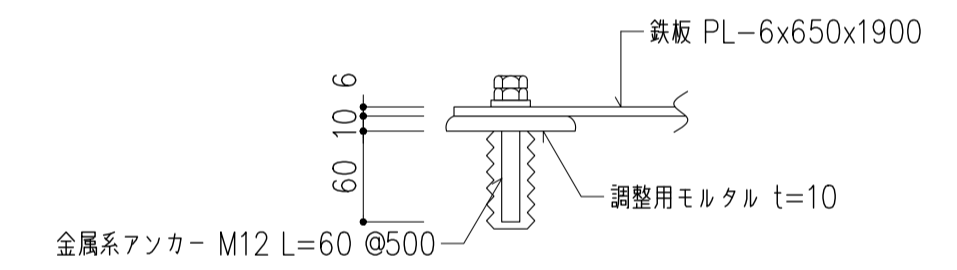


SEC. (A) (平面図)

b

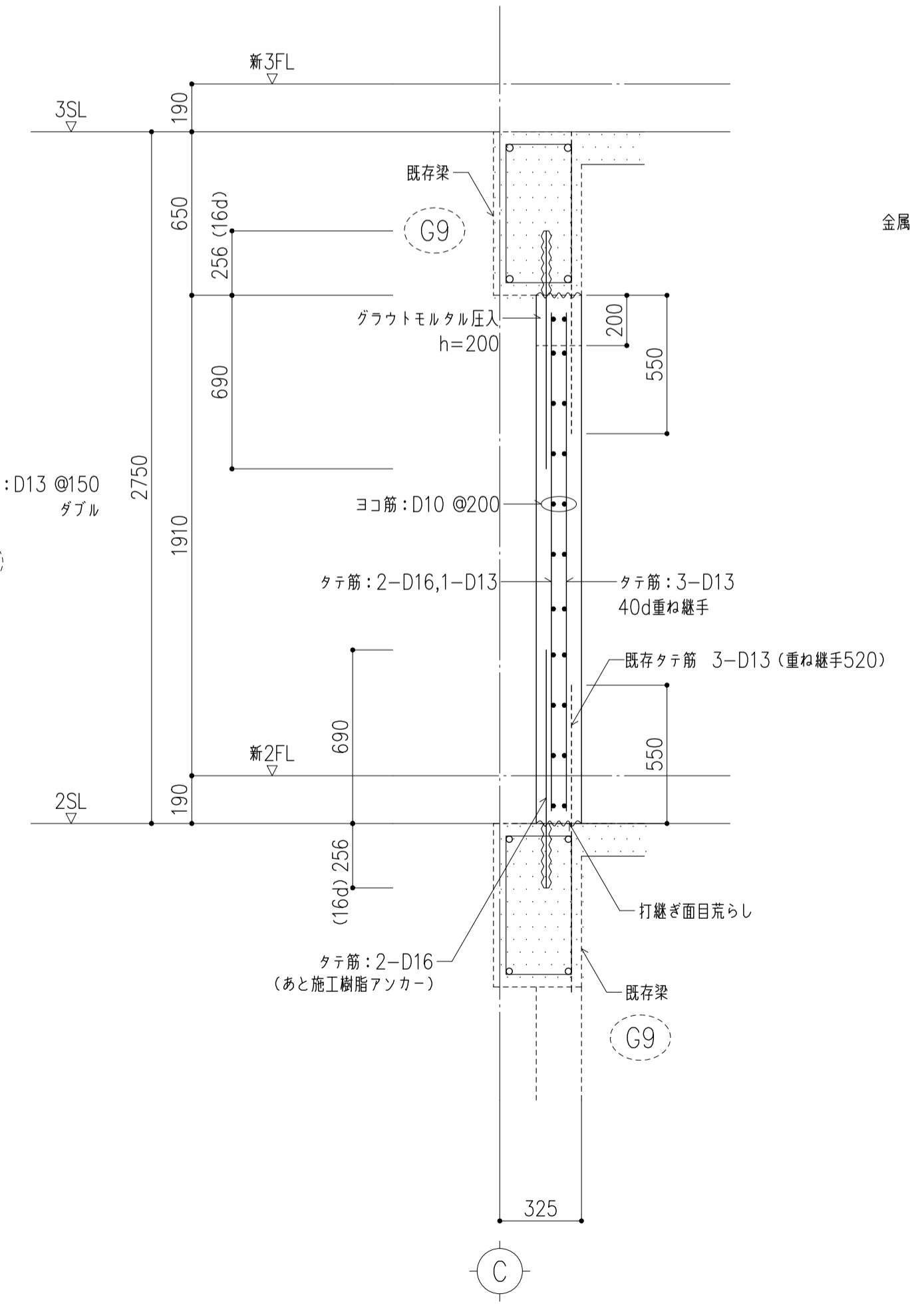
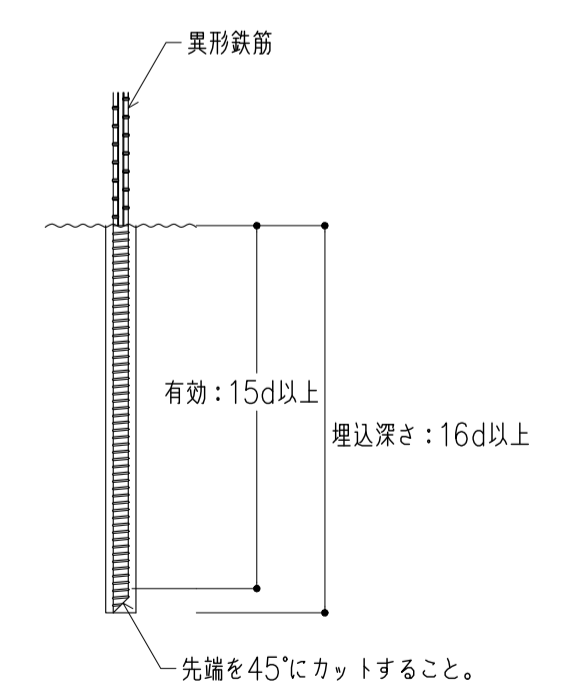


SEC. (C) (断面)

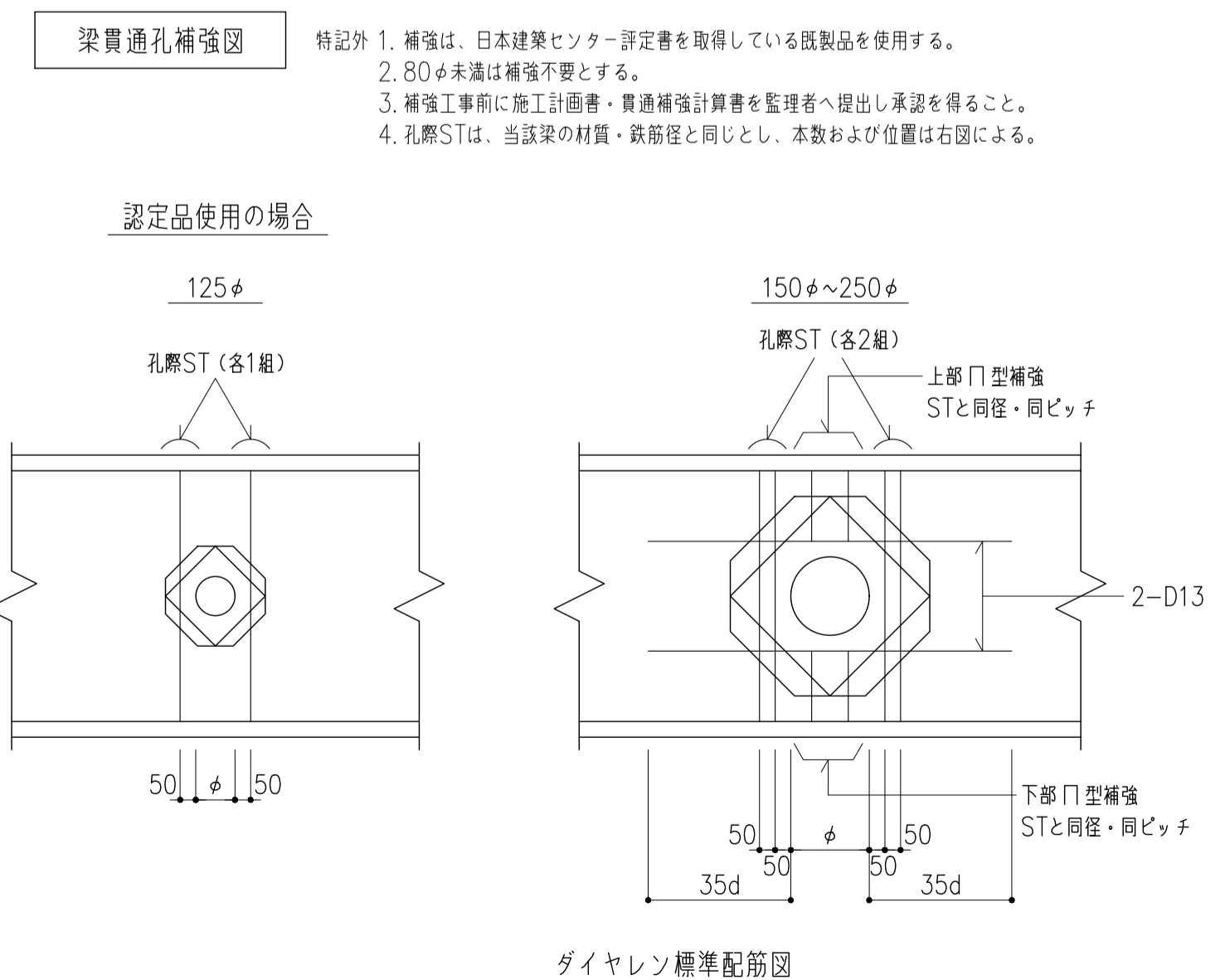
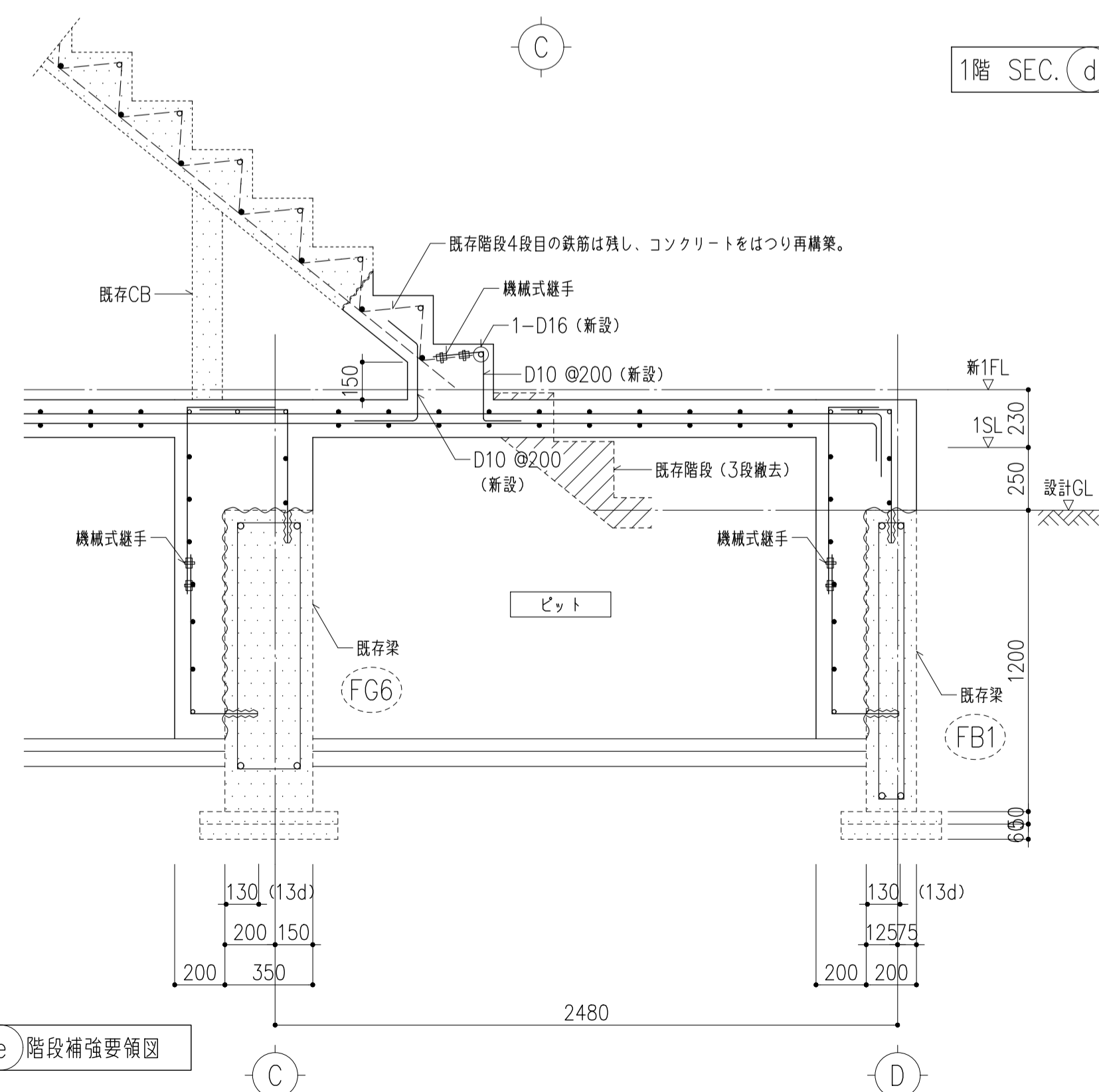
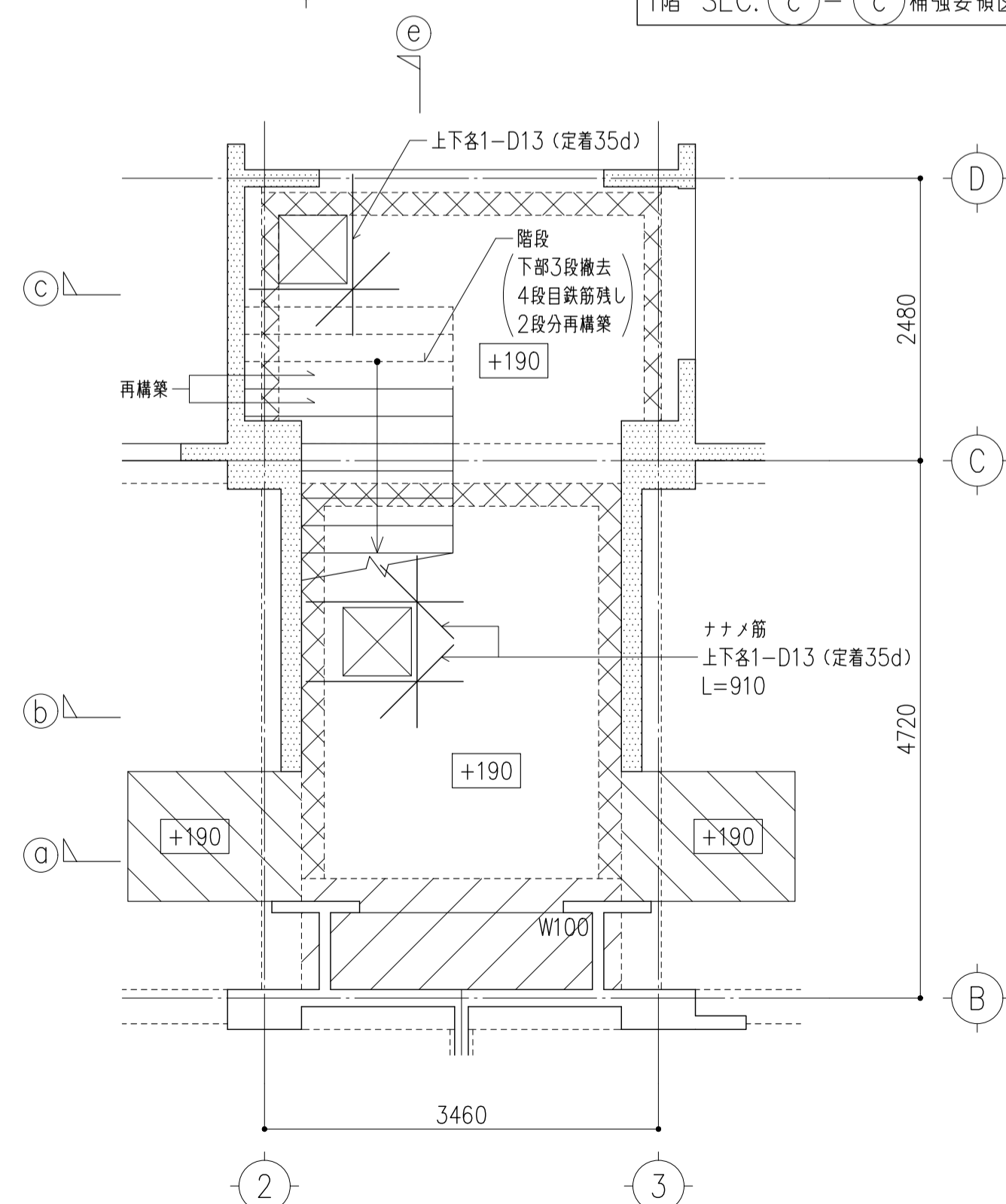
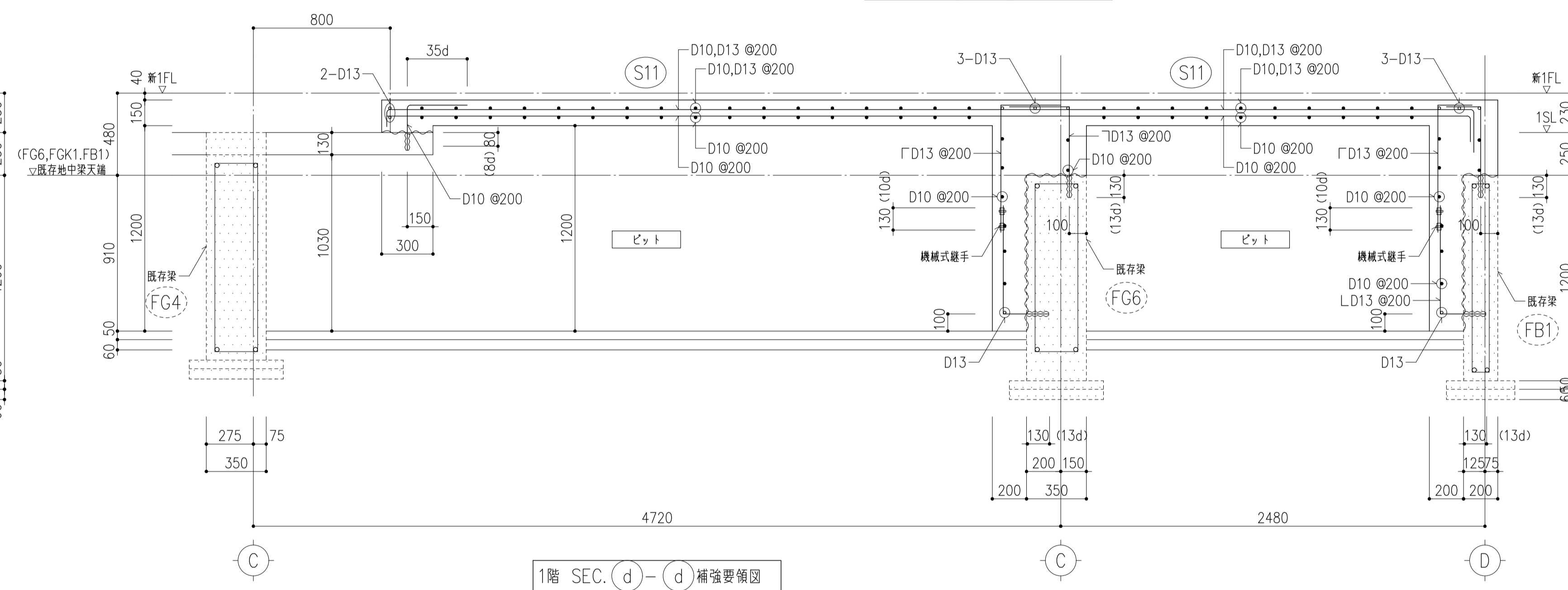
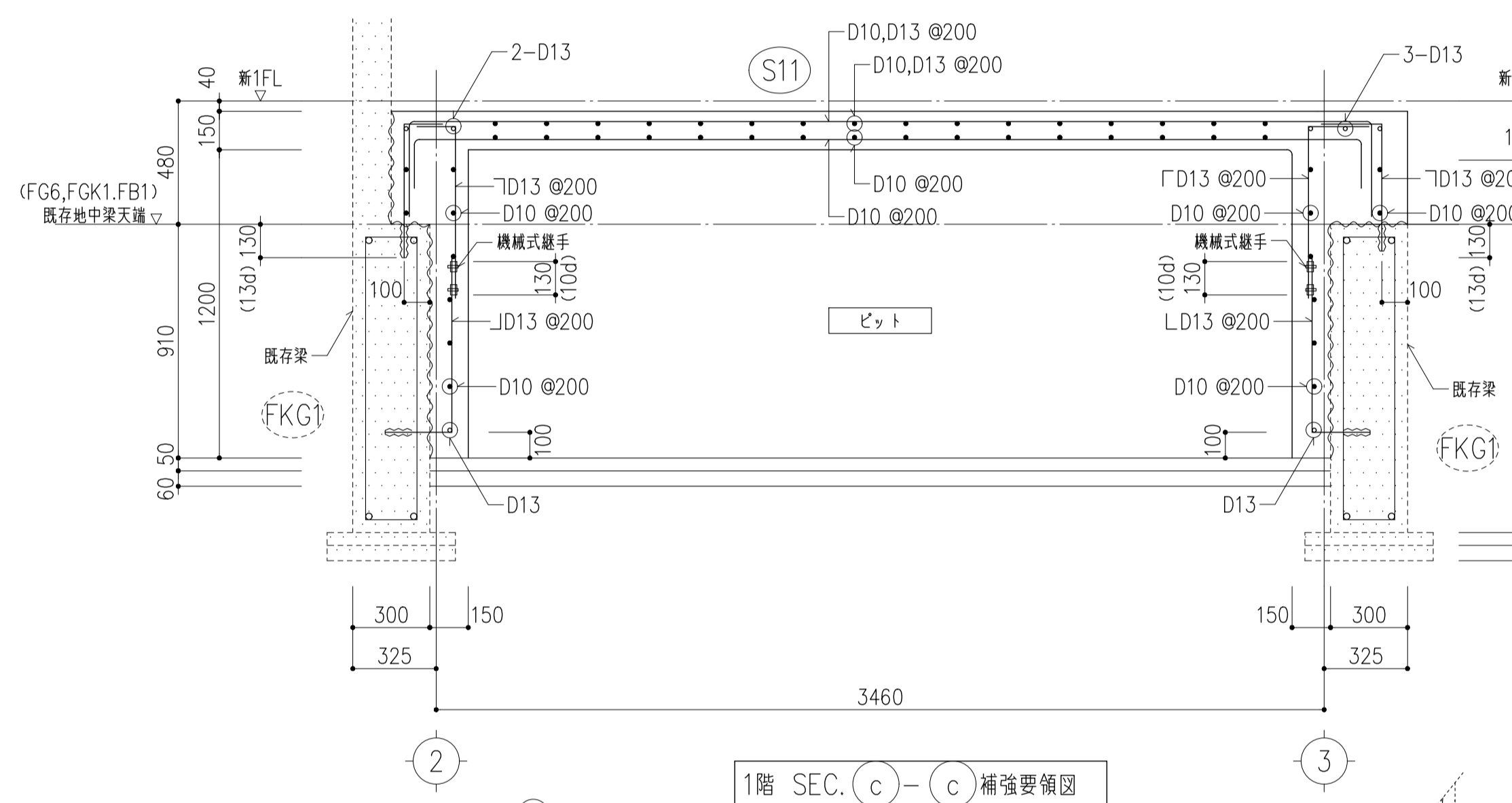
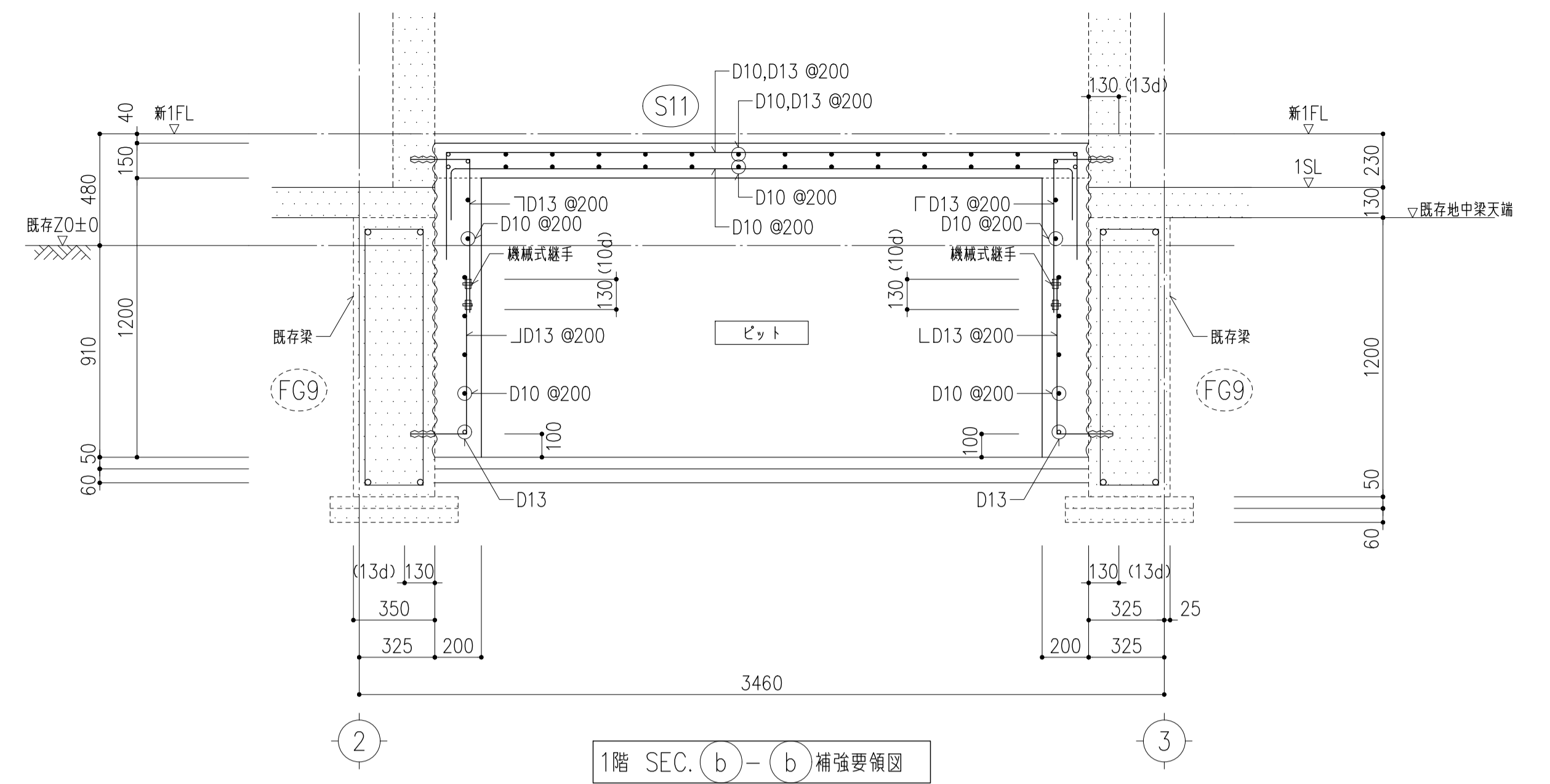
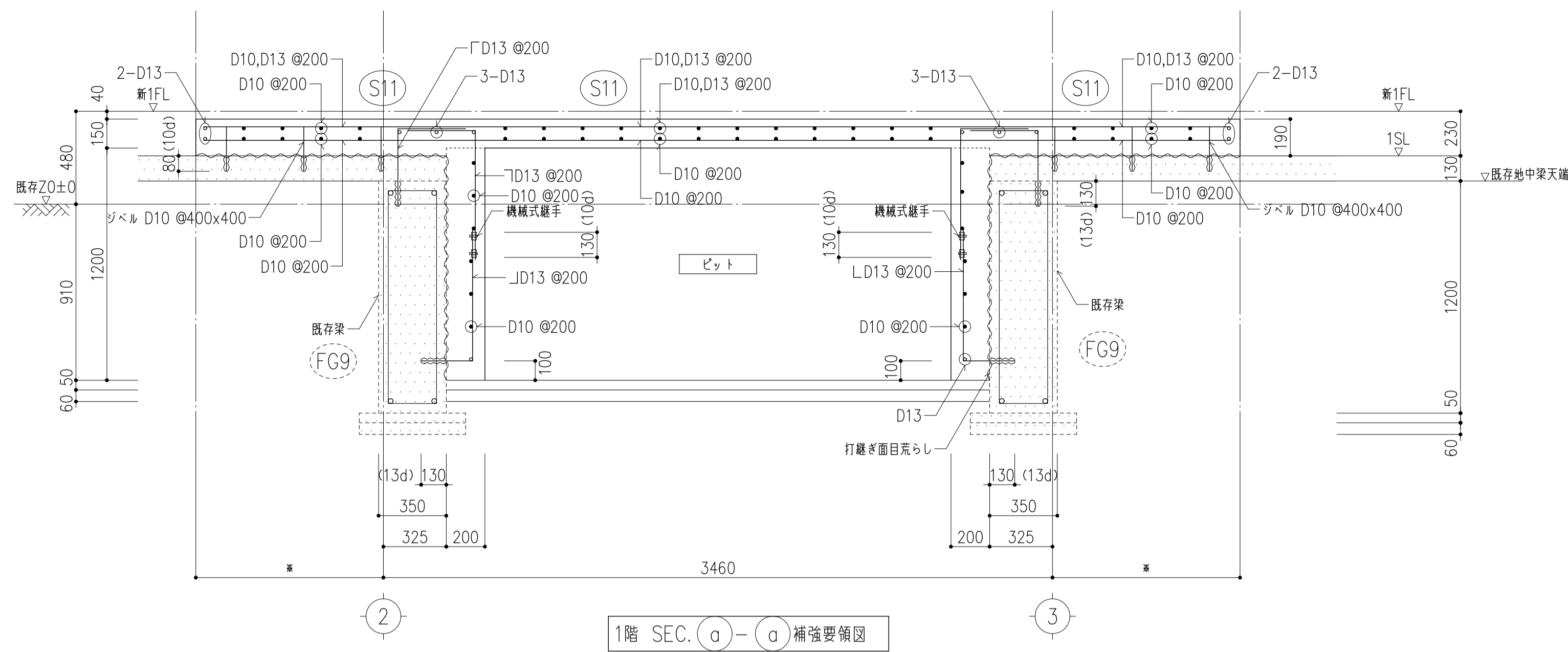


"A"部詳細図

あと施工樹脂アンカー
 「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針・同解説」に基づいた製品を使用すること。
 埋込み深さ：樹脂系16d以上（有効埋込深さ15d以上）
 プロフェーマー（鉄筋探査機）にて主筋・帯筋位置を確認後施工すること。



SEC. (B) (断面図)



特記外 1. 補強は、日本建築センター評定書を取得している既製品を使用する。
 2. 80φ未満は補強不要とする。
 3. 補強工事前に施工計画書・費適補強計算書を監理者へ提出し承認を得ること。
 4. 孔部STは、当該梁の材質・鉄筋径と同じとし、本数および位置は右図による。

認定品使用の場合

ダイヤレン標準配筋図